

平成 29 年 度  
事 業 報 告 書

祥風会 法人本部

飛羽ノ園 特別養護老人ホーム  
デイサービスセンター指定通所介護事業所  
指定居宅介護支援事業所  
土浦市在宅介護支援センター

憩いの里 特別養護老人ホーム  
デイサービスセンター指定通所介護事業所  
指定居宅介護支援事業所  
土浦市在宅介護支援センター

飛羽ノ園デイサービスながみね  
土浦市ふれあいセンターながみね

社会福祉法人祥風会 本部  
〒300-0823 茨城県土浦市小松 1-3-33 ハトリビル 6 階  
TEL : 029-896-3520 / FAX : 029-896-3522

祥風会	理事長	羽鳥	圭一
研修室	室長	河田	輝子
飛羽ノ園	施設長	和田	宏一
憩いの里	施設長	村山	直希
ながみね	管理者	沼尻	知士

<目次>

祥風会本部 P1~8



社会福祉を目的とする事業に従事する者の養成及び研修事業 P1~2



特別養護老人ホーム飛羽ノ園 P1~18  
特別養護老人ホーム飛羽ノ園・とわ P19~26  
飛羽ノ園デイサービスセンター P27~37  
飛羽ノ園指定居宅介護支援事業所 P38~42  
土浦市在宅介護支援センター P43~47



特別養護老人ホーム憩いの里 P1~26  
デイサービス憩いの里 P27~35  
支援センター憩いの里 P36~40  
土浦市在宅介護支援センター P41~43



飛羽ノ園デイサービスながみね P1~11  
土浦市ふれあいセンターながみね P12~21

## 平成 29 年度 社会福祉法人祥風会 法人本部経営報告

### 1. 法人事業活動状況

#### ①施設関連

「飛羽ノ園」は昨年の経年劣化による大規模修繕（外壁塗装、本館床貼り工事、玄関周りのタイル貼り替え、デイサービス浴室改修工事）を行い、今年度は大きな修繕は見られなかったが、エレベーターの不具合や厨房機器の故障が多くなってきており今後は機器の入れ替え等の必要性が見込まれる。

「憩いの里」は機械浴槽の入れ替えやゴーヤによるグリーンカーテン、井戸水の活用による光熱水費等の経費削減に努めた。今後は経年劣化により、機械設備等の不具合やエアマット、ベッド、車いす等の福祉機器の不具合が目立ってきたことによる入れ替え等が必要と見込まれる。

「ながみね」は、プール空調設備の故障、自動ドアの不具合の修繕等を行った。定期送迎・団体送迎を業務委託していたが、市から貸与していた大型バスを返却し、新たに普通免許で運転できる車両に入れ替え、非常勤職員の採用を行い、次年度より祥風会での業務としての準備を行った。

#### ②IT の活用

WEB カメラシステムの導入により、本部と各施設長間の報連相がスムーズになった。

ネットバンキングによる、利用料の口座振替は施設間に登録者数の開きがあり、現金での受け取りを最小限に抑えていけるように継続して利用者・家族への理解を求めている。

#### ③経営の透明性の確保

昨年度は行事等のホームページ更新があまりスムーズに行えていなかったが、担当職員に更新の重要性を説明することで法人として公開すべき項目を意識的に更新することができた。求職者の面接の際に「ホームページを事前に見たか？」の確認をすると多数の求職者が事前に施設の雰囲気を知るために閲覧しており、人材確保にも繋げることができた。

#### ④人材確保・育成・管理

就職説明会への参加やホームページのスムーズな更新により、折込等の広告費の削減や人材紹介会社からの採用数もゼロとなり手数料も減少することができた。適正検査や性格検査は導入に至れなかったが入職後に定期的な面談を行い、入職して間もない職員の退職数は減少した。

昨年度は他法人施設での研修を実施できたが今年度は実施できなかった。また、各施設でも介護職のみならず相談職、事務職も定期的な異動を行い組織の活性化を行う必要性が感じられた。

#### 【各種規程の作成、変更】

- ・平成 29 年 4 月に就業規則の変更（有給休暇の付与時期・花 1 基・土浦市ふれあいセンターながみねのシフト追加）、給与規定の変更（オンコール手当・送迎手当）
- ・平成 29 年 10 月の育児・介護休業法の改正に伴う育児・介護休業規程の変更（育休延長）

#### 【総括】

今年度は法人、飛羽ノ園、憩いの里の現地指導、一般検査の年であったが大きな指摘事項もなく適切な運営に取り組めていることが確認できた。今後も透明性を確保しつつ施設利用者が安心・安全に利用できる施設運営をしていきたい。

## 2. 事業内容

\*祥風会設立認可・・・平成元年 6 月 26 日

\*創立登記・・・平成元年 6 月 27 日

\*理事長 羽鳥圭一 就任年月日・・・平成 21 年 8 月 10 日

\*土浦市小松 1-3-33 ハトリビル 6 階(平成 24 年 12 月に移転)

介護職員初任者研修事業申請(平成 26 年 1 月 31 日)

平成 26 年 2 月 14 日指定(指定番号 45)

事業所名		所在地	事業開始年月日	介護保険指定日	事業所番号
飛羽ノ園	特別養護老人ホーム飛羽ノ園	茨城県 土浦市小松 3-18-18	平成 3 年 5 月 31 日	平成 12 年 3 月 10 日	0870300241
	特別養護老人ホーム飛羽ノ園・とわ		平成 24 年 4 月 1 日	平成 24 年 4 月 1 日	0890300106
	短期入所生活介護支援事業所		平成 3 年 5 月 31 日	平成 12 年 3 月 10 日	0870300241
	飛羽ノ園デイサービス		平成 3 年 5 月 31 日	平成 12 年 3 月 10 日	0870300431
	土浦市在宅介護支援センター		平成 6 年 8 月 17 日	/	
	飛羽ノ園居宅介護支援事業所		平成 11 年 11 月 30 日	平成 11 年 11 月 30 日	0870300175
ながみね (指定管理)	飛羽ノ園デイサービスながみね	茨城県 土浦市中村西根 2078-1	平成 15 年 6 月 1 日	平成 15 年 5 月 29 日	0870300811
	土浦市ふれあいセンター		平成 23 年 4 月 1 日	/	
憩いの里	特別養護老人ホーム憩いの里	茨城県 土浦市高岡 2315	平成 17 年 9 月 25 日	平成 17 年 9 月 25 日	0873900765
	短期入所生活介護支援事業所		平成 26 年 4 月 1 日 (増床 20 床)		
	デイサービス憩いの里		平成 17 年 9 月 25 日	平成 17 年 9 月 25 日	0873900765
	土浦市在宅介護支援センター		平成 17 年 9 月 25 日	平成 17 年 9 月 25 日	0873900740
	支援センター憩いの里 (居宅介護支援事業所)		平成 19 年 4 月 1 日	/	
			平成 17 年 9 月 25 日	平成 17 年 9 月 25 日	0873900757

※詳細は介護職員初任者研修事業報告書に記載

### 3. 評議員会・理事会開催状況

第1回旧理事会	平成29年5月30日(火)法人本部にて 11:00~12:00	出席者9名
第1号議案	平成28年度決算報告書(案)	
第2号議案	平成28年度事業報告書(案)	
第1回新評議員会	平成29年6月15日(木)よし町にて 18:00~18:20	出席者8名
第1号議案	新理事・新監事選任について	
第2号議案	平成28年度事業報告書(案)	
第3号議案	平成28年度決算報告書(案)	
第1回新理事会	平成29年6月15日(木)よし町にて 18:20~18:30	出席者7名
第1号議案	理事長選任について	
第2回理事会(書面表決)	平成29年11月30日(木)	理事7名・監事2名
第1号議案	デイサービスながみね・土浦市ふれあいセンターながみね管理者任免について	
第2号議案	就業規則の変更について(育児・介護休業規程)	
第3回理事会	平成30年3月8日(木)法人本部にて 18:30~21:00	出席者8名
報告事項1	桜川保育所移管先事業所としての応募について	
報告事項2	社会福祉法人京悠会 農福連携事業への出資について	
第1号議案	平成30年度 事業計画書(案)	
第2号議案	平成30年度 当初予算書(案)	
第3号議案	定款変更について	
第2回評議員会	平成30年3月14日(水)法人本部にて 11:00~12:20	出席者5名
報告事項1	桜川保育所移管先事業所としての応募について	
報告事項2	社会福祉法人京悠会 農福連携事業への出資について	
第1号議案	平成30年度 事業計画書(案)	
第2号議案	平成30年度 当初予算書(案)	
第3号議案	定款変更について	

旧理事 (8名)

羽鳥 圭一、羽鳥 栄子、岡田 司、増山 栄、今高 國夫、君山 毅、高橋 敏夫、河田 輝子

新理事 (7名)

羽鳥 圭一、羽鳥 栄子、増山 栄、今高 國夫、富島 裕、河田 輝子、和田 宏一

旧評議員 (14名)

羽鳥 圭一、羽鳥 栄子、岡田 司、増山 栄、今高 國夫、君山 毅、高橋 敏夫、宮崎 三弘、島田 源

高野 久、竹若 栄吾郎、物江 学、説田 賢哉、桐島 浩子

新評議員 (9名)

君山 毅、高橋 敏夫、宮崎 三弘、島田 源、高野 久、竹若 栄吾郎、物江 学、中根 祐一、桐島 浩子

#### 4. 監事監査の実施状況

平成 29 年 5 月 16 日 (火) 法人本部にて

理事の業務執行状況……適正である

法人の財産管理状況……適正である

法人・施設の業務執行状況……適正である

法人・施設の会計状況……適正である

旧監事 (2 名)

仲田 秀治、鈴木 茂輝

新監事 (2 名)

仲田 秀治、説田 賢哉

#### 5. 職員状況

<入職者数一覧> ※単位=人

施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
飛羽ノ園	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	6
憩いの里	3	1	0	3	1	2	0	1	0	0	2	1	14
ながみね・ふれあい	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
本部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
													24

<退職者数一覧> ※単位=人

施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
飛羽ノ園	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
憩いの里	1	1	0	2	2	0	0	0	2	2	1	3	14
ながみね・ふれあい	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
本部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
													20

<離職率一覧>

施設名	離職率
飛羽ノ園	7%
憩いの里	19%
ながみね・ふれあい	10%
本部	0%

※離職率(%) = 当期間内の離職者数 ÷ 当期首の在籍者数 × 100

<募集媒体一覧> 単位:人

媒体	採用
新聞折込	4
インターネット	2
祥風会 HP	2
ハローワーク	4
人材紹介	2
職員紹介	1
フリーペーパー	2
再入職	3
企業説明会	1
初任者研修	3
合計	24

6. 研修・講習・交流会状況

①内部研修

日・曜日・時間	研修名・対象者	参加者(名)	講師等
4月4日(火) 10:00~15:00	祥風会概要・職員として 高齢者の身近な相談窓口 新人・中途採用者	8	講師：拠点別相談員及び管理者 土浦市出前講座：小野氏・坂井氏
内容：各部署の業務内容・利用者に対し相手に伝わる声掛け、微笑み温もりのある介護提供について ・地域包括支援センター、在宅介護支援センター、地区コミュニティセンターについて 感想：法人内、3拠点、各部署に関して理解を深められた。			
5月19日(火) 11:00~12:00	話してみよう(事例検討) 介護支援専門員	9	講師：椎名法人総括ケアマネジャー
内容：近況報告と事例検討を通しての情報共有 感想：自分の考えに固執してしまう。皆で話し合うことにより多角的な意見が交換出来、見落としていた大事な着眼点に気付かされた。			
5月19日(火) 13:00~15:00	各科目の到達目標・評価・内容 介護職員初任者研修講師	8	講師：河田
内容：全教科指導目標の冊子を作成。一人1教科ではなく複数教科の指導を行う協力を要請(3科目) 感想：会話し易い雰囲気、それぞれが抱えていた不安や疑問が解消されたと思う。			
6月13日(火) 11:00~13:00	ニコニコ献立 栄養士	4	飛羽ノ園会議室
内容：各拠点の納涼祭、敬老祝賀会の日時確認。近況報告。 工夫点：肉類に酵素を使用して食べ易い硬さを確保する。ペースト食に写真やイラストの活用を提案。			
6月13日(火)	高齢者の食生活と栄養	11	飛羽ノ園会議室

13:00~15:00	全職員		講師：関管理栄養士
<p>内容：食べられなくなったら体力低下、楽しみもない。適切なアセスメントから栄養改善に繋げる。 感想：栄養状態のリスク等について学べた。現場に戻りもう一度見直して食事介助に取り組みたい。</p>			
7月12日（水） 10:00~12:00	リーダーと医務室 看護職員・主任	9	講師：河田
<p>内容：看取り期に関しての体制作りの為には、嘱託医、管理者、生活相談員及び施設ケアマネジャー、看護職員、栄養士、リハビリ担当、事務職員の役割分担として望むこと等についてグループワークを行う。 感想：尊厳について見直せた。どんな関わり方をしていくか等改めて学べた。現在、出来ている点や出来ない点の話しもあり良かった。</p>			
9月12日（火） 13:00~15:00	最新福祉用具展示会&研修会 全職員	7	イーアスつくば パナソニックエイジフリー
<p>内容：本人の条件に見合った福祉用具の選定からベッドの離床、車椅子への移乗実技指導。 感想：車椅子の座る位置や事故防止等、普段意識をしなければならない所を細かく知ることが出来た。立ち上がり、座り方、移乗等再確認出来た。環境が変わり話しが入りやすい。短時間に研修会場に来てとても良い。各メーカーの商品を実際に手に取り特徴等理解を深められた。</p>			
10月20日（金） 13:00~15:00	人事考課評価者の姿勢 中堅職員	10	介護労働安定センター 講師：奥平氏
<p>内容：目標管理制度と評価法 感想：公平な評価をする際のエラーについて大変参考になった。面接のあり方についてどこにポイントを置くべきか専門的なことを学べた。</p>			
11月7日（水） 11:00~13:00	ニコニコ献立 栄養士	4	ふれあいセンター会議室
<p>内容：各拠点のクリスマス会、餅つき、正月式日時確認。近況報告。 工夫点：・飛羽ノ園地域密着型での月1回手作り料理の日に関して入居者高齢化の為、職員主導になっているがその日の残渣物が少ない。ながみねデイのおやつ教室や採り立て野菜のサラダが好評（クッキーの生地を混ぜていただく。夏野菜の収穫等参加型）憩いの里のおやつに焼き芋屋台登場、利用者より懐かしい、美味しいの音が聞かれた。</p>			
11月22日（水） 11:00~12:00	課題整理総括表の活用 介護支援専門員	6	講師：椎名法人総括ケアマネジャー
<p>内容：ケアマネジャーの資質向上と今後のあり方に関して。ケアプランに位置づけたサービスについて、短期目標に対する達成度合いを評価し、効果的なケアプランの見直しを行う。随時状態等を把握し、情報の整理・分析を通じて課題を導き出した過程について他職種協働の場面等で説明する際に適切な情報共有に「課題整理総括表」を活用する。 感想：サービス担当者が原案を提示するが、一人の意見で決定することに疑問があった。総括表を使用することで他職種の意見を伺える。ケアマネジャーの資質を問われることが多いのでレベルアップが必要。記録することが増えるが時間配分を調整しながら総括表の作成に取り組む。</p>			
11月22日（水）	一緒に考えよう対策と行動	10	憩いの里会議室



13:00～15:00	全職員		講師：河田・宮本・矢島
<p>内容：老化によるこころとからだの変化の観察ポイント・感染症の基礎知識・ノロウイルス・褥瘡・インフルエンザの感染経路、感染予防対策、罹患後の対策。</p> <p>感想：吐瀉物の処理に新聞紙を使用していたが、不適切だったと解った。スタンダードプリコーションが全ての感染予防策に繋がる。励行したい。インフルエンザの予防接種を行えば罹らないと思っ込んでいた。換気することやセーフコールでの手すり、ドアノブの清掃等続けていきたい。</p>			
12月20日(水) 13:00～14:30	事業計画書と連動した課題抽出 各部署リーダー	5	講師：河田
<p>内容：事業計画書は、何のため、誰のために作成するのか？自分の部署の特性を把握した上で、重点目標をトップダウンしてもらおうのを待つのではなく、現場ワーカーサイドから作り上げていく。議論する。見直しをする。現場の意見を取り入れる。新たな気付きの目を持つ。</p> <p>感想：私にとっては初めてのことであり、役立てられると思う。じっくり考える時間が持てた。今年度の実績を振り返り、課題を取り上げるきっかけになった。</p>			
1月19日(金) 13:00～14:30	事業計画書と連動した予算案 各部署リーダー	5	講師：和田・松本・河田
<p>内容：文書化された計画を実現するための予算管理を行う。3拠点の水道、電気、ガス使用量の比較等。</p> <p>感想：現場でどの位のコストが掛かっているか等、普段係ることのない部分を知れて勉強になった。実際、見てみないと分からない数字もあり参考になった。収益等が少しだけ分かった。</p>			
2月20日(火) 13:00～14:30	みんなで考えよう 職員の輝く組織 全職種	7	介護労働安定センター 講師：奥平氏
<p>内容：感情労働と呼ばれる現場で価値観や性格の相違がみられる職員が、どの様に行動して行くことが重要かを職種やポジションに関係なく一緒に考えてみる。</p> <p>感想：感情労働等知らない事が学べて良かった。感情労働は、負のイメージしかなかったので詳しく知ることが出来て良かった。自分の知らなかったことはもちろんだが、知っていてもその意味を深く考えてなかった。いろんな人の意見を聞いて、日々気持ちよく仕事をしていきたい。</p>			
研修回数 14回		参加人数(延) 103名	

OJT等を通して学んで来た知識や情報をアウトプットしてもらおう場を設けた。今年度は、管理栄養士と看護職員に焦点を当てた。日常業務では、互いに連携を深めなければならない立場にありながらも日々の業務に追われる現場では伝えることの出来ない知識を講義してもらった。

6月の管理栄養士から高齢者の低栄養の要因やフレイルティ、サルコペニア等の講義では、知らない言葉があったが、栄養マネジメントを通し多くのことを吸収出来たとの感想があった。

7月には、看護職員から看取り期に関してグループワークで職種毎の役割について確認した上で看護側・介護側の意見や想いを話し合った。それぞれの現場で看取り期について話し合う土台となつたであろうと思われる。又、11月には、スタンダードプリコーションからインフルエンザ・ノロウイルス・疥癬・褥瘡について講義してもらった。吐瀉物の処理はどうすれば良いのか？予防接種を受けたのに感染してしまうのは、なぜか？等様々な質問があった。最優先されることは、罹患しない予防策を徹底して

行くとの認識を深めた研修であった。

9月には、イーアスつくばで行われた最新福祉用具展示会&研修会に参加した。ケアマネジャー6名と現場職員6名の参加者からは、「ホットな情報や他法人福祉関係者との交流等充実した時間であった。」「福祉機器を活用した安心・安全な介護環境を整えて行かなくては」等の声があった。

今年度も社会福祉援助実践の多くを担っている現場職員と共に学び、考えさせられた1年であった。

## ②外部研修

年月日	研修名	研修場所	参加人数
平成29年6月15日	労務トラブルセミナー	つくば研究支援センター	3
平成29年7月25日	働き方改革について学ぶ	つくばウェルネスパーク	2
平成29年8月4日	採用&教育&定着の手法セミナー	筑波銀行 本部ビル	2
平成29年8月29日	施設長・管理者勉強会	茨城県総合福祉会館	2
平成29年9月26日	働き方改革いばらきセミナー	茨城県立県民文化センター	2
平成30年1月16日	採用力向上セミナー	県南生涯学習センター	1
平成30年1月30日	平成29年度社会福祉法人経営改善支援研修会	茨城県総合福祉会館	1
平成30年2月9日	平成29年度公正採用等人権啓発研修	ひたちなか市文化会館	2
平成30年2月14日	障害者雇用納付金制度説明会	ワークヒル土浦	1
平成30年3月12日	応研 福祉大臣決算セミナー	茨城県開発公社ビル	1
合計			17

## 平成 29 年度 介護職員初任者研修

### 1. 事業活動方針

介護サービスの利用者は、身体機能低下から現場での数々のアクシデントが想定される。発生時の介護者の初動対応の重要性から緊急時における対応方法に力を入れた。又、地域ケアシステム構築上の社会や環境の変動により家族を含めた利用者の多様な要望に応じて行く時、介護者自身の心身が健康でなければならない。心身共に健康で感謝の気持ちを持って笑顔が維持できる能力を養っていく力、職場環境を考慮し行動出来る力の指導に尽くした。

### 2. 事業内容

介護業務に従事しようとする者を対象に介護知識習得のための養成研修を行った。既に近隣の法人事業所に従事している受講生が多かった。自らが将来介護対象者となった場合を想定して介護側（妻や娘）に負担を掛けないために学びたいという方がいた。

開催	受講者（名）	修了試験合格者（名）
第 1 回	11	11
第 2 回	5	4
第 3 回	20	20
第 4 回	15	14
合計	51	49

これから介護に役立てようとしたが、家族の喪失体験により自主退講が 2 名いた。

### 3. 実施場所

- ・社会福祉法人祥風会本部研修室（講義・演習）茨城県土浦市小松 1-3-33 ハトリビル 6F
- ・特別養護老人ホーム飛羽ノ園（実習施設）茨城県土浦市小松 3-18-18
- ・特別養護老人ホーム憩いの里（実習施設）茨城県土浦市高岡 2315
- ・デイサービスながみね（実習施設）茨城県土浦市中村西根 2078-1

#### <施設実習>

	第 1 回（名）	第 2 回（名）	第 3 回（名）	第 4 回（名）
飛羽ノ園	3	0	1	0
憩いの里	0	0	0	0
ながみね	0	0	0	0
合計	4			

実習が必須でなくなったことで希望者が減少。施設への見学会を実施した。

	第1回 1/11 (木) (名)	第2回 3/10 (土) (名)
飛羽ノ園	6	0
憩いの里	5	0
ながみね	0	0
合計	11	

#### 4. 講師配置

科目に応じ介護福祉士、社会福祉士、社会福祉主事、介護支援専門員、看護師を配置。講師陣から4名程、実務者研修養成に関する準備段階として厚生労働省指定の実務者研修教員講習会(50時間)を受講した。

#### 5. 年齢別修了生

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
修了生(名)	3	17	5	8	11	3	2
平均年齢(才)	39.55						

※平均年齢は、実年齢で計算

#### 6. まとめ

前年より10名増の修了生を送り出した。「継続は力なり・地道にコツコツ」をモットーに邁進して来た。結果として関わった講師陣と一緒に働いてみたいという就労希望者が出て来たことは、喜ばしい限りである。又、土曜日コースに高校2年生が2名いたことで平均年齢が前年度よりも5歳程低くなった。自分への投資として学んでみてはという両親の意見があり受講に至った。この高校生達からは、演習がとても楽しく短期間で修了してしまい残念だという感想が聞かれた。演習が楽しいという事は基礎知識を習得していることが前提となるが、将来、おおいに即戦力として役立つのではと考える。古希を迎える受講生は、介護される身になった場合を想定して妻や娘の負担軽減を目指したいと言っていたが、修了後、友人の訪問介護事業所で就労するとの報告があった。様々な事情を抱えながら修了した受講生が臨む現場は、地域包括ケアシステムの構築から在宅での暮らしを優先する社会が求められている。重度化した利用者に寄り添ったサポートを担える介護職員として成長することを願いつつ指導出来た一年であった。

平成 29 年度 特別養護老人ホーム飛羽ノ園  
介護老人福祉施設・短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護  
ユニット型サテライト型地域密着型介護施設（とわ）

【1】運営（運営方針に対する報告）

1. 施設

権利擁護の視点に立ったケアの実践という目標に向け、従来・とわ共に第一として「不適切なケア」について考える機会を持つことが出来た。日頃のケアを振り返り、利用者との関わりの中での“声掛け”に注目し、安心できる言葉掛け・姿勢を心掛けて実践することが出来た。また、生活の中で個々のニーズに合わせた柔軟な対応も出来る限り工夫して対応し、生活場面のささやかな希望から外出等の希望まで叶えることが出来た。今後は突発的なニーズへの対応だけでなく、自発的に希望を伝えられずにいる入居者へも「生活での不自由さ」がないか、「言えずにいる希望」がないかを知り、サービス計画に反映できるよう、ご利用者⇄職員関係を深めていきたい。

看取りケア体制の充実については、他職種間で話し合いの場を持つ事が出来、必要な流れの共通認識を図ることが出来た。まだ話し合い結果をマニュアルに取り入れることが出来ていないため、今後も引き続き他職種間で意見を出し合いながら整理していく必要がある。

2. 短期入所・介護予防短期入所生活介護

今年度は、緊急受入件数が 12 件と前年度の 3 倍の数となった。急な要望にも柔軟に対応し、利用者・家族の期待に応えることが出来た。稼働率は 88.8%と 9 割を切ってしまったので、来年度は稼働率 UP を目指したい。長期利用と短期間定期・不定期のご利用者のバランスを考え、どちらの要望にも応えていけるようにコントロールしていきたい。

3. 稼働率報告

種 別	特養従来		ユニット		ショートステイ	
	29	28	29	28	29	28
年間ベッド数（最大）	18,250	18,250	7,300	7,300	3,650	3,650
利用延べ人数	18,218	18,023	7,261	7,245	3,243	3,034
稼働率（%）	99.8	98.8	99.5	99.2	88.8	83.1

【2】事業実績（主に数値的な報告）

1. 利用者推移・実数

(1) 入居者数

月	入所		退所	
	従来	ユニット	従来	ユニット
4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0
7	0	0	0	0
8	0	0	0	0

9	0	0	0	0
10	0	0	0	0
11	1	0	1	0
12	4	0	4	0
1	2	0	2	0
2	1	0	1	0
3	1	0	1	0
合計数(月平均)	9(0.75)	0	9(0.75)	0
前年度合計数	22(1.83)	3(0.25)	22(1.83)	3(0.25)

(2) 入居・退居経路

入居経路	従来型	ユニット	退居経路	従来型	ユニット
居宅	6	0	永眠	8	0
病院	2	0	病院	1	0
老健	0	0	老健	0	0
有料老人ホーム	1	0	居宅	0	0
計	9	0	計	9	0
前年度計	22	3	前年度計	22	3

(3) 要介護度別 ※平成30年3月31日現在

要介護度	性別				人数計		前年度	
	男		女					
	従来	とわ	従来	とわ	従来	とわ	従来	とわ
1	2	1	2	2	4	3	3	3
2	1	0	6	1	7	1	7	2
3	8	0	15	7	23	7	21	6
4	3	0	5	7	8	7	9	8
5	0	0	8	2	8	2	11	1
合計	14	1	36	19	50	20	51	20
平均要介護度	2.8	1.0	3.3	3.3	3.1	3.2	3.4	3.1

(4) 年齢構成 ※平成30年3月31日現在

		～64歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳～	計
従来	男性	0	2	0	3	4	4	1	14
	女性	1	0	1	1	6	13	14	36
とわ	男性	0	0	0	0	0	1	0	1
	女性	0	0	0	3	1	2	13	19
合計		1	2	1	7	11	20	28	70
前年度		1	2	2	7	17	15	26	70

(5) 入所者要介護度別利用状況

①従来

月	要介護度	1	2	3	4	5	合 計
4	実人数	3	7	21	9	10	50
	延人数	90	210	630	270	300	1,500
5	実人数	3	7	21	9	10	50
	延人数	93	217	651	279	310	1,550
6	実人数	3	6	22	9	10	50
	延人数	90	180	660	270	300	1,500
7	実人数	3	5	22	10	10	50
	延人数	93	155	682	310	310	1,550
8	実人数	3	5	22	10	10	50
	延人数	93	155	682	310	310	1,550
9	実人数	3	6	21	10	10	50
	延人数	90	180	630	300	300	1,500
10	実人数	3	6	18	13	10	50
	延人数	93	186	558	403	310	1,550
11	実人数	3	6	19	13	10	51
	延人数	90	180	545	390	295	1,500
12	実人数	3	8	20	14	9	54
	延人数	93	248	542	373	279	1,535
1	実人数	3	8	19	13	9	52
	延人数	93	248	585	336	279	1,541
2	実人数	3	8	21	11	8	51
	延人数	84	224	581	308	197	1,394
3	実人数	4	7	23	8	8	50
	延人数	124	217	713	248	248	1,550
29年度	実人数	37	79	249	129	114	608
	延人数	1,126	2,400	7,459	3,797	3,438	18,220
28年度	実人数	27	103	226	123	138	617
	延人数	812	3,134	6,745	3,523	3,952	18,166

②とわ

月	要介護度	1	2	3	4	5	合 計
4	実人数	3	2	6	8	1	20
	延人数	90	60	180	240	30	600
5	実人数	3	2	6	7	2	20
	延人数	93	62	186	217	62	620
6	実人数	3	2	6	7	2	20
	延人数	90	60	180	210	60	600
7	実人数	3	2	6	7	2	20
	延人数	93	62	186	217	62	620

8	実人数	3	2	6	7	2	20
	延人数	93	62	186	217	62	620
9	実人数	3	2	6	7	2	20
	延人数	90	60	180	195	60	585
10	実人数	3	1	6	8	2	20
	延人数	93	31	186	244	62	616
11	実人数	3	1	6	8	2	20
	延人数	90	30	180	240	60	600
12	実人数	3	0	7	8	2	20
	延人数	93	0	211	248	62	614
1	実人数	3	1	7	7	2	20
	延人数	93	31	203	217	62	606
2	実人数	3	1	7	7	2	20
	延人数	84	28	196	196	56	560
3	実人数	3	1	7	7	2	20
	延人数	93	31	217	217	62	620
29年度	実人数	36	17	76	88	23	240
	延人数	1,095	517	2,291	2,658	700	7,261
28年度	実人数	36	24	72	100	10	242
	延人数	1,095	730	2,172	2,949	299	7,245

#### 《考察》

今年度は例年になく入退所の少ない1年であった。介護・看護の両側面から、利用者が落ち着いた生活を送るためのケアを提供出来た結果である。冬の時期に入り、退居者が続いてしまいバタバタしたが、空床期間が長期に渡ることはなく、スムーズに入退居支援が出来た。現在落ち着いている入居者も今後状態変化していき、平均介護度も徐々に上がってくると思われる。特にとわに関しては、全体の半数以上が90歳以上となっており、今後状態の変化が起こる可能性がとても高い。落ち着いた状況に安心することなく、変化があってから慌てることのないよう、先を見越して準備をしておきたい。

#### (6) 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

月	要介護度	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
4	実人数	0	0	2	6	5	4	0	17
	延人数	0	0	15	78	103	81	0	277
5	実人数	0	0	1	4	6	6	0	17
	延人数	0	0	14	71	123	89	0	297
6	実人数	0	0	3	6	7	5	0	21
	延人数	0	0	28	71	106	99	0	304
7	実人数	0	0	1	8	6	4	1	20
	延人数	0	0	2	97	122	81	4	306
8	実人数	0	0	0	8	6	4	1	19
	延人数	0	0	0	111	107	82	5	305
9	実人数	0	0	0	7	4	2	1	14
	延人数	0	0	0	126	67	57	4	254



10	実人数	0	0	1	5	9	2	1	18
	延人数	0	0	3	87	124	49	2	265
11	実人数	0	0	2	5	8	2	0	17
	延人数	0	0	15	88	100	34	0	237
12	実人数	0	0	2	7	9	2	0	20
	延人数	0	0	10	105	105	33	0	253
1	実人数	0	0	3	8	7	1	0	19
	延人数	0	0	10	114	78	26	0	228
2	実人数	0	0	2	7	8	2	1	20
	延人数	0	0	10	100	100	49	6	265
3	実人数	0	0	3	7	8	3	1	22
	延人数	0	0	35	61	88	66	2	252
29年度	実人数	0	0	20	78	83	37	6	224
	延人数	0	0	142	1,109	1,223	746	23	3,243
28年度	実人数	0	0	20	72	62	67	17	238
	延人数	0	0	106	845	785	1,027	171	3,034

《考察》

稼働率平均 88.8%。前年度のように感染症による受入制限をすることなく営業することが出来た。また、長期利用希望者を増やすことで安定した人数をキープしつつ、短期間の定期利用者や不定期利用者のニーズにも応えられるよう、バランスを見ながら枠を調整し対応出来た。飛羽ノ園外の居宅支援事業所からの依頼にも応えていけるよう、今後もケアマネジャーとの関係作りを大切に、タイミングよく空床情報提供ができるように努めたい。また、今年度は緊急受入の実績が 12 件と前年度の 3 倍の受入に対応し、急を要する希望にも柔軟に応えることが出来た。飛羽ノ園ショートステイへの信頼を高める結果に繋がったと考える。

**特別養護老人ホーム 飛羽ノ園 (従来型)**

**【3】重点目標：権利擁護に即した自立支援の実践**

(1) 権利擁護・尊厳について学ぶ

計画的に勉強会を組むことが出来、職員全員に対し知識を得る機会を提供することが出来、相手の立場に立った安心できる声掛けができるようになることから始めた。しかし、実践についてはまだ進めている途中となっている。各ユニットでのスローガン立てと、個人への言動の指導等を通し、利用者への態度の意識付けを今後も継続して行いたい。

(2) ニーズ調査

画一的なケアの提供に留まらず、「個別のニーズに応える」という姿勢は身につけることができているが、ニーズをキャッチするための体制が整いきれていない。職員一人一人が利用者と向き合い、要望を把握し、実現に向けて行動する役割を担っているという自覚を持つ必要がある。「居室担当」という機能を活かしきれていないと感じるので、今後の課題としたい。

(3) 「看取りケア」マニュアルの作成

勉強会の開催をすることができ、「看取りケア」とは何か・どのような手順で進めていくのかを確認することができた。大枠を固めることができたが、具体的な「マニュアルの見直し・作成」「フロー作成」には至れていない現状である。各職種がどのように連携し、利用者・家族の望む最期に寄り添ったケアを提供していくのか、来年度は整理してまとめたい。

〈考察〉

“目標達成に向けて進めている途中”という現状である。反省点を踏まえ、今後も達成に向けて取り組みを継続する必要がある。他職種間での連携は上手く出来ているので、意見を出し合い、協力して取り組んでいきたい。

1. 介護職員反省

(1) 主任

島田 雄介	ご利用者の生活の場としての環境整備や、個々のニーズへのサービス提供が不十分に思う。さらにチームワークを高めて取り組んでいきたい。
-------	--

(2) ユニット別反省

か す み	全体的に各職員がご利用者と1人1人会話される様子が少なく、流れ作業に近い対応が多くなってしまっている。ナースコール対応等も職員1人1人で差が大きくなっている。ニーズの把握はもちろんだが、その前から職員それぞれが考え、検討する必要性が考えられる。	
	リーダー 横山 玲	ユニット目標に平行してご利用者との会話も出勤前の時間がほとんどになってしまい業務内に取り入れる事が困難になっている。ユニット内で少しずつ方法論を展開していきたい。
	幸口 綾佳	業務の中でご利用者1人1人と会話をする時間が少なかったのでコミュニケーションの時間をもっと作っていき、その中でご利用者の好きな物や好きな趣味を探していきたかった。
	小林 摂	他職種との連携が不足していた所もあり、ご利用者のニーズに答えられてない部分もあり考えるべきであった。
	森 友和	ご利用者に合わせたサービスを実践出来なかった事が多かった為、ご利用者とコミュニケーションを多く取り実践していきたい。

	荒関 裕己	常にご利用者を思い介護に努めました。
	宮本 実保	ご利用者1人1人とコミュニケーションを多く取って業務に取り組みたい。

あ さ ひ	ユニット間で意見を出し合い色々な課題に取り組んでいけたと思う。ただ、温かい居場所作りの提供が出来ずアットホームなユニットに出来なかったと感じた。	
	リーダー 宮邊 美子	看取りケアについて知識も薄く満足のいくケアが出来なかったので来年度も継続して取り組んでいく。リーダーシップもしっかりとれずコミュニケーション不足も感じ、今後の課題。
	笠原 香織	全ご利用者とは十分なコミュニケーションがとれず寄り添った介護が出来なかったため、来年度は1人1人に寄り添った介護出来るように仕事をしたい。
	柏木 典子	1人1人とコミュニケーションをとる時間があまり作れず、ご利用者の思いを知ることが出来なかった。業務の合間にコミュニケーションがとれるように時間をうまく調整する。

や ま な み	職員間での意見交換や情報伝達はスムーズに行えていたと思うが、ご利用者とのコミュニケーションを図る時間が不十分に感じた。	
	白橋 翼	1人1人の残存機能や意欲をケアに活かせるように声かけや介助を工夫したが、介護者視点のケアになってしまう事も多くあり今後の課題と感じた。職員間の連携に関しても自分から積極的に声をかける事ができず連携不足を感じた。
	村山 翔	業務に追われてご利用者1人1人とコミュニケーションを図る時間を設ける事が出来なかった日が多々あった。ご利用者と接する時間を増やしていきたい。
	金 美禮	安心して生活できる様に引き続き頑張っていきたい。
	合津 卓哉	現場職員がもっと協力していけるように普段からの報告・連絡・相談を密に行なって行きたいと思います。
	松本 暁子	ご利用者とのコミュニケーションをあまり作れていなかったと思い今後は業務内容を見直していく。

さ く ら	権利擁護の観点からケアを見直すきっかけは出来たが、介護者の都合が前に出てしまうこともあり物足りなさを感じた。	
	山口 剛史	ご利用者の希望や状態に合わせる為、多職種との相談・連携、同職員とも話し合いご利用者に合った介護・生活
	大塚 雄太	ニーズに注意・配慮した権利擁護の介護を行なうことが出来たと思っている。
	勝村 照子	仕事とは組織で目標を共有し、成果を出していく働きが必要と感じた。多職種間で常にコミュニケーションをはかり相互間の役害認識を行ない、責任意識の協力・声の掛け合いと協力を図り職員一人一人がもっと介護に関わりを増やせばより良い職場になると思う。

## 2. 医務

### (1) 看護職員反省

主任看護師 宮本 静子	ご利用者の機能訓練・リハビリを充分には実施出来なかった。 自身の健康維持は保てたと思います。
井上 光子	自分自身の体力不足を感じた。又、ご利用者の対応を行う際に自信が持てなかった。
藤岡 恵未	自分自身にもう少し自身を持って、発言と行動が出来れば良かった。
松浦 ゆかり	笑顔でご利用者と接し、傾聴することが出来た。ご利用者、自分の健康管理は引き続き努力していきたい。
飛内 久子	ご利用者の体調の変化の早期発見に努めました。
長峰 とき子	ミスもなく1年間を過ごしました。

### (2) 長谷川式スケール実施状況

※30点満点中20点以下は認知症の可能性が高い（診断結果は参考）

年齢	性別	点数							計
		0	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	
~64	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	1
65~69	男	0	1	0	0	0	0	0	1
	女	0	1	0	0	0	0	0	1
70~74	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
75~79	男	0	1	0	1	2	0	0	4
	女	1	0	0	0	0	0	2	3
80~84	男	1	2	0	0	0	0	0	3
	女	3	1	0	3	0	0	1	8
85~89	男	1	1	1	2	0	0	1	6
	女	2	3	0	2	2	0	0	9
90~95	男	1	0	0	0	0	0	0	1
	女	2	2	0	2	2	0	1	9
96~	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	1	2	0	0	0	0	4
計		13	13	3	10	6	0	5	50

### (3) 日常生活状況（ADLの状況）※平成30年3月31日現在

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	38	8	3	10	28	13	3	27	20	3	9	38
前年度	38	3	7	11	23	13	11	33	16	11	33	16
区分	移 乗			寝 返 り			移 動（歩 行）		移 動（車 い す）			
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	自立	一部介助	全介助	
人数	19	15	16	20	24	6	11	3	11	14	11	
前年度	21	14	15	45	2	3	12	5	10	10	13	

(4) 処置・看護記録集計 (ショートステイ含む)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
点眼	87	87	92	92	85	84	100	83	76	67	99	101	1,053
処置	78	62	78	67	80	82	64	37	58	51	31	76	764
軟膏・湿布	145	186	242	245	368	385	147	180	162	194	255	283	2,792
テープ	83	92	81	70	71	64	72	72	73	79	74	113	944
救急対応	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4

(5) 他科受診年間状況

受診科名	眼科	内科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	心療内科	合計
延人数	8	46	10	18	10	0	213
受診科名	外科	歯科	訪問歯科	脳神経外科	呼吸器科	乳腺外来	
延人数	10	0	109	0	1	1	

(6) 入浴実施状況

①入居者

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
特浴	123	147	147	99	104	102	97	90	69	62	55	63	1,158
一般浴	227	237	247	236	269	248	197	240	231	243	223	244	2,842
合計	350	384	394	335	373	350	294	330	300	305	278	307	4,000

②短期入所生活介護 (予防・空床利用含む)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	89	99	104	103	108	81	84	71	71	71	79	72	1,032

《考察》

利用者に対しての日々の生活支援・健康管理を丁寧に行った。徐々に介助が必要な利用者が増えてきており、看護の視点での観察にも力を入れ、介護職員と連携を図りながら対応出来た。また、他職種間で協力して柔軟に業務にあたる事が出来た。他医療機関との連携も円滑に行い情報共有出来た。

3. 給食

(1) 反省

関 清美	医師・歯科医師等との連携が出来ていない為、相談により良い栄養摂取が出来るようにしていきたい。
------	--

(2) 平成 29 年度 栄養給与基準量及び通常食提供量

	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食塩
単位	Kcal	g	g	mg	mg	mg	mg	mg	g
目標値	1,600	52.0	44.4	600.0	6.2	0.85	0.95	100	7.2
4月	1,707	63.6	37.9	652.1	11.7	1.30	0.96	108	9.5
5月	1,700	62.5	38.0	634.0	11.6	1.30	0.95	98	10.4
6月	1,703	62.7	38.9	635.8	11.3	1.21	0.97	109	10.1
7月	1,696	63.7	38.1	646.8	11.4	1.25	0.98	111	9.1
8月	1,683	63.3	38.4	627.5	11.2	1.15	1.01	113	9.1
9月	1,707	65.0	40.0	638.5	11.3	1.15	0.97	114	8.7

10月	1,699	64.5	38.0	639.1	11.2	1.25	1.25	112	8.7
11月	1,678	64.0	38.9	627.8	10.9	1.17	1.00	106	8.5
12月	1,691	64.8	36.9	638.2	10.9	1.23	1.02	109	8.6
1月	1,705	66.4	37.9	656.3	11.3	1.23	0.96	103	8.6
2月	1,703	66.3	37.3	660.2	11.9	1.26	1.01	108	8.5
3月	1,690	63.3	37.5	647.7	11.4	1.20	0.95	106	8.6

(3) 食事提供状況

①食数

	朝食	昼食	夕食	合計
特養	17,366	17,418	17,573	52,357
ユニットとわ	7,255	7,161	7,214	21,630
ショートステイ	2,837	3,162	2,831	8,830
デイサービス	0	5,500	0	5,500
職員	365	2,391	366	3,122
来客	0	19	0	19
実習生	0	46	0	46
延人数	27,823	35,697	27,984	91,504

②毎食事の検食実施（検食簿記入）

③選択食

日時	A	B
H29.4.10	八宝菜	醤油ラーメン
H29.5.27	豚肉オニオンソース	白身魚フライ
H29.6.15	チンジャオロース	味噌ラーメン
H29.7.21	白身魚のバター醤油焼き	豚の角煮
H29.8.22.	野菜コロケ	チーズオムレツ
H29.20.	親子丼	しらす丼
H29.10.2	ハンバーグ	鮭フライ
H29.11.18	サンドイッチ	ナポリタン
H29.12.7	ポークソテー	はんぺんフライ
H30.1.26	焼きメンチカツ	メバルの香味漬け
H30.2.6	白身魚のバター醤油焼き	焼きメンチカツ
H30.3.28	ブリ大根	親子煮

④行事食（従来型）

1	日時	29年 4月 11日	行事名	イベント食
	筍おこわ、春野菜の天ぷら、山菜の白和え、漬物、フルーツ			
2	日時	29年 4月 26日	行事名	バイキング
	焼きそば、ウィンナー、目玉焼き、鮭おにぎり、ポテトコロケ、餃子、シューマイ、お浸し、野菜サラダ、タラマヨポテト、フルーツ、鮭雑炊			
3	日時	29年 5月 6日	行事名	イベント食
	山菜ごはん、かつおのたたき、空豆のかき揚げ、あさりの味噌汁、フルーツ			
4	日時	29年 6月 19日	行事名	イベント食

	枝豆ごはん、鮎の甘露煮と夏野菜の天ぷら、オクラとみょうがの和え物、かき玉汁、フルーツ			
5	日 時	29年 7月 7日	行事名	七夕イベント食
	七夕そうめん、ささ身のしそ巻き、夏野菜の冷やし鉢、フルーツ			
6	日 時	29年 8月 10日	行事名	イベント食
	とうもろこし御飯、鯡のムニエル ラビコットソース、長芋の寒天寄せ、冬瓜の生姜汁、フルーツ			
7	日 時	29年 8月 11日	行事名	納涼祭
	焼きそば、フランクフルト、唐揚げ、漬物、おにぎり、かき氷、フルーツポンチ、ジュース、綿菓子、ビール			
8	日 時	29年 9月 10日	行事名	敬老会
	赤飯、天ぷら盛り合わせ、炊き合わせ、もろこし豆腐、漬物、フルーツ、ジュース			
9	日 時	29年 9月 16日	行事名	イベント食
	栗おこわ、揚げさんまの香味ソース、菊花の三杯酢和え、お月見汁、フルーツ			
10	日 時	29年 10月 11日	行事名	イベント食
	鮭ちらし寿司、二色揚げだし豆腐、なすの肉味噌かけ、けんちん汁、フルーツ			
11	日 時	29年 11月 21日	行事名	イベント食
	きのこおこわ、海老団子まんじゅう、お刺身3点盛り、具沢山汁、リンゴコンポート			
12	日 時	29年 12月 17日	行事名	クリスマス会
	骨付きチキン、フルーツ、ショートケーキ、お茶、ジュース			
13	日 時	29年 12月 25日	行事名	クリスマスイベント食
	ピラフ、クリスマスローストチキン、サーモンのマリネ、フルーツ、コーンスープ			
14	日 時	30年 1月 1日	行事名	元旦
	彩り散らし寿司、炊き合わせ、おろし和え、清汁、リンゴコンポート			
15	日 時	30年 1月 2日	行事名	イベント食
	赤飯、お煮しめ、お刺身、味噌汁、ミルク寒天の苺ソース			
16	日 時	30年 2月 3日	行事名	節分イベント食
	三色恵方巻、節分いわしバーグ、菜の花のごま和え、具沢山汁、フルーツ、			
17	日 時	30年 3月 3日	行事名	イベント食
	にぎり寿司、含め煮、けんちん汁、やわらか餅入りぜんざい			

⑤甘味処

日 時	おやつ名
4月8日	あんぱん
5月6日	大判焼き
7月8日	スイカ割り
8月5日	かき氷
9月23日	あん入りたこ焼き
10月14日	焼き芋
11月11日	もんじゃ焼き
2月14日	ピザ
3月14日	ベビーカステラ

(4) 栄養ケアマネジメント

①栄養ケアカンファレンス

月	人数	月	人数	月	人数
4	2	8	2	12	4
5	50	9	2	1	4
6	2	10	2	2	1
7	3	11	51	3	2

※開催回数 22 回

合計 125 人

(5) 衛生管理

- ・調理従事者の定期腸内細菌検査  
年 12 回実施 委託給食の為管理栄養士以外は委託側で行う（新規採用者は入職前）
- ・最終火入れ時間、食品の中心温度の測定及び記入
- ・原材料及び検食の冷凍保存の実施（14 日間）
- ・厨房内の定期的な清掃の実施
- ・害虫駆除の実施 害虫駆除の実施及び発生状況の確認（年 2 回）
- ・包丁、まな板、調理台、水槽の使い分けの徹底、時間、温度管理
- ・下処理室、調理室、洗浄コーナーの使い分け

(6) 会議・研修

- ・給食会議 毎月第 4 水曜日
- ・全体会議 毎月 10 日
- ・茨城県栄養士会研修、茨城県福祉栄養士会研修、土浦地区給食研究会研修、老施協栄養士研修

《考察》

ミールラウンドし、低体重であったり、嚥下機能が低下し食べられなくなってきているご利用者に対し食形態の配慮や栄養量など多職種共同して体重増加を図り、健康を維持できるようにした。

4. 施設ケアマネジャー

(1) 反省

関 清美	個々のご利用者について多職種共同が必要であったが、医師・歯科医師・理学療法士との連携でのケア計画が出来ていなかったので取り入れていきたい。
白橋 翼	入居者一人一人のニーズや意向をしっかりと把握することができず、良いケアにつなげることができなかった。

(2) ケアカンファレンス・認定調査

①ケアカンファレンス実施回数

月	人数	月	人数	月	人数
4	9	8	13	12	15
5	8	9	11	1	17
6	11	10	13	2	19
7	17	11	12	3	14

開催合計 48 回 延べ 159 名



②認定調査の実施回数

月	人数	月	人数	月	人数
4	0	8	2	12	3
5	4	9	1	1	3
6	3	10	2	2	1
7	2	11	1	3	3

認定調査 合計 25 件

5. 相談員

(1) 反省

長瀬 ちさと	つつがなく1年の業務をやり遂げることが出来たが、本人・ご家族の要望を知る努力・要望を実現させる行動力に欠けていたように思う。
中島 勇一	職務の把握・実施に追われ、全体的に慌ててしまっていたと感じる。又、その為に利用者・ご家族様に寄り添う時間が少なくなってしまうように思う。

6. 委員会

(1) 委員会活動報告・反省

1	入所基準検討委員会	本年も申込者の緊急性等について公正な判断の基、入所への案内をすることができた。今後も入所希望者のみならず、その背景での支援も視野に入れ適切な対応をしていきたい。
2	身体拘束廃止委員会	プライバシーの配慮に関して、各職員でバラつきがあり統一されていなかった。各々が理解して日々のケアを提供していく必要がある。
3	感染症対策委員会	昨年度のインフルエンザ対応から学び、流行時期に、利用者・職員・家族に対し、必要な対策を徹底することができた。そのため、インフルエンザに罹患する者なく冬を越すことができた。対応方法を分かり易くまとめ、次年度に活かしていきたい。
4	災害防火委員会	毎月、欠かさずに訓練を実施することが出来た。来年度も訓練がマンネリ化しないように、訓練内容の質をさらに高めて継続していく。
5	認知症対応	各ご利用者のBPSDへの理解に手間取ることもあったがCW会議などで解決策・代替策を検討することに努めた。
6	食事・水分委員会	○座席の変更を早めに取り組めば良かった。 ○食事中の音にもしっかりと気を配り、雰囲気作りが出来なかった。 ○食事の際にTVに夢中になってしまい手が止まってしまい誤嚥の危険があるので検討出来たら良かった。(食事中のTV)
7	排泄・運動委員会	各利用者の身体状況及び排泄状況に応じた物品の選択をし、適切な排泄介助を行なう事ができた一方で、運動に関しては個人の身体状況の把握が充分でなく、残存能力を活かす支援が不十分だった。
8	入浴委員会	利用者の状態を把握し、入浴方法をその都度変更して入浴をして頂くことが出来た。しかし入浴を嫌がる方に対して職員が強引に対応をしてしまう事があったので、違う対応方法を考えて行なっていきたい。

9	寄添う看取り委員会	目標でもあった「最期までその人らしい生活」を提供出来たか考えると疑問が残る。多職種との連携も不十分だったと思う。
10	褥瘡予防委員会	臀部等の皮むけが出来たり、悪化してしまった方もいたが、看護職と連携しながらこまめな体位交換や処置・清潔保持で改善に努めた。早い段階で対応できるよう全職員が協力して予防に取り組む必要がある。
11	胃ろう・吸引対策委員会	栄養など医務と介護職が連携出来ていなかったと思う。知識を身につける機会をなかなか作れず知識不足だと感じた。
12	営繕委員会	主に破損・毀損箇所の修繕に時間を割くことになりその他のハード面を充実させるまでに至らなかった。 委員会内での連絡・報告をもう少し密に行なう必要がある。
13	広報委員会	目標通り、デイサービスと合同の刊行物（飛羽ノ園だより）の発行ができ、施設外部に向けてより内容濃く、“飛羽ノ園”を知ってもらうことができた。ホームページの「行事風景」の更新もタイミングよく行なう事が出来た。
14	レクリエーション委員会	園芸など利用者の方々と一緒にできず職員だけで植えたりしていたので来年度は入居者の方々と一緒に出来るように計画していく。園内でのレクや行事が少なくもう少し季節感を味わえればと思った。
15	物品購入委員会	医務室と発注が重なってしまい、倉庫に在庫がある状態の物品があったので、連携して無くしていきたい。

(2) 行事報告

月	日	内 容	参加者			
			利用者	職員	その他	合計
4	4	お花見散歩	15	15	0	30
4	8	甘味処	52	16	0	68
4	29	4月誕生日会	6	4	0	10
4	30	ドライブ	7	7	0	14
5	8	散歩	14	14	0	28
5	27	5月誕生日ドライブ	4	4	0	8
6	6	日帰り旅行・出前食	49	15	0	64
6	24	6月誕生日会	8	3	0	11
7	7	七夕会	58	8	0	66
7	8	すいか割り	42	18	0	60
7	19	7月誕生日会	5	3	0	8
7	25	遠足	4	4	0	8
8	5	甘味処(かき氷)	56	9	4	69
8	11	納涼祭	50	10	0	60
8	23	花火大会	50	10	0	60
8	30	8月誕生日会	5	5	0	10
9	10	敬老会	50	10	0	60

9	26	9月誕生日会	5	5	0	10
10	14	甘味処（焼き芋）	56	20	0	76
10	18	10月誕生日会	3	3	0	6
11	9	小松地区芸能発表会	3	2	0	5
11	11	甘味処	54	10	0	64
11	12	運動会	53	9	0	62
11	26	11月誕生日会	3	3	0	6
11	30	かもめクルーズ	8	8	0	16
12	17	クリスマス会	35	10	0	45
12	24	12月誕生会	7	8	0	15
1	13	甘味処（ピザ）	46	7	0	53
1	28	1月誕生日会	8	8	0	16
2	3	節分	50	10	0	60
2	11	甘味処	57	20	0	77
2	14	喫茶 HIWA	11	3	0	14
2	25	2月誕生日会	7	4	0	11
3	7	3月誕生日会	5	3	0	8
3	14	甘味処	45	6	0	51
3	18	ドライブ	3	3	0	6

## 7. 研修

### (1) 内部研修報告

#### ①施設全体研修（従来型・ユニット・デイ・在支・居宅・事務）19:00～19:30

月	日	内容（対象者）	参加人数
4	10	不適切ケアを考える	38
6	10	死亡診断に関わるケア上の課題 ※烏山診療所：今高 Dr.	48
10	10	感染症発生時の施設対応について	38
11	10	特養における機能訓練の在り方 ※訪問リハ烏山：内藤 PT・山下 Ns	39
2	10	安全運転危機管理	35

#### ②部署内研修

5	10	認知症について	14
7	10	嚥下障害と誤嚥性肺炎について	16
3	10	長谷川式認知症スケール 配慮ポイント！（従来）	23

### (2) 外部機関研修

研修名	開催時期	参加者 職種	研修内容	人数
相談援助業務担当者研修	5月15・16日	相談員	相談援助に必要とされる技術・相談援助の基礎	1
一般検査説明会	5月18日	施設長・相談員	説明会	2
茨城県老人福祉施設協議会	5月24日	施設長	総会	1
接遇マナー研修	6月7日	相談員	職場生活の基本動作・マナー～社会人としての意識を身に付ける～	1
中学生と語る会	6月8日	相談員	「介護職について」	1

リスクマネジメント研修	6月13日	介護士	リスクマネジメントについて	1
認知症実践者研修	6月14日	施設長	認知症ワーキング	1
茨城県老人福祉施設協議会	6月19日	施設長	委員会	1
メンタルタフネス研修	5月30日 6月1日・29日	介護士	対人援助サービスに伴うストレスに対して折れない心を身に付ける	1
介護実践者研修	6月2日～7月18日	介護士	実践者研修	1
VR 認知症	7月6日	施設長・相談員	VR＝バーチャルリアリティ（仮想現実）	2
働きがいある職場づくりセミナー	7月7日	施設長・介護士	職員の退職を防止し、魅力ある職場へ	4
経営青年会セミナー	7月7日	施設長	経営勉強会	1
土浦消防防火	7月12日	施設長	総会（表彰）	1
クレーム対応強化研修	7月20日・21日	相談員	クレーム対応の基本・CS実現におけるクレーム対応の重要性	1
スクエアステップ指導員資格認定講習会	7月22日	相談員・介護士	高齢者の健康・体力づくり・認知症予防のためスクエアステップ	2
感染症対策研修会	7月26日	介護士	感染症対策の基礎嘔吐物結核対策について	2
不在者投票事務説明会	7月27日	相談員	茨城県知事選挙等の概要	2
平成29年度茨城県認知症介護基礎研修	7月27日	介護士	認知症の人の理解と対応の基礎	3
経営青年会セミナー	8月1日	施設長	経営勉強会	1
防火管理者研修	8月3日～4日	相談員・介護士	防火管理の意義と制度、施設・設備の維持管理	3
認知症実践者研修	8月3日～9月15日	介護士	実践者研修	1
茨城県老人福祉施設相談員研修	8月9日・10日	相談員	事例検討	1
業務改善手法研修	8月22日・23日	介護士	業務改善とは	1
介護福祉セミナー	8月25日	介護士	介護福祉士養成教育と施設等との連携について	2
社会福祉施設等中堅職員研修Aコース	9月5日	介護士	中堅職員に必要なスキルを学ぶ	1
給食施設栄養管理者研修会	9月7日	栄養士	給食施設における衛生管理について	1
実務者研修教員講習会	9月8日・9日・10日	介護士	実務者研修の目的	1
実務者研修教員講習会	9月24日・25日	介護士	生活支援技術とICF	2
認知症介護実践者研修	8月3日～9月15日	介護士	認知症介護実践者研修	1
民間社会福祉施設職員の集い	9月25日	介護士	ポーリング大会	3
実務者研修教員講習会	10月5日～7日	介護士	アセスメントの観察	1
外国人技能実習制度	10月11日	施設長	「人づくり」に寄与する目的	1
定例会	10月11日	看護師	困難事例の相談会と救命の勉強会	1
安全運転管理者講習会	10月11日	施設長	三位一体となった事故防止を目指す	1
北関東ブロック研修大会	10月15日	ケアマネジャー	地域包括ケアシステムづくりへのケアマネジャーの関わり方	1
花いっぱい運動花壇づくり	10月17日	介護士	花壇づくり講座	1
カウンセリング研修	10月17日・18日	介護士	カウンセリングの基本知識・技術を修得	1
認知症介護実践者研修	10月23日	施設長	認知症介護実践者研修委員会	1
火災予防推進会議	10月24日	施設長	火災予防会議	1
社会福祉士実習指導者講習会	10月26日・27日	相談員	実習指導概論	1
接遇・コミュニケーション技術向上研修会	11月2日	介護士	介護職員の為の接遇基礎トレーニング	1
民間社会福祉施設職員合同研修会	11月6日～9日	介護士	生活支援技術と介護演習	1
在宅医療介護連携の集い	11月22日	ケアマネジャー	新睦会	2
平成29年度地域実践研修	11月22日	ケアマネジャー	地域活動について	1

高齢者権利擁護推進委養成研修	11月17日～2月8日	介護士	身体拘束廃止の取り組み	1
相談援助業務担当者研修	11月27日・28日	相談員	じぶんの仕事の専門性を深める	1
EPA介護福祉士受け入れ施設連絡協議会	11月27日	施設長	介護分野の外国人就労者。あなたなら誰を選ぶ？	1
給食研究会6ブロック合同研修会	11月29日	栄養士	摂食嚥下訓練 摂食・嚥下機能の低下した人に提供する食事について	1
認知症市民フォーラム in 土浦	12月1日	施設長・相談員	地域包括ケアシステムについて	2
民間社会福祉協議会研修会	12月4日	介護士・看護師	腰痛予防体操～心と体の健康管理～	2
認知症介護実践リーダー研修	12月4日～1月15日	介護士	リーダー研修	1
安全運転管理者講習会	12月7日	管理者	安全運転の基本	1
給食担当職員研修	2月13日	栄養士	タニタの健康セミナー	1
平成29年度勤務環境改善事例発表会	3月7日	相談員・介護士	働き続けたい職場に必要な事	3
いばらき終活フォーラム	3月13日	施設長・相談員	「終活難民とは～誰にも迷惑をかけたくないという幻想～」	2
経営戦略セミナー	3月15日・16日	施設長	事業継続への道しるべ	1
平成30年度介護報酬改定事項について	3月19日	相談員・ケアマネジャー	介護報酬改定	3
合 計				82

### (3) 老人福祉施設協議会の県南・土浦地区ケアマネジャー研究会・交流研修

定例会での他施設との意見交換から新たな知識や刺激を受けることが出来た。交流研修は実施に至らなかったが、来年度は先進的な取り組みを実施している施設や、ユニットケア・グループケアに定評のある施設への交換研修を視野に入りたい。

#### 《考察》

多くの研修に多くの職員を参加させることが出来た。外部研修への参加は来年度もこの調子で進め、新しい知識を得る機会を提供できるようにしたい。今後の課題としては、学んだことを施設に還元できるよう伝達研修（勉強会）の体制を確立することだと考える。

## 8. 実習生受入れ

学校名他	実習月	日数	人数	延日数
筑波研究学園専門学校	9	5	2	10
筑波総合福祉専門学校	7・8・9・10・2・3	20	4	80
つくば国際短期大学	3	1	2	2
土浦市役所	11	1	4	4
祥風会初任者研修	7	1	3	3
合 計		28	15	99

## 9. ボランティアの受け入れ

ボランティア名	回数	総人数	ボランティア名	回数	総人数
美々の会	67	93	てんとう虫	1	5
介護支援ボランティア	71	79	介護相談員	10	24
いずみの会	9	38	散髪	23	24
明治安田生命	5	26	小松町内地区	1	4
桜の会	11	40	四中地区福祉部	1	14
すみれの会	1	9	ピースメーカー	1	16

こもればの会	1	3	ひまわりクラブ	1	2
中高津お囃子の会	1	10	小松育成会	1	15
水戸信用金庫	1	10			
合 計				206	412

#### 10. 地域貢献活動「ふらっと HIWA～介護のことなんでも語らおう」

【開催実績】○定期開催・・・毎月第一日曜日 9：00～12：00

○イベント開催・・・年間 4 回 “地域支え合い勉強会”

- ・6/4 : 第 1 回「介護講談上映会&ふらっと HIWA」 参加者：27 名
- ・10/8 : 第 2 回「意外と簡単 電子レンジクッキング」 参加者：13 名
- ・12/10 : 第 3 回「VR 認知症体験～認知症を考える～」 参加者：53 名
- ・3/4 : 第 4 回「シナプソロジー」 参加者：18 名

#### 《考察》

新たな試みとしての“地域支え合い勉強会”は、参加された方々より「ためになった」「勉強になった」と感想をいただき、全回を通して好評を得ることが出来た。地域の方が興味・関心を示して下さるようなテーマを今後も継続して提案できるよう、情報に敏感でいる必要がある。定期開催については実績はほぼなく、イベント開催には多数参加いただけることから、今後は“地域支え合い勉強会”の定着を目標とし「気軽に立ち寄れる地域に開かれた施設」を目指していきたい。

#### 【4】 重点目標：地域とのつながりをもった生活の提供

(1) 24時間シートに即した介護・支援の提供

作成したままになっていた24時間シートの見直しを行ない、具体的な内容に更新することが出来た。今後、定期的な見直しができるような機会を計画的に設定することが課題となっている。

(2) 権利擁護に基づいた介護・支援の実践

当初は権利擁護に基づいた声掛けを意識していたものの、時間の経過によりその意識が薄れてしまい、職員主体の声かけとなってしまいうこともあった。権利擁護の視点を持ち続けるために、お互いに意識し合い、気持ちの良い声掛けの影響をし合えるような職員関係を作っていきたい。

(3) クラブ活動・個別活動の推進

個別活動についても、少しずつ活動をはじめる事が出来ている。日常生活の中での些細な希望にも出来るだけ応え、また、外出等についても団体として出掛けるだけでなく、個々の行きたい場所に合わせて個人として出掛ける支援も出来た。

(4) 地域行事への参加

地域の方々との交流は、地域⇒施設と来て頂くばかりになってしまい、施設⇒地域と外へ出での交流には至らなかった。今後は地域での行事を良く知り、地域の一員として参加できる可能性を探っていきたい。

《考察》

ユニットケア・個別ケアを意識した介護、支援に努めた。1年間入退所なく、同じ顔ぶれで生活できたことで、より個人を知ることでもでき、相手を理解したケアの提供が出来たと思う。権利擁護を意識した対応を継続しつつ、なかなか進展できずにいる地域交流に力を入れていきたい。

1. 介護職員反省

(1) 主任

畑 仁	自分の出来る範囲で全体を見るように努めていたがどうしても片方のユニット側に偏ってしまい、広い視野を持つことは出来なかった。
-----	---

(2) ユニット別反省

わか くさ	「ご入居者目線での介護」を掲げてみたがうまく個人個人の生活スタイルを確認する事が出来ずに職員目線での介護になってしまった。ご入居者の個性を活かしきれず職員主体での動きが多くなってしまった。	
	サプリーダー 高橋 文	ご入居者の目に見えるような訴えなどは感じ取ることは出来ていたと思うが、本当に訴えたいことまでは敏感に感じる事が出来なかった。
	山中 阿紀子	認知症の外部研修に行き、改めて知識を深める事が出来た。ご入居者との関わりを持つ時間や声掛けを増やすことが出来た。
	高橋 洋子	日々を楽しく過ごせる様に、努力をし、コミュニケーションを図った。出来る限りAMは体操・口腔ケア体操に取り組む事が出来た。
	前田 雪麗	エプロン洗いなど無理のないよう自立支援を行なうことが出来た。散歩など他ご入居者と一緒に参加できるようにコミュニケーションを図り実行することが出来た。
	川島 秀夫	ご入居者目線ではなく職員目線で介護してしまうことがあった。多職種と連携

		が出来ない時があった。
	明星 里奈	休むことはあまり減らせなかったので来年度は減らせるように取り組む。新たな仕事は取り組む事が出来たのではないかと思う。

む べ		外出を増やして楽しみを提供する事は出来たが、職員間の連携や報連相は的確に出来たとは言えない。今後も報連相はしっかりと行ない、抜けのない対応を心がけたい。
	リーダー 竹内 真奈美	居室内の環境作りはあまりできず、リビングのテーブル配置などはご入居者や職員の意見を取り込み使いやすく配置することが出来た。今後は居室の見直しをしていきたい。
	サブリーダー 大海 進一朗	あまり積極的に発言が出来なかった。遅刻が多かった。報連相は出来たと思う。
	本橋 大樹	感情のコントロールが出来ていてイライラしなかった。連携や報連相が出来ていなかった。
	志村 洋子	ご入居者目線での言動を心がけて介護をすることが出来た。「こうしたい、やりたい」を実現する時間をあまり作ることが出来なかった。
	加瀬 久美子	個別ケアは数名しかあまり関わることが出来なかった。。今後はもう少し多く関わっていけるようにして行きたい。

## 2. 医務

(1) 看護職員反省…従来型「2. 医務 (1) 看護職員反省」参照

(2) 長谷川式スケール実施状況

※30点満点中20点以下は認知症の可能性が高い(診断結果は参考)

年齢	性別	点 数							計
		0	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	
~64	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
65~69	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
70~74	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
75~79	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	1	0	0	0	0	1	3
80~84	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	1	0	0	0	0	1
85~89	男	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
90~95	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	2	2	3	1	0	1	11
96~	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	2	2	0	0	0	4
計		3	3	5	5	1	1	2	20



(3) 日常生活状況 (ADL の状況) ※平成 29 年 3 月 31 日現在

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	15	3	2	4	7	9	0	13	7	4	11	5
前年度	16	3	1	4	14	2	10	14	6	2	14	4
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	自立	一部介助	全介助	
人数	5	9	6	9	4	7	2	0	9	3	6	
前年度	7	9	4	12	4	4	2	0	9	1	8	

(4) 処置・看護記録集計 (ショートステイ含む)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
点眼	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
処置	1	16	1	7	8	33	31	42	9	16	10	18	192
軟膏・湿布	73	70	65	92	81	78	81	54	35	53	55	61	798
テープ	120	124	120	124	124	120	124	120	124	107	112	124	1,443
救急対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(5) 他科受診年間状況

受診科名	眼科	内科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	心療内科	合 計
延人数	0	14	4	2	0	0	699
受診科名	外科	歯科	訪問歯科	脳神経外科	婦人科	耳鼻科	
延人数	0	0	678	0	1	0	

(6) 入浴実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
むべ	85	83	87	87	80	87	89	80	89	85	79	67	998
わかくさ	82	87	76	82	88	83	86	77	91	85	78	66	981
合 計	167	170	163	169	168	170	175	157	180	170	157	133	1,979

《考察》

看護・介護の区別無くできる限り協力しご入居者の生活を支えてきた。従来型との兼務のため、看護職員間でご入居者についての情報の共有に務め、誰が担当でも毎日変わらぬ対応ができるようにした。

3. 給食

(1) 反省…従来型「3. 給食 (1) 反省」参照

(2) 平成 28 年度 栄養給与基準量及び通常食提供量…従来型「3. 給食 (2) 栄養給与基準及び通常食提供量」参照

(3) 食事提供状況

①食数…従来型「3. 給食 (3) 食事提供状況 ①食数」参照

②毎食事の検食実施 (検食簿記入)

③選択食…従来型「3. 給食 (3) 食事提供状況 ③選択食」参照

④行事食 (ユニット・とわ)

1	日時	29 年 4 月 16 日	行事食	とわ合同行事食
	焼きそば、チャーハン、菜飯おにぎり、唐揚げ、ポテト、サラダ、刺身、グラタン、人参の明太子和			

	え、ほうれん草の胡麻和え、味噌汁、ミニパフェ			
2	日 時	29年 4月 27日	行事名	むべ行事食
	米飯、肉巻きたけのこの照り焼き、ほうれん草のバターソテー、冷奴、スープ、ゼリー			
3	日 時	29年 5月 25日	行事名	むべ行事食
	米飯、豚バラ大根、春キャベツとしめじの胡麻味噌炒め、ほうれん草とツナの和え物、味噌汁、フルーツ			
4	日 時	29年 5月 18日	行事名	わかくさ行事食
	たけのこ御飯、もつの煮込み、フルーツ			
5	日 時	29年 6月 22日	行事名	むべ行事食
	米飯、鶏と茄子の甘辛マヨ、ツナとレタスのポン酢炒め、フルーツヨーグルト			
6	日 時	29年 7月 26日	行事名	わかくさ行事食
	うな井、味噌汁、ナムル、漬物、フルーツ			
7	日 時	29年 7月 27日	行事名	むべ行事食
	カレーピラフ、茄子とピーマンの味噌炒め、豚肉のしゃぶしゃぶ、卵とトマトのスープ、フルーチェ			
8	日 時	29年 8月 17日	行事名	わかくさ行事食
	カレーチャーハン、餃子、サラダ、スープ、フルーツ			
9	日 時	29年 8月 24日	行事名	むべ行事食
	あっさりつけ麺、豚肉と野菜の胡麻風味サラダ、シーチキンとトマトのふわとろ卵炒め、フルーツ			
10	日 時	29年 8月 17日	行事名	わかくさ行事食
	カレーチャーハン、餃子、サラダ			
11	日 時	29年 9月 28日	行事名	むべ行事食
	鮭ちらし、カボチャと豆のサラダ、あおさの味噌汁、フルーツ			
12	日 時	29年 10月 19日	行事名	わかくさ行事食
	米飯、おでん、茶碗蒸し、フルーツ			
13	日 時	29年 10月 26日	行事名	むべ行事食
	ひじきの炊き込み御飯、白身魚のピカタ、青梗菜の炒め物、味噌汁、リンゴコンポート			
14	日 時	29年 11月 16日	行事名	わかくさ行事食
	大人様ランチ (オムライス・フライドポテト・ハンバーグ・サラダ)、フルーツ			
15	日 時	29年 11月 23日	行事名	むべ行事食
	米飯、味噌汁、ハンバーグ、カボチャの煮物、サラダ、フルーツ			
16	日 時	29年 12月 21日	行事名	わかくさ行事食
	お好み焼き、菜の花のお浸し、フルーツ、豚汁			
17	日 時	29年 12月 28日	行事名	むべ行事食
	明太しそ御飯、シチュー、小松菜と油揚げ煮、豚肉味噌マヨ炒め、デザート			
18	日 時	30年 1月 18日	行事食	わかくさ行事食
	米飯、団子のとり鍋、ポテトサラダ、フルーツ			
19	日 時	30年 1月 25日	行事食	むべ行事食
	米飯、しょうゆちゃんこ鍋、ほうれん草のおかか和え、フルーツ			
20	日 時	30年 2月 15日	行事食	わかくさ行事食
	米飯、コロッケ、味噌汁、あぶ玉煮、フルーツ			
21	日 時	30年 2月 22日	行事食	むべ行事食
	焼肉丼、小松菜ともやしのナムル、白菜とベーコンのスープ、デザート			

22	日 時	30年3月15日	行事食	わかくさ行事食
	ビビンバ丼、チヂミ、わかめスープ、大根と人参の酢の物			
23	日 時	30年3月22日	行事食	むべ行事食
	米飯、ぶりの照り焼き、野菜スープ、新玉ねぎの梅肉和え、いちご			

⑤甘味処 (ユニット・とわ)

日 時	おやつ名
4月10日	たこやき
4月20日	炊飯器チョコケーキ
5月4日	柏餅
5月14日	母の日ケーキ
6月16日	ぼたもち
6月18日	プリンアラモード
7月5日	七夕杏仁豆腐
7月12日	あんみつ
8月2日	ところてん
8月30日	かき氷
9月17日	ベビーカステラ
10月4日	お月見団子
10月29日	かぼちゃあんのどら焼き
11月5日	りんごゼリー
11月22日	スイートポテト
12月7日	ドーナツ
1月10日	ぼたもち
1月21日	お好み焼き
2月1日	節分恵方ロール
2月14日	チョコレートブラウニー
3月4日	桜餅
3月14日	ホットケーキ

(4) 栄養ケアマネジメント

①栄養ケアカンファレンス

月	人数	月	人数	月	人数
4	0	8	2	12	0
5	0	9	1	1	1
6	20	10	0	3	0
7	0	11	20	4	0

※開催回数 7回

合計 44人

(5) 衛生管理…従来型「3. 給食(5) 衛生管理」参照

(6) 会議・研修…従来型「3. 給食(6) 会議・研修」参照

《考察》

ご入居者の入れ替わりが少なく、半数以上が90歳以上となっている。全体的に食事の摂取量は減少し、嚥下機能の低下も見られる。ソフト食が1名、とろみ剤を使用している利用者が5名となった。細かい配慮が必要となってきている為、ますます調理師とも連携し、誤嚥の無いようにして栄養が摂れるようにしていく必要がある。また、状態への配慮はしつつも、これまで実施してきた手作り昼食(ユニット毎に月1回実施)や甘味処(2ユニット合同で月2回実施)といった“食の楽しみ”の機会は減らすことなく工夫して継続していけるようにしたい。

4. 施設ケアマネジャー

(1) 反省

畑 仁	ある程度の情報を集めてプランを作成していたがストレングスに着目する事が出来ずその場で必要な事みのプランになってしまった。
加瀬 久美子	問題が生じた時に職員間で話し合えたことは良かったと思うが、細かい部分など、もっと自分から情報を集めるようにする必要があると感じた。

(2) ケアカンファレンス・認定調査

①ケアカンファレンス実施回数

月	人数	月	人数	月	人数
4	2	8	4	12	6
5	2	9	6	1	7
6	5	10	2	2	5
7	3	11	2	3	5

開催合計 32回 延べ 49名

②認定調査の実施回数

月	人数	月	人数	月	人数
4	0	8	2	12	0
5	0	9	0	1	0
6	1	10	1	2	1
7	2	11	5	3	2

認定調査 合計 14件

5. 相談員…従来型「5. 生活相談員(1)反省」参照

6. 委員会

(1) 委員会活動報告(以下はとわのみの委員会)

5	物品購入委員会(とわ)	物品の不足チェックはしっかりと行ない発注が出来ていた。パットの使用量・頻度のチェックは出来ていたがその他の物品の使用量・頻度のチェックが出来ていなかった。
15	運営推進委員会(とわ)	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、地域の情報やイベント等の意見をもらっていたが、それを業務に活かす事が出来なかった。
16	リハビリ委員会(とわ)	入居者1名が車椅子での生活からPTと連携してシルバーカー歩行まで回復する事が出来た。それ以外の入居者についても現状維持で

		きている。
17	とわ菜園委員会（とわ）	季節に合わせた野菜、フルーツを植えたが、うまく生育せずに失敗してしまったものもあった。育てるのに成功した野菜はイベント食や通常食、おやつの際に提供して入居者様に好評であった。

(2) 行事報告

月	日	内 容	参加者			
			利用者	職員	その他	合計
4	2	ドライブ・散歩	3	3	0	6
	3		3	3	0	6
	6		3	3	0	6
	9		3	3	0	6
	10		2	2	0	4
4	16	5周年記念イベント	20	15	3	38
5	9	母の日イベント	20	6	0	26
6	6	とわ日帰り旅行&出前食	20	8	0	28
6	15	ドライブ	3	3	0	6
6	18	出張デパート	5	2	0	7
7	17	霞ヶ岡・山車&御輿来園	12	2	0	14
7	30	花火大会&出前食	20	5	0	25
9	21	ドライブ	4	3	0	7
10	10	ドライブ	3	3	0	6
	13		3	3	0	6
	23		3	3	0	6
	31		3	3	7	13
11	8	紅葉ドライブ	3	3	0	6
	10		3	3	0	6
	21		4	3	0	7
	27		3	3	0	6
11	30	かもめクルーズ	4	4	0	8
12	11	水郷イルミネーション	3	2	0	5
	19		3	2	0	5
	21		6	4	0	10
12	17	クリスマス会	20	10	0	30
1	10	初詣	4	4	0	8
	14		2	2	0	4
	16		3	3	0	6
	17		3	3	0	6
	22		3	3	0	6
2	1	豆まき	20	7	0	27
2	14	バレンタインデー	20	7	0	27

7. 研修…従来型「7. 研修」参照

8. 実習生受入れ…従来型「8. 実習生受入」参照

9. ボランティアの受け入れ…従来型「9. ボランティア受け入れ」参照

平成 29 年度 飛羽ノ園デイサービスセンター  
 指定通所介護・介護予防通所介護事業  
 土浦市介護予防・日常生活支援総合事業  
 (通常規模型・利用定 25 名)

1. 運営

今年度は要支援者の「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行へ向けての準備期間として位置付けた一年であった。利用者個々のニーズに応え柔軟に対応が出来るように、職員間での情報共有をし、方向性を確認しながら業務に取り組んだ。その中でも、利用者の生活環境や背景因子にも着目し全体像を踏まえた上での自律支援に意識を置いて支援を行った。一方、在宅で暮らす重度高齢者の利用率も上がり、特にリフト浴を希望する新規利用者も数件依頼が舞い込んだ。今後も選ばれ続ける施設となるべく、職員のスキルアップと柔軟性が問われる一年となった。

2. 物品購入・修繕報告

利用者の増加に伴い、ホール内にて使用の肘つき椅子を購入。また、デイサービスの開設当初から設置してあるホールと玄関の仕切りに使用しているアコーディオンカーテンを新しく購入。色合いもグリーンに変更し、落ち着いた雰囲気の演出に成功した。

物品名・修繕箇所	種別	評価
① 肘つき椅子	購入	従来の椅子より座面が低く、落ち着いた色合いのグリーンの物を購入。足台を用意しなくても床にしっかりと足が付き、安定しており好評価。
② アコーディオンカーテン	購入	ホール全体の雰囲気として穏やかな印象を与えており利用者からの評価も高い。

3. 実績報告

(1) 月別利用状況

目標としていた平均利用者数 19 名には 0.7 名、稼働率は 75%には 1.5%届かなかった。だが、前年度比においては平均利用者数 1.6 名の増加、稼働率においても 6.7%の増加となった。新規利用者の増加と利用者 1 人当たりの利用回数に増加が見られる。

また、定期的に行なった営業活動の成果か、実人数・稼働率の伸びが見受けられた。しかし、1 月 2 月は欠席利用者が増え延人数が減少してしまい課題を残した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運営日数(日)		25	27	26	26	27	26	25	26	26	24	24	27	309
実人数(名)		55	57	56	56	55	56	60	56	55	50	51	51	658
延人数(名)		457	504	466	474	483	530	491	481	493	390	412	500	5,681
平成 28 年度	平均利用者数(名)	16.2	16.1	16.5	16.8	16.4	16.0	16.1	16.0	16.9	17.3	18.3	18.0	16.7

	稼働率 (%)	64.8	64.4	66.0	67.2	65.6	64.0	64.4	64.0	67.6	69.2	73.2	72.0	66.9
平成 29 年度	平均利用者数 (名)	18.3	18.7	17.9	18.2	17.9	20.4	19.6	18.5	19.0	16.3	17.2	18.5	18.4
	稼働率 (%)	73.2	74.8	71.6	72.8	71.6	81.6	78.4	74.0	76.0	65.2	68.8	74.0	73.5
稼働率 (%) 前年度比		8.4	10.4	5.6	5.6	6.0	17.6	14.0	10.0	8.4	△4.0	△4.4	2.0	6.6

## (2) 年間利用状況の推移

利用者数 5,681 名、稼働率 73.5%と昨年の延利用者数より 501 名増加し、稼働率においても 6.6%の増加となった。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
延利用者 (名)	5,255	5,055	5,376	6,140	5,928
稼働率 (%)	68.0	65.6	69.2	79.6	77.6
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
延利用者 (名)	5,499	4,874	5,180	5,681	
稼働率 (%)	71.2	62.8	66.8	73.6	

## (3) 年間請求状況 (介護報酬のみ)

年間請求額合計は 39,191,123 円 (3,265,926 円/月) と前年度と比較すると年間 4,937,507 円 (411,458 円/月) のアップが見られた。利用者 1 人当たりの単価は 6,898 円と上昇し、+285 円となっている。内容としては、前年度と比べて介護度の重度化と延利用者数の増加が挙げられる。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	前年度比
4 月	2,749,804	2,800,229	3,151,139	350,910
5 月	3,102,689	2,642,047	3,509,132	867,085
6 月	3,073,434	2,802,319	3,239,373	437,054
7 月	2,748,814	3,062,574	3,185,317	122,743
8 月	2,847,565	2,963,374	3,185,021	221,647
9 月	2,889,808	2,748,487	3,740,887	992,400
10 月	2,964,973	2,749,195	3,405,808	656,613
11 月	2,505,572	2,675,725	3,316,446	640,721
12 月	2,349,911	2,770,762	3,336,766	566,004
1 月	2,448,109	2,736,565	2,736,546	△19
2 月	2,407,505	3,058,685	2,901,560	△157,125
3 月	2,659,007	3,243,654	3,483,128	239,474
合計	32,747,191	34,253,616	39,191,123	4,937,507
月平均報酬額	2,728,933	2,854,468	3,265,926	411,458
1 人当たり単価	6,719	6,613	6,898	285

## (4) 介護度別利用状況

要介護 1・2 の利用者が全体の 6 割を占めるようになった。前年度 739 名いた要支援 1 の利用者が 448 名となり全体の 7.8%へ減少した。継続利用者の身体状況の変化や認知症状の進行に伴い介護度が



上がったことや、要支援者をターゲットとしたサービス提供事業所の増加によるものも要因の1つと考えられる。また、要介護3・4・5の利用者が20.4%へ増加となり全体的に介護度の上昇傾向にあった。要介護度の高い利用者の受入体制が整っていたことも利用者の獲得に繋がったと考える。

今後、要支援者も満足できるような仕組みの展開が必要になると考えている。

	平成 28 年度		平成 29 年度		前年度比	
	延人数 (名)	構成比 (%)	延人数 (名)	構成比 (%)	延人数 (名)	構成比 (%)
要介護度						
支 1	739	14.3	448	7.9	△291	△6.4
支 2	503	9.7	672	11.8	169	2.1
1	1,834	35.4	1,916	33.7	82	△1.7
2	1,273	24.6	1,475	26.0	202	1.4
3	663	12.8	856	15.0	193	2.2
4	168	3.2	265	4.7	97	1.5
5	0	0.0	49	0.9	49	0.9
介護保険外	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	5,180	100	5,681	100	501	—

#### 4. 事業報告

##### (1) サービスの質の向上への取組

利用者はもちろんのこと、家族・ケアマネジャーからの要望や意見を活かして細かな部分まで対応することができた。一つには半日利用の希望者への送迎対応、二つ目に自立支援に向けて個々の能力のマネジメントを行い、より活動しやすいデイサービスホール内のレイアウトの変更、さらに、部署内での勉強会を年2回開催し、職員の接遇への意識を高める取り組みを行った。

##### (2) 通所介護・介護予防通所介護計画書作成

利用者の状態変化に配慮し、リスクが生じた場合にはすみやかに家族・ケアマネジャーへ報告し、介護計画書の見直しに努めた。また、筋力やADLの向上が見られた場合には自立した生活を送って頂くためにも本人にとってステップアップしたサービス内容に変更するようにした。また、多職種がそれぞれの利用者の心身の状態変化について情報を共有し、個々の目標に少しでも近づけるような支援方法を検討し、通所介護計画書へ反映させた。

##### (3) 入浴サービス（入浴者数・入浴率報告）

一般浴・個浴・リフト浴合わせて前年度比1.0%の入浴稼働率の減少があったが、個浴・リフト浴の稼働率はやや増加傾向にあった。入浴稼働率が減少したが様々なニーズに対応したことで結果、利用率の増加に繋がっていると考えている。具体的には、入浴の際にはバイタルチェックをもとに職員全体で情報共有し、安全に入浴ができるように配慮した。また、バイタルの数値が良くない方などへは看護師と連携し職員全体で声掛けを多く行なった。また、リフト付き個浴では、身体機能の向上に繋がったケースがあった。利用者の心身機能の状態を確認しながら、リフト浴より手すりバーを活用し浴槽をまたぐ訓練に徐々に移行していった。その結果、在宅での入浴が可能となり利用者自身も自信を取り戻すことができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利用延人数(名)	457	504	466	474	483	530	491	481	493	390	412	500	5,681	
入浴延人数(名)	341	357	334	331	338	369	324	328	335	260	292	369	3,978	
入浴率 (%)	平成28年度	80.2	73.5	79.6	83.0	84.2	77.6	71.8	57.5	56.0	61.4	60.5	66.9	71.0
	平成29年度	74.6	70.8	71.6	69.8	69.9	69.6	65.9	68.1	67.9	66.6	70.8	73.8	70.0
前年度比(%)	△5.6	△2.7	△8.0	△13.2	△14.3	△8.0	△5.9	10.6	11.9	5.2	10.3	6.9	△1.0	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個浴(名)	1	3	0	11	1	0	2	15	15	14	10	9	81
リフト付き個浴(名)	10	10	9	0	1	0	6	1	1	0	8	14	60

#### (4) 食事サービス

利用者一人ひとりの嗜好や疾病、要望を聞き、食の楽しみを忘れないよう支援にあたった。また、独居高齢者も増えている中、孤食も増えてきており、みんなで食べる喜びを味わえるような声掛けやおやつ作りを企画し、参加を促した。

#### (5) 排泄介助サービス(定時・随時)

プライバシーには十分配慮した。ベッド上にてオムツ交換を行なっている利用者においても、本来のトイレでの排泄行為を行なえる様、定時でのトイレ誘導や排泄チェックを行い利用者の自立へ向けた排泄介助を心掛けて行った。

#### (6) レクリエーション・行事

季節の花見や初詣など外出行事を企画したものの、天候に恵まれず中止となってしまうことがあった。しかし、夏祭りや敬老週間、クリスマス会など室内での行事は計画通り行なう事が出来た。おやつ作りや餅つきなど利用者参加型の行事に対しては「家じゃ何もやらせてもらえないから楽しかった」と話し非常に楽しまれていた。来年度は利用者一人一人が参加し楽しめるようなレクリエーションを考え満足度を高めたい。

#### 【レクリエーション・行事参加状況(実施回数もしくは参加人数)】

レクリエーション・行事名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
イントロクイズ	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
替え歌	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
輪投げ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
言葉あそび	2	1	1	2	1	5	3	2	2	1	2	2	24
伝言ゲーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
人生ゲーム	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ビンゴ	2	0	1	2	3	2	3	3	1	1	2	1	21
大漁ゲーム	0	2	2	2	2	3	2	2	0	2	0	1	18
ダービーゲーム	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
誕生会	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2	3	9
ちょんちょんゲーム	1	1	1	1	2	1	0	0	1	1	2	1	12

かるた	0	1	2	2	1	1	2	1	1	1	2	0	14
連想ゲーム	0	1	1	2	1	0	1	1	2	2	1	1	13
俳句	1	2	2	3	1	1	2	2	0	0	2	2	18
言葉探し	0	2	0	1	2	1	2	0	2	0	2	1	13
似顔絵リレー	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
飾り作り	5	0	2	1	1	3	3	6	6	6	7	2	42
すごろく	1	1	2	1	1	2	2	1	2	2	1	1	17
花瓶作り	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
タオルボール	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	4
ボーリング	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
パラソル玉入れ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
夏祭り準備	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
しりとり	0	0	0	0	0	0	2	3	2	1	0	0	8
ことわざクイズ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
虫食いクイズ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
創作活動	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
名札作り	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
写真作り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
いっどこでだれが	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
小鈴会	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
ドライブ	7	1	3	0	0	0	0	1	0	1	0	6	19
初詣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
餅つき	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
クリスマス会	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
夏祭り	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	22	15	20	22	21	23	26	23	22	24	25	26	268

(7) 個別機能訓練（介護）・運動器機能向上（予防）サービス

それぞれの利用者の生活の中で残存機能に応じた声掛け・見守り・一部介助での日常生活動作等のリハビリを実施した。また、その日によっての動作の違い等職員間で情報交換を行ない事故防止にも努めることができた。個別リハでは、機能訓練指導員による個々の身体能力に合わせた個別プログラムを作成し実施した。毎日、食前の口腔体操の充実、カラオケによる心肺機能の維持向上にも努めた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
機能訓練（名）	41	44	44	44	45	48	51	45	43	40	41	40	526
運動器機能（名）	12	11	11	9	8	8	9	10	10	9	9	10	116
合計	53	55	55	53	53	56	60	55	53	49	50	50	642

(8) 送迎サービス

【送迎状況】

事故防止と個々に合わせたルートや時間の調整等、利用者や家族の要望に応えられるよう努めた。危険箇所を職員間で把握をして事故防止に努めたが、車の左側面を擦る事故が2件発生してしまった。

回	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
迎え	42	54	54	54	55	54	58	55	53	50	51	47	627
(減算)	5	2	4	5	3	5	5	7	6	5	3	4	54
送り	43	55	55	54	55	54	58	56	54	50	51	48	633
(減算)	8	3	5	6	4	4	2	2	7	4	5	4	54
延回数	85	109	109	108	110	108	116	112	107	100	102	95	1,260

【送迎車両走行距離】

km	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ハイエース①	340	514	330	372	468	403	449	419	468	136	332	490	4,721
ハイエース②	355	308	333	209	350	118	222	348	198	364	127	127	3,059
ランディー	631	497	423	483	493	534	466	461	500	402	435	586	5,911
ステップワゴン	729	809	579	521	718	666	645	635	655	729	562	803	8,051
アルト	459	862	866	711	1,300	803	876	1,098	1,476	584	704	628	10,367
ハイゼット	253	314	319	316	435	513	358	421	399	298	342	396	4,364
ミラ	150	169	195	252	254	269	239	267	410	178	194	161	2,738
タント(特)	789	857	842	848	840	464	787	799	817	673	805	1,027	9,548
タント(居)	642	697	747	709	655	740	686	657	811	688	530	683	8,245
合計	4,348	5,027	4,634	4,421	5,513	4,510	4,728	5,105	5,734	4,052	4,031	4,901	57,004

\* 外出行事使用(走行)分を含む。他事業所使用(走行)分を除く。

(9) 看護報告(処置集計報告)

利用者本人からの訴えだけでなく声掛けや見守りによる体調確認やバイタルチェックをすることで、体調を把握して利用者に合わせて負担にならないようにサービスを提供できた。利用者の希望に応じて軟膏塗布・湿布貼付・点眼・内服薬の管理を行った。爪切りや耳かきも本人・家族では行えない方や希望される方に実施した。口腔ケアに対しては食後に実施し感染予防・誤嚥による肺炎予防に努めた。加湿器や濡れタオルを設置しインフルエンザなどの感染予防にも努めた。突然の体調不良時などは家族・ケアマネジャーに連絡し迅速な対応ができた。2ヵ月に1回全利用者、必要な方は毎回の体重測定を行い、家族やケアマネジャーへの報告を行なっている。

【処置集計】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
爪切り	0	0	0	0	0	0	3	2	2	6	1	0	14
軟膏塗布	19	7	27	16	8	8	9	8	11	11	14	15	153
ガーゼ	13	22	3	3	10	4	7	5	5	3	5	10	90
点眼	8	2	10	10	11	7	7	6	6	6	0	6	79

湿布等貼	7	8	18	13	23	25	20	14	20	8	4	6	166
内服薬	103	11	107	98	98	148	142	133	106	79	64	68	1,157
インシュリン	2	103	6	6	8	8	7	8	6	2	1	2	159
褥瘡処置	6	4	4	1	0	11	7	0	0	4	3	0	40
体重測定	41	13	12	6	2	6	7	0	0	0	1	0	88
合計	199	170	187	153	160	217	209	176	156	119	93	107	1,946

(10) ヒヤリハット報告

【平成 29 年度 アクシデント・インシデント・トラブル報告】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
歩行中転倒・痛みなし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
転倒（外傷なし）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
イスよりずり落ち	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
内出血・傷・骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
意識消失	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
異食・誤嚥・嘔吐	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
利用者間のトラブル	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	5
内出血・傷・やけど	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
暴力・暴言・触る	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	6
送迎時のトラブル	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
転倒・ふらつき	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
車の物損・スピード・接触	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
投薬間違い・紛失・服薬確認	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
トラブル・苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
備品物損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
連絡調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
介助時支え事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
浴室での事故	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
救急車対応	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3
車中・車のトラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
その他	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
合計	2	8	6	9	2	1	4	1	2	3	5	9	50

(11) 地域連携・貢献活動（介護予防教室等）

今年度は土浦市在宅介護支援センターより依頼を受け職員の派遣を行った。各地域の方と直接触れ合い、情報交換・発信をし、地域の中のデイサービスとして印象付けを図ることが出来た。

日程	場所	研修名
6月10日	上高津公民館	シナプソロジー楽しく脳を混乱させる
6月19日	天川公民館	シナプソロジー楽しく脳を混乱させる

11月13日	天川公民館	認知症と転倒予防の為のエクササイズ スクエアステップ
11月15日	永国団地集会場	認知症と転倒予防の為のエクササイズ スクエアステップ
12月5日	小松ヶ丘町公民館	シナプソロジー楽しく脳を混乱させる
12月19日	永国町公民館	シナプソロジー楽しく脳を混乱させる
3月4日	飛羽ノ園	認知症と転倒予防の為のエクササイズ スクエアステップ
3月10日	中高津公民館	認知症と転倒予防の為のエクササイズ スクエアステップ

(12) 実習生・ボランティア受入

【実習生・ボランティア受入報告】

種別	学校名	実人数 (名)	延日数 (名)
教員	茨城大学	4	5
	土浦日大付属高校	1	2
	お茶の水女子大学	1	5
	明星大学	1	
	常磐大学	1	
	流通経済大学	1	
	筑波大学	7	
	津田塾大学	1	
	筑波研究学園専門学校	1	2
新任職員	土浦市役所	4	1
	明治安田生命	5	26
合計		27	41

ボランティア名	来園回数 (回)
こもればの会	32
ハッピーサウンド	1
ハワイアンバンド	1
小鈴会	1
さくらの会	1
すずめの子	4
合計	40

5. 利用者状況

(1) 登録利用者

前年度の外部ケアマネジャー向けの内覧会・昼食会の開催の効果が継続している為か、介護度の高い利用者で入浴希望として新規登録があった。また、年数回の営業活動の成果もあると考えている。今後も継続して、営業活動・啓発事業を通して在宅で暮らす高齢者に向けて飛羽ノ園デイサービスの強みを発信していきたいと考えている。

	平成28年度			平成29年度		
	登録者数(名)	新規利用者(名)	利用終了者(名)	登録者数(名)	新規利用者(名)	利用終了者(名)
4月	52	3	0	58	3	3
5月	53	2	1	61	4	1

6月	54	1	0	62	2	0
7月	55	1	0	58	1	6
8月	57	2	0	59	3	1
9月	57	2	2	59	3	3
10月	58	1	0	61	3	3
11月	61	3	0	58	4	5
12月	62	1	0	57	1	3
1月	57	2	7	52	2	8
2月	57	1	1	58	9	3
3月	57	2	2	60	4	11
合計	680	21	13	703	39	47

### (2) 介護度別登録利用者

前年度比と比べると要介護2・5の利用者が増加している傾向にある。

前年度にトイレ・浴室の改善を行なったことにより幅広いニーズに柔軟な対応ができるようになり、その事が日々の営業活動や前年度の内覧会を通して内部を含めたケアマネジャーに周知を継続できているからだと考える。

	平成28年度 (平成29年3月31日現在)		平成29年度 (平成30年3月31日現在)		前年度比	
	実人数(名)	構成比(%)	実人数(名)	構成比(%)	実人数(名)	構成比(%)
要介護度						
支1	7	12.7	2	3.9	△5	—
支2	6	10.9	8	15.7	2	—
1	20	36.4	18	35.3	△2	—
2	12	21.8	13	25.5	1	—
3	7	12.7	7	13.7	0	—
4	3	5.5	1	2.0	△2	—
5	0	0	2	3.9	2	—
介護保険外	0	0	0	0	0	—
計	55	100	51	100	△4	—

### (3) 利用者年齢構成

前年度同様年齢・男女比共に少しずつ増加傾向にある。利用者が増えると共に個々のニーズも増えていくと考えられるので、利用者個々の状態(性別・年齢層・趣味・生活環境など)に合わせたサービスの提供に取り組み、家族とも連携しニーズ把握につとめ環境を整え、利用者の満足度を高められるよう対応していく。

年齢(歳)	平成28年度(名) (平成29年3月31日現在)		平成29年度(名) (平成30年3月31日現在)		前年度比(名)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
～64	0	0	0	0	0	0

65～69	0	1	1	1	1	0
70～74	1	0	1	0	0	0
75～79	1	2	2	1	1	△1
80～84	8	6	8	4	0	△2
85～89	6	15	6	15	0	0
90～	2	16	2	17	0	1
男女別合計	18	40	20	38	2	△2
男女比	31.0	69.0	34.5	65.5	—	—
合計	58		58		0	

(4) 町内別（市外含む）・中学校区別登録利用者（平成30年3月31日現在）

○町内別（市外含む）

地区	登録者数	地区	登録者数
霞ヶ丘	14	永国台	1
烏山	3	中央	2
小松	7	天川	2
小松ヶ丘	2	蓮河原新町	1
国分町	1	上高津	3
千鳥ヶ岡	4	東崎	1
中高津	6	中村南	1
富士崎町	5	川口	1
下高津	1		
		合計	55

○中学校区別

地区	登録者数
一中地区	5
二中地区	0
三中地区	1
四中地区	32
五中地区	0
六中地区	17
都和中地区	0
新治中地区	0
市外	0
合計	55

6. 職員勤務体制

(1) 平成29年度 個人反省

職種 勤続年数	氏名 (経験年数)	反省
管理者兼 生活相談員 12年0ヶ月	小松澤 雅美 12年6ヶ月	利用者一人一人に対して尊厳を持ったケアが実践できた。しかし、尊厳を持ったケアを職員全体で行なえたかというところ力不足を感じた。
生活相談員 4年0ヶ月	沼田 江里子 12年0ヶ月	利用者の心身の状況や環境に着目した相談援助がしっかりと行なえなかった。
機能訓練指導員 17年7ヶ月	戸村 優子 20年7ヶ月	個別機能訓練の計画書に個別性がなく評価や自宅訪問が間に合わなかった。
看護職員 6年1ヶ月	小野 啓子 24年0ヶ月	余裕なく処置に追われてしまうこともあったが、他スタッフとの情報交換により、利用者の健康状態の変化に気がつくことができた。



介護職員 9年4ヶ月	小嶋 裕美 13年1ヶ月	出来る事は自分で行なえるよう声掛けはしたが、なかなか応じてもらえず手伝うこともしばしばあった。残像機能を維持できる喜びを知ってもらえるよう声かけを継続していく。
介護職員 10年1ヶ月	庄司 紀世子 13年1ヶ月	利用者個々の強みを見出すことが出来なかった。得意分野を見出せる様に自己向上に努めたい。
介護職員 6年6ヶ月	永井 享美 9年6ヶ月	ニーズの把握が出来ず、押し付けになってしまうこともあった。本人の力を引き出せるよう努めたい。
介護職員 0年6ヶ月	鹿内 勝子 0年6ヶ月	介護のノウハウがまだまだ分からないことばかりで、利用されている方や諸先輩方に迷惑をかけてしまった。
介護職員 9年2ヵ月	原 菜保子 9年2ヵ月	多くの利用者とのコミュニケーションが出来た。引き続き多くの利用者とのコミュニケーションをしていく。

\* 「勤続年数」基準日は平成30年3月31日現在。「経験年数」は他事業所での経験年数との合算。

(2) 外部研修参加報告

日程	場所	研修名	参加者
6/7	茨城県総合福祉会館	H29年度 接遇マナー研修	沼田
11/27・28	茨城県総合福祉会館	H29年度 相談援助業務研修	沼田



## 平成 29 年度 飛羽ノ園居宅介護支援事業所

4月より特定事業所加算Ⅲを算定、年度途中で職員体制の変更があり、さらに9月からは一段高い加算Ⅱに変更した。加算算定に伴う業務体制などの見直しを図り、業務内容を充実させた。

1つ目は、利用者・家族からの緊急の相談に対応できるための24時間連絡体制の確保である。居宅の営業時間外の受付窓口となる事務室と、居宅事業所との連絡票を作成し、受付の段階で、必要最小限の聞き取りと、緊急性が見極めがしやすくなるように工夫した。

2つ目は、実際に緊急性が認められた場合に、ケアマネジャーに迅速に連絡が入るようにするための待機番の導入を実施。総括ケアマネジャーと主任ケアマネジャーの2名が週替わりで当たっている。

3つ目は、従来からの月1回の居宅会議に加え、週1回の情報伝達会の実施である。これにより、新規・終結・入退院などの各利用者の動静についての情報を全員で共有できるようになった。

4つ目は、介護支援専門員実務研修への協力として、他法人からの実習生受け入れである。平成29年度は2～3月にかけて3名の他機関からの実習生を受け入れ、主任ケアマネジャーが中心となり、訪問への同行や模擬的な書類作成の指導を行った。

### 1. 居宅介護支援事業所勤務体制

介護支援専門員（4名、内1名主任ケアマネジャー、1名非常勤）体制で運営。6月には全員が常勤となり、業務はスムーズに行われた。こまめに情報伝達会を開催する事で担当者が抱えている状況の共有や課題検討を行った。

#### <介護プラン>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
土浦市	104	104	105	108	111	112	114	109	105	105	102	106	1,285
市外	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	106	106	107	110	113	114	116	111	107	107	104	108	1,309

年度当初から年度半ばまた後半へと増減が見られるが、気温の上昇に向けて相談が増え、寒さに向けて終了（施設入所・永眠）する傾向である。例年同様在宅での見取りの希望者もあって状況に合わせて対応した。月平均担当数は109件である。市外2件、県外担当者は2件となっている。

#### <介護予防プラン（包括支援センター委託）>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
土浦市	25	24	24	22	21	22	25	28	28	25	24	23	291
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	25	24	24	22	21	22	25	28	28	25	24	23	291

減少・増加と多少の移動はみられるが、新規のケースより介護プランから予防プランへの移行またその逆のケースもあり、ほぼ安定した件数の支援となった。今年度より総合事業への移行があり、帳票作成変更はあったが、移行したことでのトラブルはなかった。市外・県外の予防担当者はなかった。

## 2. 居宅介護サービス計画実施状況（要介護度別分類）

### 居宅サービス契約者介護度別延べ件数前年度比

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
H28 年度	157	151	619	301	148	150	72	1,598
H29 年度	140	151	549	409	190	84	55	1,578

当事業所は要支援から要介護 2 まで利用者が約 80%を占めている。前年度と比較すると件数の減少は多少みられているが、支援困難ケースが増えている事が影響している。

## 3. 障害高齢者の日常生活自立度（日常生活の活動状況により区分）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
自立	2	0	3	1	0	0	0	6
J1	3	2	6	2	0	0	0	13
J2	2	5	13	6	0	0	0	26
A1	2	3	12	10	4	1	2	34
A2	0	3	7	10	5	3	0	28
B1	0	1	2	2	5	0	1	11
B2	0	0	1	0	0	2	0	3
C1	0	0	1	1	2	1	0	5
C2	0	0	0	0	0	1	2	3
合計	9	14	45	32	16	8	5	129

※区分の状態参照

J1.公共機関を利用し遠方まで外出レベル

J2.近隣への買物や町内距離程度外出レベル

A1.寝たり起きたりの状態だが、日常生活行為（食事・排泄・着替え等）日中はベッドから離れる時間が長く、介助のもと比較的多く外出する

A2.寝たり起きたりの状態でベッドから離れている時間が長いが介助者がいてもまれにしか外出しないレベル

B1.介助なしで車椅子に移乗し、食事・排泄等ベッドから離れて行う

B2.介助のもと、車椅子に移乗し、食事・排泄等に関しても支援を必要とする

C1.ベッドに常時臥床し、自力で寝返りがうてる

C2.自力で寝返りがうてずベッド上で常時臥床している

介護度の重い方は、通所・ショートステイをはじめ、各種サービスを混在し、できるだけ在宅生活が継続できるように支援をした。軽度者に関しては 1 人での外出が困難で通所サービス利用が多い状況となった。

#### 4. 認知症度（日常生活支援の状態により区分）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
自立	4	5	7	5	2	0	0	23
I	4	8	10	3	1	1	0	27
II a	1	1	10	4	4	1	1	22
II b	0	0	13	7	2	1	1	24
III a	0	0	3	11	6	1	1	22
III b	0	0	2	1	0	1	0	4
IV	0	0	0	1	1	2	2	6
M	0	0	0	0	0	1	0	1
計	9	14	45	32	16	8	5	129

#### ※区分の状況参照

自立.何らかの認知症を有するが家庭内・社会的にもほぼ自立している

I.日常生活に支障を来たす症状・行動は出ているが、支援があれば自立している

II a.家庭外でも上記症状が見られる（道に迷う・買物・事務・金銭管理を間違う）

II b.家庭内でも上記症状が見られる（服薬管理が出来ない・訪問客や電話の内容の間違いなど1人で留守番ができない）

III a.日常生活に支障をきたすような症状・行動がみられ意思疎通が困難で介護を要する

III b.日中を中心に上記症状が見られる（着替え・食事・排泄等上手にできない・異食・徘徊・大声・収集癖・不潔行為・性的異常行為等）

IV.日常生活に支障がある状況が常時見られ常に介護を要する

M.せん妄・妄想・興奮・自傷・他害等精神症状やそれに起因する問題行動が継続する

同居家族がいる方に関しては、認知症の進行が見られても、在宅での生活が継続できるケースが多い。主治医によっては判断基準に相違があり、レベル評価に開きができやすい。受診に同行や書類にて上申等行い、日常の状況を伝え評価に反映されるように行動した。

## 5. 居宅サービス利用割合

同法人で実施している事業の利用件数率を算定

### <通所サービス>

通所介護（前期）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	割合
飛羽ノ園デイ	33	33	34	37	37	35	209	50.73%
ながみねデイ	18	17	14	14	14	16	93	22.58%
憩いの里デイ	1	1	1	1	2	2	8	1.95%
合計	52	51	49	52	53	53	310	75.26%

通所介護（後期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
飛羽ノ園デイ	38	34	34	32	30	30	198	48.65%
ながみねデイ	16	16	13	14	15	15	89	21.87%
憩いの里デイ	2	2	2	2	2	2	12	2.95%
合計	56	52	49	48	47	47	299	73.47%

### <短期入所生活介護>

ショート（前期）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	割合
飛羽ノ園	10	10	13	13	14	12	72	54.55%
憩いの里	1	1	1	1	1	1	6	4.55%
合計	11	11	14	14	15	13	78	59.10%

ショート（後期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
飛羽ノ園	13	12	14	14	14	17	84	52.50%
憩いの里	1	1	1	1	1	1	6	3.75%
合計	14	13	15	15	15	18	90	56.25%

飛羽ノ園居宅介護支援事業所が所在する地域は社会資源の多く、需要と供給のバランスが良い為か、事業所集中減算の対象にならずに実施できた。憩いの里方面の担当者依頼があり、昨年より利用率は上昇しているものの、隣接エリアではないこともあり例年希望者が少ないことが影響している。

## 6. 同行訪問件数（新規及び困難ケース）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	1	1	0	5	2	1	2	1	3	4	2	0	22

新規ケース訪問はなし。支援困難ケースに担当者と総括ケアマネジャーが同行し、本人状況を確認、対応した。

## 認定調査

### 認定調査の実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
土浦市	10	6	11	7	7	9	4	8	6	9	5	5	87
市外	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
計	10	6	13	7	9	9	4	8	6	9	5	5	91

認定調査に関して土浦市より担当者のすべてではないが、委託が来るケースが多い。また市外に関しては都内、県外と同じ対象者の依頼が来るケースであった。

## 7. その他研修

### 研修内容

- ・介護支援専門員更新研修（Ⅱ） 11月2名参加
- ・主任介護支援専門員更新研修 開催時期が一定でなく通年で5回参加
- 6月 シームレスケア ケアマネジメントと協働
- 10月（2回）①北関東ブロック研修  
②内臓疾患、見取り期のケアマネジメント、社会資源と家族支援
- 11月 ケアマネジメントプロセスにおける基礎知識と課題整理総括表の理解
- 12月 居宅介護支援事業所（特定事業所加算）研修会
- ・祥風会 介護支援専門員研修（5月・11月）
- ・土浦ケアマネジャー研究会（5月・7月・9月・11月・1月・3月）
- ・土浦市在宅医療と介護の他職種連携研修会 11月
- ・土浦市医師会事例検討会（6月・7月・9月・10月・11月・1月）
- ・認知症市民フォーラム（12月）
- ・居宅介護支援事業の市町村への権利移譲に係る事業者説明会（1月）
- ・介護報酬改定の概要等事業者説明会（3月）





平成 29 年度 土浦市在宅介護支援センター飛羽ノ園  
土浦市在宅介護支援センター運営委託事業（四中地区担当）

1. 特別業務

状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(1)台帳作成	2	1	8	5	9	12	12	8	8	10	8	7	90
(2)緊急通報	0	1	0	1	3	1	2	1	0	2	0	1	12
(3)配色サービス	0	0	1	0	0	0	0	1	3	0	1	7	13
(4)啓発事業	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	3	11
合計	2	4	11	6	12	13	14	12	13	12	9	18	126

前年度は 79 件であり業務合計数は 36 件の増加。今年度は特別業務には含まれないが、「介護予防のための健康度調査」における二次予防事業対象者についての訪問依頼が 66 件あった。その中でニーズを把握し、介護保険申請やサービス利用に繋がったケースもあり、今後も定期的な台帳の見直しを行うことが必要と考えられる。

2. 相談

(方法×続柄集計)

		本人	家族	民生委員 近隣	市役所	包括	社協	事業所 病院等	その他	合計
業務時間	電話	50	22	24	6	9	4	12	1	128
	来所	1	1	1	0	0	0	0	0	3
	訪問	245	19	11	1	0	5	6	0	287
時間外	電話	1	2	0	0	0	0	0	0	3
	来所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	訪問	14	0	0	1	0	0	1	0	16
合計		311	44	36	8	9	9	19	1	437

前年度の相談数合計 237 件と比較すると 200 件の増加。内訳は、電話による相談は 55 件増加、来所による相談は 7 件の減少、訪問による相談は 152 件の増加である。今年度は「介護予防のための健康度調査」での訪問依頼や高齢福祉課・包括支援センター等からの見守り定期訪問が増えたことが背景にある。今年度は全体的な相談件数が増加したこともあり、「台帳見直し訪問」の進捗状況が悪かった為、今後の課題とする。

## (相談区分×続柄集計)

	本人	家族	民生委員 近隣	市役所	包括	社協	事業所 病院等	その他	合計
(1) 家族の支援	7	1	2	0	2	0	1	0	13
(2) 介護保険制度	25	9	0	1	0	0	5	0	40
(3) 福祉サービス	187	21	25	7	9	5	16	2	272
(4) 保健・医療	100	9	8	1	0	0	0	0	118
(5) 経済・住まい	0	1	3	0	0	0	0	0	4
(6) 地域の困りごと	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(7) その他	118	14	7	1	0	3	1	0	0
(8) 二次予防事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(9) 虐待・権利擁護	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(10) ケアマネ支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(11) 認知症関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	437	55	45	10	11	8	23	2	591

(2) 介護保険制度」が前年度比 68 件の大幅な減少となったものの、「(3) 福祉サービス」「(4) 保健・医療」「(7) その他」の増加がみられる。

## 3. 会議出席回数等

件 名	件 数
(1)ふれあい調整会議	6
(2)スクラムネット	12
(3)その他（在支連絡調整会議等）	25
合 計	43

ふれあい調整会議・スクラムネットで困難事例のケース検討を行い、様々な職種や立場の方々の意見を参考にして、解決のための対応を見つけることができた。また今年度より、民生児童委員定例会に出席し、地域との連携をより図ることができた。

#### 4. 啓発事業・地域支援セミナー実施状況

回	日時	地区	場所	テーマ・講師	参加人数
1	5月13日(土) 13:00~14:30	中高津 いきいきサロン	中高津公民館	「スクエアステップ～頭を使って楽しく転倒予防～」 スクエア・ステップ協会 青野昌子氏他2名	14名
2	5月21日(日) 13:30~15:30	永国東 社会学級	永国東町公民館	出前講座「認知症サポーター養成講座」 土浦市社会福祉協議会 橋本奈苗氏	19名
3	6月10日(土) 10:00~11:00	上高津 上高津新町	上高津公民館	「シナプソロジー～楽しく脳を『混乱』させる!？」 飛羽ノ園 戸村優子氏・鈴木明子	17名
4	6月19日(月) 10:00~12:00	天川 ふれあいクラブ	天川公民館	「シナプソロジー～楽しく脳を『混乱』させる!？」 飛羽ノ園 中島勇一氏・鈴木明子	50名
5	11月13日(月) 10:00~12:00	天川 ふれあいクラブ	天川公民館	「スクエアステップ～頭を使って楽しく転倒予防～」 スクエア・ステップ協会 青野昌子氏他4名	36名
6	11月15日(水) 10:00~11:30	永国台 はつらつクラブ	永国団地集会所	「スクエアステップ～頭を使って楽しく転倒予防～」 飛羽ノ園 沼田江里子氏・鈴木明子	12名
7	12月5日(火) 9:30~10:30	小松ヶ丘 高齢者クラブ	小松ヶ丘町公民館	「シナプソロジー～楽しく脳を『混乱』させる!？」 飛羽ノ園 戸村優子氏・鈴木明子	30名
8	12月19日(火) 10:00~11:30	永国むつみ会	永国町公民館	「シナプソロジー～楽しく脳を『混乱』させる!？」 飛羽ノ園 中島勇一氏・鈴木明子	23名
9	3月4日(日) 14:00~15:30	小松 ふれあいの会	特別養護老人ホーム 飛羽ノ園	「スクエアステップ～頭を使って楽しく転倒予防～」 飛羽ノ園 沼田江里子氏・鈴木明子	21名
10	3月10日(土) 13:00~15:00	中高津 いきいきサロン	中高津公民館	「スクエアステップ～頭を使って楽しく転倒予防～」 飛羽ノ園 沼田江里子氏・鈴木明子	18名
11	3月20日(火) 13:30~14:45	富士崎福寿会	富士崎公民館	出前講座「健康講座」/日常生活支援総合事業の案内 土浦市健康増進課 直井洋明氏・鈴木明子	17名

前年度同様、啓発事業の請求の上限が年6回であったが、受け入れ側の希望もあり11回の開催となり、複数回行った地域もあった。主に認知症予防の体操依頼が多く、シナプソロジーやスクエアステップ指導員の資格を取得した、飛羽ノ園デイサービスセンター職員からの派遣協力を得て実施をしてもらった。また高齢福祉課や健康増進課による出前講座を依頼し、講話や体操指導を頂いた。今年度は独自に活動している為介入が困難であった地区（小松ヶ丘）へ健康増進課と連携し、啓発事業を開催。認知症予防としてシナプソロジーを実施した。

## 5. 運営事業特別業務委託料請求状況

事業名	単価（円）	件数	合計金額（円）
台帳整備	3,240	90	291,600
緊急通報システム申請	3,240	12	38,880
配色サービス申請	3,240	13	42,120
日常生活ニーズ調査回収	540	0	0
啓発事業	8,100	6	48,600
合計		121	421,200

前年度合計 285,120 円から 136,080 円の増加となった。福祉サービスの申請増加もみられるが、今年度は介護予防のための健康度調査で 66 件の訪問依頼があったことが大きな要因と考えられる。

## 6. 動向と考察

- ・介護予防のための健康度調査による訪問を行い、調査から今回の訪問まで期間が経過していたこともあり調査したことを覚えている対象者は殆どいない中、訪問を拒否されることもあり、訪問についての通知等の周知が必要と思われる。
- ・家族が遠方で関わりが少ない場合、本人の現状に気付いていないことが多く、早期発見に繋がらないことが多かった。
- ・遠方の家族から、独居・高齢世帯の定期的な見守りを依頼されるケースがあり、高齢者の増加に伴い同様のケース増加が見込まれる。
- ・独居高齢者の近隣住民による安否確認の依頼があり、急な入院等で長期不在になる場合、複数の住民から安否確認の依頼がある。これは個人情報の観点から周辺住民への周知が出来ないことが要因である。
- ・独居高齢者であり地域との関わりが希薄な方への介入が困難な中、関係機関との連携・、家族へのアプローチも重要となってくる。

## 7. ケース報告（平成 29 年度 主なケース）

- ① 84 歳・男性・独居。心疾患あり何度か救急搬送されているが、定期受診せず服薬の必要性も理解していない。  
→定期訪問を行い、本人との信頼関係を築きながら状況確認し受診を勧めていた中、体調不良のため救急搬送され入院となる。状態回復傾向であったが、独居生活も難しく、これまで疎遠であった親族の支援により施設入所となる。
- ② 87 歳・女性・親族同居。親族より、本人「通帳・お金を取られた」との被害妄想あり包括へ相談。物忘れ症状あるが、かかりつけの病院はない。  
→同行訪問する。本人物忘れの自覚もあり、後日親族と同行し病院受診。服薬処方され、定期受診し様子を見ることとなる。

- ③ 87 歳・女性・独居。車両販売店より、何度も事故を起こし修理依頼があるが、店舗や日時を間違えていると包括へ相談がある。  
→同行訪問する。本人との会話の中、認知機能の低下がみられるが自覚はなく、親族へのアプローチを行った。今後は親族が関わり支援を行っていくこととなる。
- ④ 85 歳・男性・独居。近隣住民より「2～3 日洗濯物が干しっぱなしになっている」と高齢福祉課へ連絡があり。安否確認の為、自宅連絡・訪問したが応答なく郵便物も溜まっていた。  
→関係機関へ連絡。外出先で転倒し大腿骨骨折の為入院中であった。親族がいないことから退院後の生活に不安も聞かれ、介護保険申請となる。
- ⑤ 79 歳・女性・高齢世帯。遠方の長女から認知症の疑いがあるが、病院受診の拒否あり。同居の夫も認知症の対応が難しく、高齢福祉課へ見守り訪問依頼の相談がある。  
→定期訪問を行い、本人だけでなく同居家族との関係性を築き相談を受け、様々な情報提供をしていく。また遠方の家族も訪問頻度を増やし見守りをしていく。



平成 29 年度 特別養護老人ホーム憩いの里  
介護老人福祉施設・短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

## 【1】運営（運営方針に対する報告）

### 1. 介護福祉施設

昨年度に引き続き「認知症」「機能訓練」「医療重度化対応」をキーワードに運営に取り組んだ。「認知症」では認知症介護実践者研修に2名、認知症リーダー研修に1名の介護職員が参加することで今まで以上に認知症のある入居者への適切な介護に取り組むことができた。「機能訓練」では“楽しみの援助”と題した勉強会を開催し、集団体操や各ユニットでのアクティビティなどを行い、心身機能の維持に努めた。個別訓練も外部 OT の指導のもとで取り組んだ。「医療重度化対応」については喀たん吸引研修に介護職員を2名参加させることができた。また、特養の機能として看取り介護が必須となることで入居者が安心して最期を迎えられるように“施設での看取り”の勉強会を実施した。

今年度は昨年インフルエンザ感染者が多数発症してしまったことを踏まえ、入居者の安心・安全な場の提供の観点から職員の出勤時の検温、居室等の定期的な換気と手すり等の消毒を実施することで感染者数を前年度より減少させることができた。

### 2. 短期入所・介護予防短期入所生活介護

稼働率は80%を下回り、年々減少傾向である。緊急時の受け入れについても積極的に実施し、地域からも困ったときに利用できる施設を目指したが、施設内の他職種間での連携が思うようにいかなかったように感じた。今後は緊急時の受け入れマニュアル等を整備し、地域の社会福祉法人の運営施設としての役割を職員間で理解し、スムーズな受け入れができるよう体制を整えていきたい。

憩いの里のサービスを利用されていない方の入所申し込み者数の減少から、長期ショートステイから入居となるケースが多く、長期ショートステイの方の延べ人数の減少が原因である。後半は稼働率80%を超えているので引き続きケアマネジャーへの空き情報の随時報告と広報誌の活用により新規ショートステイの利用者増に繋げていきたい。

### 3. 稼働率報告

種別	ユニット		ショートステイ	
	28	29	28	29
年間ベッド数（最大）	25,550	25,550	3,650	3,650
延べ人数	25,416	25,384	2,973	2,917
稼働率（%）	99.5%	99.4%	81.5%	79.9%

## 【2】事業実績（主に数値的な報告）

### 1. 利用者推移・実数

#### （1）入所者数

月	入所	退所
	ユニット	ユニット
4	1	1
5	1	1
6	2	2
7	1	1
8	1	1
9	1	1
10	2	3
11	3	2
12	0	0
1	4	4
2	1	1
3	0	0
合計数（月平均）	17 (1.4)	17 (1.4)
前年度合計数	14	14

#### （2）入所・退所経路

入所経路	ユニット	退所経路	ユニット
居宅	8	永眠	13
病院	5	病院	4
老健	2	老健	0
GH	2	居宅	0
計	17	計	17

#### （3）要介護度別 ※平成 30 年 3 月 31 日現在

要介護度	性別		人数計	前年度
	男	女		
1	0	0	0	1
2	2	7	9	12
3	7	16	23	18
4	4	23	27	31
5	0	11	11	8
合計	13	57	70	70
平均要介護度	3.2	3.7	3.6	3.5



(4) 年齢構成 ※平成 30 年 3 月 31 日現在

		～64 歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳～	計
特養	男性	1	0	1	1	3	4	3	13
	女性	0	0	0	2	5	14	36	57
合計		1	0	1	3	8	18	39	70
前年度		0	0	1	1	12	16	40	70

(5) 入所者要介護度別利用状況

①特養

月	要介護度	1	2	3	4	5	合計
4	実人数	1	11	18	33	8	71
	延人数	30	330	516	981	240	2,097
5	実人数	1	11	18	32	9	71
	延人数	31	341	521	971	279	2,143
6	実人数	1	11	17	33	10	72
	延人数	30	330	499	954	267	2,080
7	実人数	1	11	17	33	9	71
	延人数	31	341	523	1,002	269	2,166
8	実人数	1	11	19	31	9	71
	延人数	31	341	566	951	249	2,138
9	実人数	1	11	19	31	9	71
	延人数	30	330	569	900	269	2,098
10	実人数	1	11	19	30	10	71
	延人数	31	341	571	867	310	2,120
11	実人数	1	12	19	29	11	72
	延人数	30	353	555	831	324	2,093
12	実人数	1	11	19	19	12	62
	延人数	31	341	589	836	372	2,169
1	実人数	1	10	21	21	13	66
	延人数	8	310	618	864	365	2,165
2	実人数	0	10	22	22	11	65
	延人数	0	280	596	776	308	1,960
3	実人数	0	9	23	23	11	66
	延人数	0	279	713	837	341	2,170
29 年度	実人数	10	129	231	337	122	829
	延人数	283	3,917	6,836	10,770	3,593	25,399
28 年度	実人数	8	158	201	385	101	853
	延人数	241	4,745	6,040	11,375	3,015	25,416

《考察》

特養稼働率は、外部からの入所を除き、空床が続かないよう対応することができた。しかし入所申込者が伸びず、外部機関との連携や広報活動が必要だと感じた。

(6) 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

月	要介護度	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合 計
4	実人数	0	0	1	4	6	5	1	17
	延人数	0	0	5	21	72	78	7	183
5	実人数	0	0	0	5	4	3	1	13
	延人数	0	0	0	27	86	72	25	210
6	実人数	0	0	0	5	6	4	2	17
	延人数	0	0	0	26	102	55	10	193
7	実人数	0	0	1	3	6	9	0	19
	延人数	0	0	2	27	108	109	0	246
8	実人数	0	0	1	4	8	8	0	21
	延人数	0	0	2	24	124	108	0	258
9	実人数	0	0	0	2	10	9	0	21
	延人数	0	0	0	15	120	112	0	247
10	実人数	0	0	1	5	6	9	0	21
	延人数	0	0	7	20	110	117	0	254
11	実人数	0	0	0	4	7	7	0	18
	延人数	0	0	0	24	109	125	0	258
12	実人数	0	0	0	6	5	8	0	19
	延人数	0	0	0	54	96	129	0	279
1	実人数	0	0	0	6	5	8	0	19
	延人数	0	0	0	62	67	136	0	265
2	実人数	0	0	1	5	3	9	0	18
	延人数	0	0	2	48	38	162	0	250
3	実人数	0	0	2	3	3	9	1	18
	延人数	0	0	6	36	21	208	3	274
29年度	実人数	0	0	7	52	69	88	5	221
	延人数	0	0	24	384	1,053	1,411	45	2,917
28年度	実人数	0	2	32	55	62	70	5	226
	延人数	0	5	202	552	846	1,333	35	2,973

《考察》

ショートステイ稼働率は 79.9%と、目標数値には至らないも年度後半は 8割で推移することができた。しかし新規利用者が少なく、特養と同様、広報活動が必要だと感じた。

### 【3】重点目標

#### 1. 温かい介護の提供

ユニットケアの原点である「暮らしの継続」が実施できているかどうかを入居者とのかかわりを密にとることで問題点を抽出し、解決に向けた取り組みを多職種協同で実施し、24 シートを見直し、入居者個々の今までの暮らしに合ったサービス提供を心掛けた。職員の声掛けも一緒に生活している家族の一員であることを忘れずに接するよう心掛けることで以前よりも職員の意識に変化が見られた。

#### 2. 元気に暮らす

介護者が過剰に介護することで介護状態の悪化に繋がることを意識付けた。本人の意向を尊重することで入居者一人ひとりが元気で尊厳を保ちながら生活できる自立支援の考えで介護に取り組むことができた。ユニットでのアクティビティや作業療法士と協力して日中の活動量を増やすことで夜間良眠に繋がり、適切な生活リズムができた。

#### 3. 医療もしっかり勉強する

平成 30 年度の介護報酬改定により医療依存度の高い入居者が想定されることもあり、介護職員も率先して、喀痰吸引研修・実地研修を受講した。今後も計画的に研修修了者を増やしていくことで夜間帯の介護職員による喀痰吸引体制を整備すると共に各種医療依存度の高い方の受け入れができるよう引き続き、多職種協同で知識を身に付けられるような研修体制を構築していく。

##### 《考察》

今までの“あたりまえの介護”を見直し、“入居者視点の介護”を実践することで入居者の尊厳保持、心身機能の維持に繋がることをさらに学ぶ必要性を感じた。確かに施設は“生活の場”であるが、機能訓練により心身機能が維持・向上することで入居者の方が“自立した望む生活”を営むことができ、介護職員の介助量の減少にも繋がり、今までよりも入居者のための様々な取り組みが実践できると考える。また、ユニットケア研修に参加していない職員がユニットケアを理解するためにも研修に参加した職員を主体に定期的に勉強会を開催する。ユニットケアの強みを生かした自立支援ができるよう職員育成が今後の課題である。

#### 4. 介護職員反省

##### (1) 主任

飯村 和也	各ユニットの状況を少しずつ把握し、根拠に基づいた介護に繋がる様に考えた。職員間の情報共有が難しく、ケア統一や方向性の共通理解が難しかった
奥河 友司	職員間でコミュニケーションを取り、各ユニット内の情報を把握できたが、施設全体で統一したケアを提供できるよう努めたが、不十分なことがあった為、来年度に繋げていきたい。

(2) ユニット別目標

あじさい	ショートステイユニットとして、ご本人様、ご家族様のご要望に応えられるよう、コミュニケーションを図りながらの支援に努めた。ユニット内でも楽しみのある生活が送れるよう、おやつ作りやレクリエーション活動を工夫しながら行った。	
	ユニットリーダー 知念 光子	育児休暇中
	ユニットリーダー 廣瀬 巧	申し送りなど職員間の情報共有を密にすることで、統一したケアの提供をすることが出来た。
	石川 朋子	ユニット内工作や飾り付けを充実させるように努めた。利用者様の体調変化に気をつけ、対応を行った。
	國府田 洋子	利用者様と交流は図れたと思うが、体調変化は見逃しがあったと思う。
	辻村 富美子	職員や入居者様とも関わりを持つことが出来た。日々の仕事の中で、進んで動けることが出来た。コミュニケーションをもっと大切にしていきたい。
	山崎 寿史	ユニット内にてレクや体操を行い ADL 向上につながる様に努めた。利用者様の要望に応えられるように心がけた。

りんどう	午後の時間に体操・レクリエーションを行い、入居者様も楽しんで参加されていたようで、目標が達成できたと思う。参加したくない方も時々いたので、その方が参加したくなるようなレクリエーションを提案し、参加を促していかれたらと思う。	
	ユニットリーダー 糸井 忍	一人一人得意分野を出し合い、ユニット内が良くなるよう努めた。入居者様に楽しんで過ごして頂けるよう、体操やカラオケを行ったり、メリハリのある生活が送れるよう心がけて行えたと思う。苦手部分もまだ多くあるので、頑張っ て取り組んでいきたいと思う。
	栗原 由紀子	個々のレベルや状態変化に合わせた介護支援を行うことで利用者様が「できる事」をして頂くことができた。
	中島 隆	業務の優先順位については利用者様を第一に考え、後に回しても差し支えない業務は後に回して仕事を行った。利用者様の訴えが重なってしまった時は、あせりから優先順位を考えて仕事することができなかった。 自分自身の介護ミスが目立った。これからも研修で学んだことを活かし、利用者様にとって最も良い介助方法を考え、提案していきたい。
	戸邊 学	分からない事がないよう、業務の流れを覚えることができた。

つつじ	介助に時間をとられ「ゆとり」「楽しみ」のある生活を提供することが難しかった。職員間の報告・相談をより密にし、独自の介助方法を少なくしケア統一していくことが必要だった。	
	ユニットリーダー 飯村 和也	各ユニットの状況を少しずつ把握し、根拠に基づいた介護につながるように考えた。職員間の情報共有が難しくケア統一や方向性の共通理解が難しかった。
	大図 幸江	毎日の作業や介助に追われてしまった。もっとコミュニケーションがとれたら良かった。
	佐藤 健人	業務の流れがうまくいかず、利用者様のペースに合わせられないことが目立ってしまった。

	松尾 裕太	ユニット異動があり、不安や焦りから失敗することが多くあり、未熟さを痛感する1年になった。次年度は自分のやれること・やりたいことを積極的に提案・行動していき、明るく笑顔の多いユニットにしていきたい。
	木下 久美子	日々の業務に慣れず、利用者様が声かけしにくい環境になってしまったことで、利用者様の身体の変化の気づきにも遅れてしまった。今後は心に余裕を持ち、介護していきたい。

カ ン ナ	笑顔で接することで入居者様も笑顔になっていただけることがあった。連絡ノートを活用し、些細なことも記入するよう働きかけることでユニット職員全員で「ホウレンソウ」を心がけることができるようになった。	
	ユニットリーダー 坂本 卓巳	チームで同じケアが行えるよう表を作り、統一したケアが図れるよう、指導を行った。しかし職員によっては差があり、上手く行った部分もあれば、上手く行かなかった部分も出た。今後は何故上手く行かなかったかを考え、統一したケアが行えるようにしていきたい。
	吉川 美樹	業務優先で自分のペースになってしまい、入居者様個人に合わせた介護が出来なかった部分がある。職員間の報連相は連絡ノートや口頭で行い、出来ていたと思う。
	江端 弘美	職員同士の連携は時々連絡忘れや確認事項漏れなどがあった為、二度三度の確認等で貴重な時間を費やしたり、入居者様に迷惑をかける結果となった。連絡ノートを有効に活用し、また少しでも分からない事があれば、リーダーや他職員と口頭で確認しあい、ユニット職員が同じサービスを行えるようにしたい。
	藤田 祐司	急ぎすぎたりする為、忘れっぽい事が多くあったので、確実な行動が所々で出来てなかった。
	来栖 ひろみ	ADLの差により、みんなで行う事が難しくなっており、ボール・お手玉・かるた等を使い、レクリエーションと言うより個々のリハビリになってしまった。

ひ ま わ り	利用者様個々に合わせた援助、支援を心がけて対応できた	
	中川 愛	入居者様の状態にともない、職員間での情報共有ができ、入居者様に合わせた介助ができたと思う。引き続き継続して対応していきたいと思う。
	来栖 和明	入居者様の状態に応じて介護支援が出来たと思う。今後も入居者様の状態、体調の変化等に留意し、介護支援に努めていきたいと思う。
	小松崎 明美	利用者様とコミュニケーションを多くとれたと思う
	来栖 功	H30.3月入職
	市川 久美子	体調不良が多かったので、体調管理をしっかりしたい。 利用者様としっかりコミュニケーションがとれたと思う。

ば ら	一人ひとりの介護技術の向上に努め、個々にあったケアが提供できるようにする	
	ユニットリーダー 奥河 友司	入居者様と積極的にコミュニケーションを図り、状態観察に努めることができた。ユニット内ではケアの統一が出来ていない部分があったので、今後改善していけるよう努力していきたい。
	高野 知世	育児休暇中

	福田 泰広	個別ケアが根づいた中で、利用者様に対して集団ケアにもっていくことは、難しいものがあった。食事・入浴・口腔ケア・睡眠において可能な部分とプラスαで個別ケアの実施をするに留った。
	大杉 亮太	ユニット環境での工夫や改善は、思うようにできなかった。その他では散歩や写真撮影での話題提供により、季節感を楽しんでいただけたと思う。
	木村 明美	個別ケアを充実させるには、スタッフ間の情報共有が大切だと思うが、職員間のコミュニケーションが足りないところがあったと思う。
	来栖 健太	H30.2月入職

す い せ ん	職員一人一人が支援する介護内容を考え、業務にあたることができた。	
	ユニットリーダー 海老沢 秀樹	入居者の生活リズムを把握し、その方に合った生活を考えながら支援することができた。
	高野 直子	リハビリ体操を行えなかった。“時間がなくて”は自分の言い訳になってしまうので、時間をつくる努力をしていない事が大きな反省。
	西川 和宏	午前中か午後のテレビ体操で一部の利用者様とわずか5分の体操でリフレッシュすることができた。車椅子生活で過ごされることが多いため、出来る限り自力で自走して身体機能を心掛ける。居室排泄時、離床時の際に介助が必要な方に対しては、手足を動かして拘縮を回避してきた。更に手足の動かす機会を多くしていきたい。
	野口 恵美子	入居者様との交流があまりできなかった。集団、個別でのかかわりを増やせるようにしていく。
	丸本 由美子	利用者様の状態を観察しながら介護をすることが出来た。

コ ス モ ス	入居者様が安全に個浴を実施できるよう、車椅子の方にはシャワーチェアで対応したり、浴槽に浸かる際に浴槽内に浴槽台を購入し、入居者様が安心して入浴できるよう努めることができた。余暇活動で体操、散歩の他に、輪投げ風船バレー、カラオケなど取り入れ、笑顔になったり、利用者様からも「気分転換になるね」と声を頂き、身体機能だけでなく、精神的な部分でのストレス軽減にも繋がったのではないかと考える。	
	ユニットリーダー 横山 湧	朝は気持ちよく起きてこられるよう整容をしっかり行い、入居者様がリビングに出ても恥ずかしくないよう、一人一人の服装を整える努力を行った。今後余暇の時間は様々なレクリエーションや体操を行い、入居者様がやりがいを感じ、笑顔になれ、新しいレクリエーションなどを取り入れていきたい。
	山本 尚	入居者様それぞれの居室内の室温や環境整備、身だしなみ、着衣の調整を行うことができた。また、入居者様の興味ある事に対して会話を通して深めることができた。今後はユニット内で季節感を感じられるようにムラのないようにしていきたい。
	小袖 唯	自分だったらどうだろうか？と考えることを忘れずに、生活環境を保つことができた。当たり前な事をしっかりと毎回続ける。男性なら髭剃り、女性なら髪やお化粧など、日々の生活での日課を継続できるように配慮をした。季節の行事などは行事によってバラつきがでてしまったので、次年度の目標としたい。
	石川 友里	入居者様一人一人の居室に合わせた環境整備が行えた。また起床時のモーニングケアに力を入れて行う事ができた。

宮川 美月	朝は整容を忘れずに行う事ができた。また、入居者様と積極的に会話をし、楽しんでもらえるような対応をした。
-------	---

## 5. 医務

### (1) 看護職員反省

矢島 京子	体調不良者の方の看護が中心になり、他の入居者様とのコミュニケーションが少なかった。
黒田 幸恵	スタッフとの協働が足りない場面があった。
栗原 まさ江	時に業務に追われ、入居者様とのコミュニケーションが希薄になることもあった。
勝城 美枝子	スタッフとのコミュニケーションを図り、一人一人にあった看護、援助が出来たと思う。
村野 いづみ	一人一人に合った看護が提供できたと思う。
蛸島 孝子	H30.2月入職

### (2) MMSE 実施状況

※30点満点中20点以下は認知症の可能性が高いと言われている（診断結果は参考）

年齢	性別	点 数							計
		0	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	
~64	男	0	0	0	0	1	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
65~69	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
70~74	男	1	0	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
75~79	男	0	0	0	0	1	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	1	1	2
80~84	男	0	2	0	1	0	1	0	4
	女	0	2	2	0	0	2	0	6
85~89	男	0	0	0	2	1	0	1	4
	女	3	0	0	3	3	1	1	11
90~95	男	0	0	2	0	0	0	0	2
	女	4	3	3	2	9	2	3	26
96~	男	0	0	0	1	0	0	0	1
	女	1	2	2	2	1	1	1	10
計		9	9	9	11	16	8	7	69

(3) 日常生活状況 (ADL の状況) ※平成 30 年 3 月 31 日現在

①あじさい

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	8	0	0	0	7	1	0	5	3	0	5	3
前年度	4	1	1	1	4	1	0	5	1	0	5	1
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	0	5	3	6	2	0	3	1	0	0	4	0
前年度	1	4	1	5	0	1	2	2	0	0	2	1

②りんどう

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	6	2	2	4	4	2	0	8	2	3	5	2
前年度	5	4	1	3	5	2	0	7	3	4	3	3
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	1	3	2	5	3	2	4	0	0	2	2	2
前年度	4	3	3	7	2	1	4	3	0	0	1	2

③つつじ

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	4	5	1	1	2	7	0	2	8	1	3	6
前年度	5	5	0	3	2	5	0	3	7	3	4	3
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	2	1	7	3	2	5	0	0	0	4	1	5
前年度	3	2	5	5	0	5	1	0	0	5	0	4

④カンナ

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	7	2	1	4	5	1	2	6	2	4	5	1
前年度	6	4	1	5	5	0	3	7	0	4	6	0
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	5	2	3	5	4	1	4	1	0	3	0	2
前年度	5	4	1	6	2	2	4	1	0	2	1	2



⑤ひまわり

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	6	2	2	1	5	4	1	5	4	2	2	6
前年度	5	4	1	0	3	7	0	3	7	1	4	5
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	1	2	5	3	3	4	2	0	0	1	3	4
前年度	0	4	6	3	0	7	0	2	0	0	3	5

⑥ばら

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	3	6	1	2	5	3	0	7	3	2	5	3
前年度	8	2	0	1	7	2	0	2	8	1	2	7
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	2	5	3	2	5	3	0	1	9	2	5	3
前年度	3	3	4	7	1	2	2	0	0	3	3	3

⑦すいせん

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	7	1	2	1	6	3	0	6	4	0	6	4
前年度	6	3	1	3	3	4	0	6	4	3	3	4
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	1	6	3	7	0	3	1	1	0	0	5	3
前年度	3	3	4	4	4	2	2	3	0	0	1	4

⑧コスモス

区分	食 事			排 泄			入 浴			着 脱		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	7	2	4	4	4	2	0	8	2	0	8	2
前年度	6	2	2	2	6	2	0	8	2	0	8	2
区分	移 乗			寝 返 り			移 動 (歩 行)			移 動 (車 い す)		
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助
人数	0	4	2	8	1	1	3	1	0	2	1	3
前年度	4	4	2	8	0	2	4	4	2	4	3	3

(4) 処置・看護記録集計 (ショートステイ含む)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
点眼	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324
処置	88	176	154	257	237	184	133	193	148	169	147	132	2,018
軟膏・湿布	59	59	59	59	59	59	59	59	59	57	57	57	702
テープ	7	7	7	8	8	8	8	8	8	9	9	9	96
救急対応	0	0	1	0	1	0	1	0	0	4	0	0	7
看取り	1	0	2	1	1	1	1	2	0	2 (1)	1	0	12 (1)
入院	0	0	1	1	1	3	0	0	3	0	0	0	9

(5) 他科受診年間状況

受診科名	眼科	内科	整形外科	皮膚科	リウマチ	総合診	合計
延人数	14	400	16	105	6	3	1,139
受診科名	外科	歯科	訪問歯科	脳神経外科	呼吸器科	消化器	
延人数	0	0	585	1	2	4	
受診科名	循環器						
延人数	3						

(6) 入浴実施状況

①特養

あじさい

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個浴	59	58	59	73	85	74	79	75	96	83	71	66	878
特浴	15	20	27	35	30	25	34	37	27	33	37	48	368
清拭	1	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	2	8
合計	75	78	86	108	115	99	113	115	124	117	108	116	1,254

りんどう

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個浴	58	56	62	69	72	57	56	80	64	67	68	66	775
特浴	26	31	28	24	26	25	24	20	26	17	13	18	278
清拭	2	5	2	0	1	3	2	6	1	1	1	0	24
合計	86	92	92	93	99	85	82	106	91	85	82	84	1,077

つつじ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個浴	32	52	46	42	47	45	38	34	34	40	33	36	479
特浴	48	40	43	43	44	43	50	54	50	57	48	54	574
清拭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	80	92	89	85	91	88	88	88	84	97	81	90	1,053

### カンナ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個浴	87	90	94	85	91	82	73	79	80	83	74	83	1,001
特浴	0	0	0	0	0	3	7	8	8	8	8	9	51
清拭	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4
合 計	87	91	94	85	91	85	83	87	88	91	82	92	1,056

### ひまわり

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個浴	42	42	45	48	45	42	47	45	43	44	41	48	532
特浴	28	28	30	31	29	28	29	29	28	28	28	30	346
清拭	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	70	71	75	79	74	70	76	74	71	72	69	78	879

### ばら

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個浴	68	67	69	69	69	64	70	70	70	70	56	70	812
特浴	16	18	18	16	16	16	16	16	16	16	24	24	212
清拭	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	84	86	87	85	85	80	86	86	86	86	80	94	1,025

### すいせん

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個浴	50	56	58	56	68	52	50	49	62	54	48	54	657
特浴	31	33	29	26	29	26	31	25	25	27	30	36	348
清拭	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	4
合 計	82	89	87	82	97	78	83	75	87	81	78	90	1,009

### コスモス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個浴	47	57	60	56	58	58	58	59	59	62	63	68	705
特浴	38	35	34	30	33	30	27	27	24	23	15	22	338
清拭	2	1	0	6	0	0	1	1	0	0	1	0	12
合 計	87	93	94	92	91	88	86	87	83	85	79	90	1,055

### 《考察》

安心・安全に入浴できる環境作りを行い、入浴事故はなかった。特浴は看護師も付き添い、皮膚状態の観察を行うことで、早期発見・早期治療をすることができた。

## 6. 給食

### (1) 反省

弓野 つかさ	入所者の意見を反映させたメニュー作りに取り組むことができた。
--------	--------------------------------

### (2) 平成 29 年度 栄養給与基準量及び通常食提供量

	1 補給 -	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミン C	食塩
単位	Kcal	g	g	mg	mg	mg	mg	mg	g
目標値	1,632	60.0	45.3	600	10.0	1.00	1.17	100	7.3
4 月	1,597	59.8	39.8	524	8.1	0.81	0.80	97	8.0
5 月	1,614	60.6	40.6	531	8.2	0.82	0.81	94	7.9
6 月	1,597	60.3	39.7	537	8.0	0.79	0.80	95	7.9
7 月	1,598	59.7	40.4	532	8.0	0.85	0.80	93	7.8
8 月	1,602	60.7	39.8	546	8.4	0.83	0.82	99	7.7
9 月	1,601	61.6	40.8	560	8.5	0.82	0.86	92	7.8
10 月	1,595	60.5	40.0	528	8.5	0.81	0.84	86	7.9
11 月	1,603	61.0	40.6	551	8.6	0.82	0.83	89	7.8
12 月	1,610	60.5	40.8	531	8.1	0.83	0.82	91	7.9
1 月	1,598	59.8	39.5	523	8.0	0.80	0.80	88	8.0
2 月	1,606	60.8	40.3	527	8.9	0.79	0.82	90	8.2
3 月	1,593	60.6	38.6	529	8.6	0.77	0.79	87	8.0

### (3) 食事提供状況

#### ①食数

	朝食	昼食	夕食	合計
特養	25,546	25,286	25,416	76,248
ショートステイ	2,015	2,554	2,362	6,931
デイサービス	0	7,018	0	7,018
職員	0	4,606	0	4,606
来客	0	37	0	37
実習生	0	28	0	28
延人数	27,561	39,529	27,778	94,868

#### ②毎食事の検食実施（検食簿記入）

有

#### ③選択食

日時	A	B
6 月 15 日	天井	親子丼

#### ④行事食

1	日時	4 月 7 日	行事名	お花見弁当
	さくらごはん、清汁、鱈の照り焼き、海老フライ、唐揚げ、炊き合わせ、漬物、フルーツ			
2	日時	5 月 5 日	行事名	子供の日
	五目ちらし、清汁、天ぷら盛り合わせ、フルーツヨーグルト、おやつ：こいのぼりパームケーキ			
3	日時	5 月 24 日、25 日	行事名	新茶イベント
	新茶、練りきり			

4	日 時	7月7日	行事名	七夕
	七夕ちらし、清汁、天ぷら、フルーツ（すいか）、おやつ：七夕ゼリー			
5	日 時	8月11日	行事名	和食バイキング
	鱈の塩焼き、唐揚げ、豆腐つくねの甘辛焼き、清汁、ごぼうサラダ、フルーツ寒天			
6	日 時	9月18日	行事名	敬老会
	赤飯、清汁、刺身、天ぷら、豚角煮、五色なます、香の物、マロンババロア			
7	日 時	9月28日	行事名	プレートランチ
	バターライス、コンソメスープ、チキンプレート、和風スパサラダ、フルーツ			
8	日 時	10月19日	行事名	長崎郷土料理
	長崎ちゃんぽん、餃子、はなはじき、フルーツ			
9	日 時	10月30日	行事名	ハロウィン
	おやつ：ハロウィン、手作りパンプキンプリン			
10	日 時	11月11日、12日	行事名	焼き芋イベント
	おやつ：石焼き芋			
11	日 時	11月13日	行事名	ちらし寿司御膳
	海鮮ばらちらし、清汁、里芋のゆず味噌かけ、フルーツ			
12	日 時	12月24日	行事名	クリスマス会
	ローストチキン、ショートケーキ、フルーツ盛り合わせ			
13	日 時	H30年1月1日	行事名	元旦
	赤飯、清汁雑煮仕立て、鰯のてりやき、お節盛り合わせ、みかん			
14	日 時	1月2日	行事名	正月
	いなり寿司、刺身、、味噌汁、筑前煮、フルーツ			
15	日 時	1月3日	行事名	正月
	五味ちらし、清汁、白菜の酢味噌かけ、フルーツ			
16	日 時	1月7日	行事名	七草
	七草粥、味噌汁、にしんの甘露煮、きゅうりとわかめの酢の物、ゆずみそ			
17	日 時	2月3日	行事名	節分
	いなり、海苔巻、豚汁、七福豆、りんごとさつま芋煮、おやつ：節分ボーロ、2食水ようかん			
18	日 時	2月23日	行事名	憩い寿司御膳
	握り寿司、清汁、天ぷら、茶碗蒸し			
19	日 時	3月3日	行事名	雛祭
	桜ちらし寿司、あさり汁、蓮根金平、春食ムース			

(4) 栄養ケアマネジメント

① 栄養ケアカンファレンス

月	人数	月	人数	月	人数
4	10	8	12	12	19
5	12	9	6	1	14
6	21	10	11	3	12
7	18	11	11	4	10

※開催回数 156回

合計 156人

(5) 会議・研修

- ・県栄養士会各研修会
- ・給食施設栄養管理者研修会
- ・日本摂食・嚥下リハ研修会

《考察》

提供栄養量としては目標値を下回った項目がある。また食塩相当量は目標値より高い。食塩に関しては練り製品の使用頻度を考えていく必要がある。また、定期給食会議を行い、毎月のイベント食・行事食を計画し、入所者の要望に沿った食事提供を実施できた。

7. 施設ケアマネジャー

(1) 反省

三浦 裕子	これからも他職種間の連携を図り、身体状態変化を早期にプランに反映させていきたい。
-------	--

(2) ケアカンファレンス・認定調査

①ケアカンファレンス実施回数

月	人数	月	人数	月	人数
4	特養 10 名、SS11 名	8	特養 12 名、SS9 名	12	特養 19 名、SS11 名
5	特養 12 名、SS9 名	9	特養 6 名、SS10 名	1	特養 14 名、SS13 名
6	特養 21 名、SS10 名	10	特養 11 名、SS10 名	2	特養 12 名、SS11 名
7	特養 18 名、SS12 名	11	特養 11 名、SS10 名	3	特養 10 名、SS9 名

開催合計 12 回 延べ 特養 156 名、SS125 名

②認定調査の実施回数

月	人数	月	人数	月	人数
4	1 名	8	5 名	12	0 名
5	2 名	9	3 名	1	5 名
6	1 名	10	8 名	2	3 名
7	2 名	11	4 名	3	2 名

認定調査 合計 36 件

8. 相談員

(1) 反省

金沢 貴司	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6月までのショートステイの稼働率が低く、現在は稼働率が安定しているが外部の居宅や施設などに広報活動が必要だと感じた。</li> <li>・特養入居者数の申込みが少ない為、営業活動や地域との関わりを増やしていく必要があると感じた。</li> </ul>
坪井 和代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特養稼働率は、外部からの入所を除き、空床が続かないよう対応することができた。しかし入所申込者が伸びず、外部機関との連携や広報活動が必要だと感じた。</li> <li>・ショートステイ稼働率は 79.8%と、目標数値には至らないも 8 割で推移することができた。しかし新規利用者が少なく、特養と同様、広報活動が必要だと感じた。</li> <li>・相談員業務としては、もっと加算を意識しなければならなかった反省がある。</li> <li>・特養に関してはラウンドを意識し、職員や利用者様とコミュニケーションをはかることができた。また、上司への報連相を密にし、風通しの良い職場環境が作れる</li> </ul>

	<p>よう、意識することを行った。</p> <p>・地域との関わりは薄く、在支と協力していく課題がある。</p>
--	--

## 9. 委員会

### (1) 委員会活動報告・反省

#### ①委員会

1	広報委員会	介護現場で広報を作成するのは難しいとなり、広報委員会を廃止。次年度も相談員で作成する。
2	褥瘡予防委員会	介護、看護、栄養士、施設ケアマネジャーが連携し、どうしたら褥瘡が予防できるかについて話し合う事が出来た。次年度も月1回実施し、多方面からの意見を取り入れながら褥瘡が予防できたらと考えている。
3	身体拘束廃止委員会	毎月会議を実施し、身体拘束ゼロへ向けて活動してきたが、達成するまでにはいかなかった。次年度も身体拘束ゼロへ向けて施設全体で取り組んでいく。
4	衛生委員会	ストレスチェック、腰痛検査を実施し、安全で快適な環境作りに努めた。
5	感染予防委員会	感染症が蔓延することなく、多職種連携し最小限にとどめられた。
6	営繕委員会	必要時草刈りの実施を行った。次年度は営繕委員会を廃止し、施設全職員が携われるようにする。
7	入所検討委員会	入所申込者について公平に検討することができた。在支も加わり地域状況についても連携が図れる場となった。
8	災害安全委員会	いつも委員会に参加する職員が一緒なので、防災委員でしっかり担当を分けて行う。 同じ火災場所で行う事が多かったので、火災場所を毎月変えて行い、いつ・どこで起きても対応できるよう訓練を行いたい。
9	安全管理委員会	ユニットとしては、月に1度ユニット会議においてヒヤリハット・事故報告書のアセスメントを行った。 施設全体としては、月に1度リーダー会議においてヒヤリハット・事故報告書のアセスメントを行った。
10	物品購入委員会	無駄のないよう発注に努めたが、在庫が切れてしまうことが何度かあったので、しっかり統計を取り、過不足のない発注が出来るようにしていきたい。日用品に関しては、毎週足りないといったトラブルはなかった。多くは発注しないよう、毎週品物の数を数え、無駄なコストを抑えることができた。
11	車椅子担当委員会	委員会で集まることができず、毎月安全チェックを行う予定であったが実施せず終わってしまった。委員長として活動しなければいけなかった。今後は予定を立てたことはしっかり実施していく。
12	給食委員会	毎月の会議で厨房と意見交換ができ、入居者様からの意見を報告し、改善することができた。職員の方でもっと多くの入居者様の意見・評価を集められれば、より充実した会議になれると考えた。

②クラブ活動

1	書道クラブ	書道をより楽しんで頂くため、書道経験者を整備し行えると良いと感じた。
2	工作クラブ	季節感のある作品を利用者様と一緒に作っていくことが出来た。
3	憩いカフェクラブ	看板を作成し雰囲気作りに力を入れ、取り組めた。下半期は感染症対策のため開催することは出来なかった。
4	華道クラブ	活動できた月もあるが、計画した月に実施できなかったことが多かった。計画した月に実施できるよう、実施曜日、月の検討、話し合いを行い、入居者様の楽しみ・活動量が増えるよう努力していく。

(2) 全体行事報告

月	日	内 容	参加者			
			利用者	職員	その他	合計
7	30	納涼祭	79	29	6	114
9	17	敬老祝賀会	78	28	20	126
10	18	日帰り旅行	13	14	2	29
12	24	クリスマス会	77	29	16	122
12	28	餅つき	10	6	0	16

(3) ユニット行事

①あじさい

日付	行事名	場所	入居者数	職員数	家族数	計
4月16日	工作クラブ	地域交流スペース	3	1	0	4
4月23日	誕生会	あじさいユニット	5	2	0	7
5月14日	母の日会	あじさいユニット	7	2	0	9
5月21日	書道クラブ	地域交流スペース	1	0	0	1
5月25日	新茶イベント	あじさいユニット	7	2	0	9
6月12日	出前食	あじさいユニット	2	1	0	3
6月15日	セレクト食	あじさいユニット	6	2	0	8
6月25日	工作クラブ	地域交流スペース	2	1	0	3
6月28日	天ぷら食	あじさいユニット	4	4	0	8
7月9日	書道クラブ	地域交流スペース	2	0	0	2
7月18日	流しそうめん	あじさいユニット	8	3	0	11
7月23日	山車見物	駐車場	6	4	0	10
7月26日	誕生会	あじさいユニット	9	3	0	12
7月30日	納涼祭	地域交流スペース	10	4	0	14
8月21日	すいかわり	あじさいユニット	10	2	0	12
8月23日	ピアガーデン	陽だまりサロン	3	1	0	4
9月17日	敬老祝賀会	地域交流スペース	8	3	0	11
10月1日	カフェ	あじさい	8	3	0	11
10月8日	社交ダンスボランティア	地域交流スペース	6	3	0	9
11月11日	やぎいも	あじさいユニット	10	2	0	12
11月12日	カフェ	あじさいユニット	9	2	0	11



12月8日	出前食	あじさいユニット	4	4	0	8
12月10日	カフェ	あじさいユニット	9	2	0	11
12月24日	クリスマス会	地域交流スペース	8	4	0	12
12月28日	もちつき会	地域交流スペース	3	3	0	6
1月14日	カフェ	あじさいユニット	8	2	0	10
1月26日	誕生会	あじさいユニット	8	2	0	10
1月5日	福笑い	あじさいユニット	8	2	0	10
2月3日	節分	あじさいユニット	7	2	0	9
2月18日	誕生会	あじさいユニット	9	3	0	12

②りんどう

日付	行事名	場所	入居者数	職員数	家族数	計
4月7日	花見	市内	6	2	0	8
5月11日	スイートポテト作り	りんどうユニット	10	3	0	13
5月14日	母の日	りんどうユニット	10	2	0	12
5月21日	書道クラブ	デイホール	2	1	0	3
5月28日	カラオケ	りんどうユニット	8	2	0	10
6月25日	工作クラブ	地域交流スペース	1	0	0	1
7月9日	書道クラブ	地域交流スペース	2	0	0	2
7月12日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	1	0	3
7月23日	山車見学	駐車場	9	1	0	10
7月30日	納涼祭	地域交流スペース	9	4	0	13
8月23日	ビアガーデン	陽だまりサロン	2	1	0	3
9月17日	敬老祝賀会	地域交流スペース	10	4	0	14
10月18日	日帰り旅行	東京タワー	2	1	0	3
11月30日	誕生会	りんどうユニット	10	2	0	12
11月29日	出前食	りんどうユニット	10	2	0	12
12月24日	クリスマス会	地域交流スペース	9	4	0	13
12月28日	もちつき	地域交流スペース	2	1	0	3
1月26日	誕生会	りんどうユニット	10	2	0	12
2月3日	豆まき	りんどうユニット	10	2	0	12
3月30日	誕生会	りんどうユニット	10	2	0	12

③つつじ

日付	行事名	場所	入居者数	職員数	家族数	計
4月26日	さくら餅づくり	つつじユニット	10	3	0	13
5月10日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	1	0	3
5月14日	母の日	つつじユニット	10	3	0	13
5月21日	書道クラブ	地域交流スペース	2	0	0	2
5月28日	カラオケ	りんどうユニット	2	1	0	3
7月9日	書道クラブ	地域交流スペース	2	0	0	2
7月12日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	1	0	3
	流しそうめん	カンナユニット	2	0	0	2

10月8日	カラオケ	談話コーナー	3	0	0	3
10月12日	秋刀魚炭火焼き	中庭	9	4	0	13
10月18日	日帰り旅行	東京タワー	1	1	0	2
10月24日	誕生会	つつじユニット	10	3	0	13
11月15日	スイートポテト作り	つつじ・カンナユニット	10	2	0	12
11月20日	出前食	つつじユニット	6	3	0	9
11月29日	なべっこ釜飯（出前食）	つつじユニット	10	3	0	13
12月13日	誕生会	つつじユニット	10	2	0	12
12月24日	クリスマス会	地域交流スペース	10	3	0	13
12月28日	餅つき	地域交流スペース	2	1	0	3
2月3日	豆まき	つつじユニット	10	2	0	12
2月15日	誕生会	つつじユニット	10	2	0	12
3月20日	誕生会	つつじユニット	10	3	0	13

#### ④カンナ

日付	行事名	場所	入居者数	職員数	家族数	計
4月11日	お花見ドライブ	新川沿い	4	2	0	6
4月5日	外食会	華屋与兵衛	4	3	0	7
5月13日	母の日会	カンナユニット	10	2	0	12
6月18日	父の日会	カンナユニット	10	4	0	14
6月29日	出前食	カンナユニット	10	3	0	13
7月18日	スイカ割り	カンナユニット	10	2	0	12
8月12日	誕生会	カンナユニット	10	2	0	12
9月26日	誕生会	カンナユニット	10	2	0	12
10月25日	誕生会	カンナユニット	10	3	0	13
11月21日	紅葉ドライブ	小野の小町	4	2	0	6
12月11日	忘年会	カンナユニット	10	3	0	13
2月21日	誕生会	カンナユニット	10	3	0	13
3月1日	雛祭	カンナユニット	10	2	0	12

#### ⑤ひまわり

日付	行事名	場所	入居者数	職員数	家族数	計
4月10日	お花見散歩	高岡保育園	9	2	0	11
4月15日	水郷公園散策	水郷公園	1	2	0	3
4月16日	工作クラブ	地域交流スペース	3	0	0	3
4月28日	誕生会	ひまわりユニット	10	3	0	13
5月10日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	4	0	6
5月14日	母の日	ひまわりユニット	10	2	0	12
5月26日	誕生会	ひまわりユニット	10	2	0	12
6月7日	誕生会	ひまわりユニット	10	3	0	13
6月18日	父の日会	ひまわりユニット	10	2	0	12
6月21日	新じゃがおやつ会	ひまわりユニット	10	2	0	12
6月25日	工作クラブ	地域交流スペース	2	2	0	4

6月28日	誕生会	ひまわりユニット	10	4	0	14
7月9日	書道クラブ	地域交流スペース	1	0	0	1
7月12日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	0	0	2
7月15日	とうもろこし会	ひまわりユニット	10	2	0	12
7月23日	そうめん&天ぶら	ひまわりユニット	10	4	0	14
7月23日	山車見学	憩い駐車場	6	3	0	9
7月30日	納涼祭	地域交流スペース	10	4	0	14
8月23日	ビアガーデン	地域交流スペース	10	3	0	13
9月17日	敬老会	地域交流スペース	10	5	10	25
9月23日	スイートポテトおやつ会	ひまわりユニット	10	3	0	13
10月7日	誕生会	ひまわりユニット	10	3	0	13
10月18日	日帰り旅行	東京タワー	2	2	0	4
11月26日	誕生会	ひまわりユニット	9	3	0	12
12月24日	クリスマス会	地域交流スペース	10	4	5	19
12月28日	餅つき	地域交流スペース	0	0	0	0
1月30日	誕生会	ひまわりユニット	9	2	0	11
2月24日	誕生会	ひまわりユニット	10	2	0	12

⑥ばら

日付	行事名	場所	入居者数	職員数	家族数	計
4月10日	お花見散歩	高岡保育園	9	2	0	11
4月12日	水郷公園散策	水郷公園	1	2	0	3
4月16日	工作クラブ	地域交流スペース	3	0	0	3
4月28日	誕生会	ばらユニット	9	2	0	11
5月10日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	4	0	6
5月14日	母の日	ばらユニット	10	2	0	12
5月21日	書道クラブ	地域交流スペース	2	4	0	6
5月21日	出前食	ばらユニット	10	2	0	12
5月28日	誕生会	ばらユニット	10	2	0	12
6月7日	誕生会	ばらユニット	10	2	0	12
6月18日	父の日会	ばらユニット	10	2	0	12
6月21日	新じゃがおやつ会	ばらユニット	10	2	0	12
6月25日	工作クラブ	地域交流スペース	2	2	0	4
6月28日	誕生会	ばらユニット	10	4	0	14
7月9日	書道クラブ	地域交流スペース	1	0	0	1
7月12日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	0	0	2
7月15日	とうもろこし会	ばらユニット	10	2	0	12
7月23日	そうめん+天ぶら	ばらユニット	10	4	0	14
7月23日	山車見学	憩い駐車場	6	3	0	9
7月30日	納涼祭	地域交流スペース	10	4	0	14
8月23日	ビアガーデン	地域交流スペース	10	3	0	13
9月17日	敬老会	地域交流スペース	10	5	5	20

9月23日	スイートポテトおやつ会	ばらユニット	10	3	0	13
10月4日	誕生会	ばらユニット	10	3	0	13
10月18日	日帰り旅行	東京タワー	2	2	0	4
11月26日	誕生会	ばらユニット	9	3	0	12
12月24日	クリスマス会	地域交流スペース	10	4	0	14
12月28日	餅つき	地域交流スペース	0	0	0	0
1月21日	誕生会	ばらユニット	9	2	0	11
2月28日	誕生会	ばらユニット	10	2	0	12

⑦すいせん

日付	行事名	場所	入居者数	職員数	家族数	計
4月16日	工作クラブ	地域交流スペース	1	0	0	1
4月19日	花見ドライブ	市内	3	3	0	6
5月10日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	1	0	3
5月12日	母の日会	すいせんユニット	9	3	0	12
5月21日	書道クラブ	地域交流スペース	1	1	0	2
5月24日	新茶イベント	すいせんユニット	9	2	0	11
6月15日	父の日会	すいせんユニット	10	2	0	12
6月28日	新治幼稚園児来園	地域交流スペース	6	1	0	7
7月9日	書道クラブ	地域交流スペース	2	1	0	3
7月12日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	0	0	2
7月23日	山車来園	憩い駐車場	4	2	0	6
7月30日	納涼祭	地域交流スペース	10	2	5	17
8月23日	ビアガーデン	陽だまりサロン	2	1	0	3
9月14日	誕生会&居酒屋	すいせんユニット	10	3	0	13
9月17日	敬老会	地域交流スペース	10	3	5	18
10月18日	日帰り旅行	東京タワー	2	2	1	5
10月29日	リクエスト食	すいせんユニット	7	3	0	10
11月26日	カフェ	すいせんユニット	10	4	0	14
11月29日	出前食	すいせんユニット	10	2	0	12
12月20日	誕生会	すいせんユニット	10	2	0	12
12月24日	クリスマス会	地域交流スペース	10	3	10	23
1月26日	セレクト食	すいせんユニット	10	3	0	13
2月25日	誕生会	すいせんユニット	10	3	0	13
3月20日	誕生会&雛祭り	すいせんユニット	10	3	0	13

⑧コスモス

日付	行事名	場所	入居者数	職員数	家族数	計
4月10日	花見	高岡保育園	3	8	0	11
4月12日	花見ドライブ	中央青年の家	7	3	0	10
4月27日	誕生会	コスモスユニット	10	1	0	11
5月10日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	0	0	2
5月14日	母の日会	コスモスユニット	10	5	0	15

5月20日	焼きそば作り	コスモスユニット	10	3	0	13
5月21日	書道クラブ	地域交流スペース	1	1	0	2
5月24日	新茶会	コスモスユニット	10	5	0	15
6月18日	父の日	コスモスユニット	10	2	0	12
6月24日	誕生会	コスモスユニット	10	2	0	12
6月24日	華道クラブ	コスモスユニット	2	1	0	3
7月7日	七夕会	コスモスユニット	10	2	0	12
7月9日	書道クラブ	地域交流スペース	2	1	0	3
7月12日	憩いカフェ	陽だまりサロン	2	0	0	2
7月18日	誕生会	コスモスユニット	10	0	0	10
7月24日	そうめん作り	コスモスユニット	9	3	0	12
7月30日	納涼祭	地域交流スペース	10	4	1	15
8月23日	ビアガーデン	陽だまりサロン	2	0	0	2
8月24日	パフェ作り	コスモスユニット	10	2	0	12
8月27日	バーベキュー	コスモスユニット	9	3	0	12
9月17日	敬老会	地域交流スペース	10	2	0	12
9月20日	秋刀魚焼き	コスモスユニット	10	3	0	13
10月18日	日帰り旅行	東京ドーム	2	2	0	4
10月22日	運動会	コスモスユニット	8	3	0	11
11月22日	紅葉ドライブ	小野の小町	4	2	0	6
11月29日	出前食	コスモスユニット	10	2	0	12
12月19日	忘年会	コスモスユニット	10	2	0	12
12月24日	クリスマス会	地域交流スペース	10	4	1	15
12月28日	餅つき	地域交流スペース	1	2	0	3
1月21日	新年会	コスモスユニット	10	3	0	13
1月28日	誕生会	コスモスユニット	10	2	0	12
2月20日	誕生会・バレンタイン	コスモスユニット	10	2	0	12
3月31日	誕生会	コスモスユニット	10	3	0	13

## 10. 研修

### (1) 内部研修報告

施設全体研修 19:00～19:30

月	日	内容(対象者)	参加人数
4	3	平成29年度事業計画書(全職員)	43名
5	1	(株)日本ドライ介護用品スマイル友部様センサー勉強会(全職員)	48名
6	1	食中毒(全職員)	46名
7	3	権利擁護・身体拘束廃止(全職員)	45名
8	1	終末期ケア・施設での看取り(全職員)	43名
9	1	シナプソロジー(全職員)	45名
10	2	褥瘡予防(全職員)	41名
11	1	感染症予防(全職員)	50名

12	1	余暇活動“楽しみの援助”（全職員）	42名
1	9	石岡第一病院福澤智先生による嚥下勉強会（全職員）	48名
2	1	次年度事業計画書（全職員）	46名
3	1	音楽体操（全職員）	43名

（2）外部機関研修

研修名	開催時期	参加者 職種	研修内容	人数
口腔ケア講習会	5月21日	介護士	誤嚥性肺炎予防から摂食嚥下まで	1
茨城県老人福祉施設協議会	5月24日	施設長	総会	1
高齢者の身体の見方・情報の整理・伝え方	6月9日	介護士	高齢者の身体的・精神的特長を理解する	1
高齢者の栄養、摂食嚥下ケア	8月25日	介護士	摂食嚥下	1
高齢者の急変時の対応	7月11日	介護士	医療依存度の高い利用者への介護職員等要請研修	1
認知症ケア～基礎編～	10月	介護士	尊厳あるケアを目指して	1
自身をもって寄り添う看取り期のケア	12月	介護士	看取り	1
フォローアップ研修	8月21日	介護士	医療依存度の高い利用者へのケアに携わる介護職員等要請研修	1
県南・土浦ブロックケアマネジャー研究会	6月14日	施設ケアマネジャー 相談員	H29年度事業計画について	3
いばらき介護職員合同入職式	5月31日	介護士	魅力ある職場づくりのための取り組み事例発表等	3
メンタルタフネス研修・中級	6月30日	介護士	ケア・カウンセリング	1
	9月11日			
	9月19日			
コミュニケーション研修	6月20日	介護士	伝える・伝わる力を身につける	1
ユニ・チャーム排泄ケアセミナー	6月10日	介護士	排泄ケアについて	2
栄養士会福祉専門研修会総会	6月15日	管理栄養士	食育の取り組み	1
リスクケアマネジメント研修	6月13日	介護士	リスクマネジメント	1
キャリアパス対応生涯研修	7月11日～12日	介護士	キャリアパスに求められる能力を段階的・体系的に習得する	1
土浦消防防火	7月12日	施設長	総会	1
相談員・施設介護支援専門員研修	8月9日	相談員 施設ケアマネジャー	相談援助職のポジショニング	2
認知症介護実践者研修	4月12日～ 5月18日	介護士	認知症介護実践者研修	1
施設送迎員研修会	6月30日	相談員	車両、運転に必要な知識と心構え	1
福祉職員施設等中堅職員研修	9月25日	介護士	中堅職員に必要なスキルを学ぶ	1
普通救命講習会	8月24日	介護士	傷病者の生命を守る能力を習得する	1
エルダー・メンター養成研修	9月25日	介護士	先輩職員が新入職員をサポートする制度	1
口腔ケア講習会	10月22日	介護士	口腔ケアサポート要請セミナー	1
介護職員等たん吸引等研修会	7月4日～ 9月1日	介護士	高齢者および障害児・者のたん吸引	2
コーチング研修	10月24日～25日	介護士	部下の自立的行動をサポートするスキルを身につける	1
施設栄養管理者研修会	9月7日	管理栄養士	病院の栄養管理と地域連携について	1
ユニットリーダー研修	8月14日～18日	介護士	ユニットケアの理念・桜の郷元気での実地研修	1

接遇・コミュニケーション技術向上研修会	11月2日	介護士	マナー、言葉遣い等	1
個別ケアとケアプランについて	9月8日	施設ケアマネジャー	高齢者福祉施設における個別ケア実践の為のケアプランのポイント	1
キャラバン・メイト要請研修	9月7日	相談員	認知症介護アドバイザー養成研修	1
アンガーマネジメント研修	11月10日	介護士	自分との怒りと向き合い、より良い人間関係を作る	1
認知症介護実践者研修	8月3日～ 9月15日	介護士	認知症介護実践者研修	1
実務者研修教員講習会	9月8日～ 10月7日	介護士	実務者研修	1
栄養士会福祉専門研究会研修会	12月7日	管理栄養士	摂食・嚥下機能を踏まえた食事介助方法のポイント	1
県南・土浦ブロックケアマネジャー研究会	12月12日	相談員	身元保証人	2
腰痛予防講演会	12月12日	介護士	取り組み事例報告会	1
メンタルヘルス（プラティス）研修会	12月13日	介護士	職場のメンタルケアの充実	1
給食研究会	11月29日	管理栄養士	摂食・嚥下機能の低下した人に提供する食事について	1
ユニットリーダー研修	10月2日～4日	介護士	ユニットケアの理念・桜の郷元気での実地研修	1
老人福祉施設職員ボウリング大会	2月10日	介護士	施設職員の親睦と健康増進をはかることを目的	3
看護実務者研修	11月2日・14日	看護師	入居者に適応される感染対策の基本	1
EPA介護福祉士受け入れ施設連絡協議会	11月27日	施設長	介護分野の外国人就労者。あなたなら誰を選ぶ？	1
看取りケア研修会	11月20日	看護師	施設での看取りについて	1
認知症市民フォーラム in 土浦	12月1日	施設ケアマネジャー 相談員	地域包括ケアシステムについて 地域の連携体制と医療的側面を考える	2
介護力向上研修会	1月31日	介護士	身体的自立支援の基礎知識と理論	1
高齢者権利擁護推進研修	11月17日 11月22日 12月5日	介護士	高齢者虐待防止の対応状況について	1
アクティビティ・ワーカー養成	2月19日	介護士	福祉現場におけるレクリエーションの誤解と 限界を通じて考える生活支援技術	1
メンタルタフネス講座	2月27日	介護士	自己成長の情報を引き出す方法	1
認知症実践リーダー研修	12月4日～ 1月15日	介護士	認知症実践リーダー研修	1
経営戦略セミナー	3月15日・16日	施設長	事業継続への道しるべ	1
介護報酬改定の概要等事業者説明会	3月19日	相談員	介護報酬改定の概要について	1
福祉サービス苦情解決研修会	2月22日	相談員	苦情から学ぶ～利用者本意の支援とは～	1
勤務環境改善事例発表会	3月7日	相談員	職場環境改善の促進	2
合 計				66

#### 《考察》

他施設では外部研修に人材不足により参加させられていないという話も聞く。外部研修に参加することで新しい知識を得ることは、職員にとっても施設にとってもメリットは大きいので参加職員に偏りが無いよう配慮し、有意義な時間となるよう意識して参加できるようにしていきたい。

## 1 1. 実習生受入れ

### (1) 学校別集計（デイサービスを含む）

学 校 名	実習月	日数	人数	延日数
アール医療福祉専門学校（初任者研修）	10月	3	2	6
筑波大学（介護等体験）	1月・2月	5	12	60
合 計		8	14	66

### (2) 実習種類別集計（デイサービス含まず）

#### ①介護職員初任者研修

受け入れ期間	実人数	延日数
10～12月	2	6

#### ②介護等体験（茨城県社会福祉協議会より）

受け入れ期間	実人数	延日数
4～6月	0	0
7～9月	0	0
10～12月	0	0
1～3月	12	60

③受入合計 ○実人数 12人（H28年度16人） ○延日数60日（H28年度46日）

#### 《考察》

茨城県社会福祉協議会より依頼のあった介護等体験実習生は受入れに協力できた。しかし冬場は感染症対策の問題で、受け入れに慎重になるべきでもあった。

## 1 2. ボランティアの受け入れ

### (1) 介護相談員活動実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

### (2) ボランティア受入

ボランティア名	回数	総人数	ボランティア名	回数	総人数
折り紙ボランティア（久保谷様）	6	6	ハーモニカボランティア	1	5
繕い物ボランティア	5	32	社交ダンスボランティア	1	2
踊りボランティア（納涼祭）	1	10	フランスベッド（納涼祭）	1	2
茨城リネンサプライ（納涼祭）	1	2			
			合 計	16	59



平成 29 年度 デイサービス憩いの里  
指定通所介護・介護予防通所介護事業  
土浦市介護予防・日常生活支援総合事業  
(通常規模型・利用定員 30 名)

1. 運営

今年度は従来の指定通所介護・介護予防通所介護事業に加え、「土浦市介護予防・日常生活支援総合事業」に係る通所型サービス（通所型みなし）が混在する 1 年となった。事務・請求手続き、利用者・家族への説明等も大きなトラブルなくスムーズに移行することができた。平成 30 年度からは介護予防通所介護事業は廃止され、本格的に総合事業がスタートするが引き続きトラブル等なく、柔軟に対応したいと考える。その他、大きな修繕等はなかったが利用者の状態や状況に合わせて車いすやシルバーカーの補修・補充等の備品の管理も重要だと感じた。また、今年度はサービスを提供する中で利用される目的・送迎時間等の調整等、特に利用者・家族のニーズに多様性を感じる機会が多かったように感じる。今後も多様化するニーズに柔軟に対応できるよう、事業所としての体制を整える。

2. 物品購入・修繕報告

物品名・修繕箇所	種別	評価
車いす 3 台	購入	従来の物は老朽化・不足となっていた部分もあったがデイサービス利用者の増加に伴い、3 台ずつ購入することで数の補充ができた。また、シルバーカーを増やすことで自立にて歩行できる利用者の数も増え、ADL の維持・向上に貢献できた。
シルバーカー 3 台	購入	

3. 実績報告

(1) 月別利用状況

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
運営日数 (日)		25	27	26	26	27	26	25	26	26	24	24	27	309
実人数 (名)		60	59	61	59	59	58	55	56	55	59	59	59	699
延人数 (名)		577	628	599	627	622	603	580	589	589	525	558	615	7,112
平成 29 年度	稼働率 (%)	23.4	23.9	22.1	21.5	20.3	22.0	20.5	20.4	19.4	20.2	21.6	22.0	21.4
	稼働率 (%)	78.0	79.7	73.7	71.7	67.7	73.3	68.3	68.0	64.7	67.3	72.0	73.3	71.5
平成 28 年度	稼働率 (%)	23.1	23.3	23.0	24.1	23.0	23.2	23.2	22.7	22.7	21.9	23.3	22.8	23.0
	稼働率 (%)	77.0	77.7	76.7	80.3	76.7	77.3	77.3	75.7	75.7	73.0	77.7	75.9	76.8
稼働率 (%) 前年度比		△1.0	△2.0	3.0	8.6	9.0	4.0	9.0	7.7	11.0	5.7	5.7	2.6	5.3

## (2) 年間利用状況の推移

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
延利用者数 (名)	4,001 名	5,296 名	6,123 名	7,616 名	7,438 名
稼働率 (%)	70.2%	77.6%	81.1%	85.3%	81.0%
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
延利用者数 (名)	7,316 名	7,016 名	6,649 名	7,112 名	
稼働率 (%)	78.7%	75.2%	71.5%	76.7%	

\*平成 17 年 9 月 25 日開設時：定員 20 名・休業日（土）（日）

\*平成 21 年 11 月 1 日～：定員 20 名から 25 名に変更

\*平成 24 年 4 月 1 日～：休業日（土）（日）から（日）のみに変更

\*平成 24 年 6 月 1 日～：定員 25 名から 30 名に変更

## (3) 年間請求状況（介護報酬分のみ）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	前年度比
4 月	4,616,298	4,805,029	4,964,416	159,387
5 月	4,419,516	4,817,777	5,072,195	254,418
6 月	4,737,847	4,433,509	4,904,356	470,847
7 月	4,869,054	4,241,445	5,115,969	874,524
8 月	4,573,542	4,261,633	5,004,914	743,281
9 月	4,707,503	4,487,013	5,228,712	741,699
10 月	5,163,340	4,099,638	4,693,802	594,164
11 月	4,747,287	4,047,492	4,808,167	760,675
12 月	4,970,531	4,053,997	4,846,657	792,660
1 月	4,256,777	3,905,216	4,222,748	317,532
2 月	4,234,900	4,311,180	4,381,313	70,133
3 月	4,438,806	4,723,630	5,022,848	299,218
合計	55,735,401	52,187,559	58,266,097	6,078,538
月平均報酬額	4,644,617	4,348,963	4,855,508	506,545
1 人当たり単価	7,944	7,849	8,426	577

## (4) 介護度別利用状況

	平成 28 年度		平成 29 年度		前年度比	
	延人数 (名)	構成比	延人数 (名)	構成比	延人数 (名)	構成比
事業対象者	—	—	9	0.1%	9	0.1%
支 1	99	1.5%	93	1.3%	△6	△0.2%
支 2	691	10.4%	323	4.5%	△368	△5.9%
1	1,774	26.7%	1,885	26.5%	111	△0.2%
2	2,130	32.0%	2,565	36.1%	435	4.1%
3	1,081	16.3%	1,390	19.6%	309	3.3%

4	654	9.8%	663	9.3%	9	△0.5%
5	220	3.3%	181	2.6%	△39	△0.7%
介護保険外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	6,649	100%	7,109	100%	460	100%

#### 4. 事業報告

##### (1) サービスの質の向上への取組

利用者はもちろん、家族・ケアマネジャーからの要望や意見を活かして細かな部分まで対応することができた。内部研修等を通してスキルアップや他デイサービスでの取組などを知り、質の向上に努めた。

##### (2) 通所介護・介護予防通所介護計画書作成

社会交流・健康管理・清潔保持・機能訓練・介護負担軽減など多様なニーズへの対応、また「利用者が今必要としているサービス」をタイムリーに提供するため、アセスメントをはじめ、プランの作成・実施・評価・見直しを行なった。

##### (3) 入浴サービス（入浴者数・入浴率報告）

バイタルチェックをもとに他職員と連携し、安全に入浴ができるように努めた。入浴メインで利用されている方もいる。バイタルの数値が良くない方などへの声掛けや対応の方法を看護師と連携し、今後ともそういった方が気持ちよく安心して入浴できるよう体制を整える。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利用延人数(名)	577	628	599	627	622	603	580	589	589	525	558	615	7,112	
入浴延人数(名)	504	558	526	555	543	527	514	517	540	453	486	543	6,266	
入浴率 (%)	平成28年度	87.5	86.0	89.6	87.3	87.2	87.9	87.3	85.8	83.9	87.2	89.4	91.8	87.6
	平成29年度	87.3	88.9	87.8	88.5	87.3	87.4	88.6	87.8	91.7	86.3	87.1	88.3	88.1
前年度比(%)	△0.2	2.9	△1.8	1.2	0.1	△0.5	1.3	2.0	7.8	△0.9	△2.3	△3.5	0.5	

##### (4) 食事サービス

利用者個々の身体の状況・状態、ニーズなどに合わせた治療食・嗜好食・食事形態・食事介助方法など随時職員同士話し合い、また厨房との連携を図ることで対応できた。その他、日帰り旅行・甘味ドライブなどの外食をはじめ、選択食など「いつもと違う」楽しみのある食事の提供も積極的に行なった。

##### (5) 排泄介助サービス（定時・随時）

利用者のプライバシー保護とトイレでの排泄を基本とし、利用者個々の性格・状況・状態などに合わせ定時・随時の声掛けやトイレ誘導を行なった。また、トイレでの排泄が困難な利用者には排泄パターンを把握することで利用者の身体的負担を軽減できるような排泄介助（オムツ交換）を実施した。

##### (6) レクリエーション・行事

外出行事・レクリエーションなど新たなものを取り入れることができなかったが、出前食・選択食・外食会などの「食の楽しみ」や季節行事を通して、四季を感じながら楽しく活動できる時間・機会を提供できたように感じる。

【レクリエーション実施状況（回数）】

輪投げ	14	マキマキ	11	ビー玉ストロー	11
お手玉のせ	13	魚釣り	11	椅子カーリング	12
新聞ちぎり	9	カルタ	11	サッカーボウリング	9
紙飛行機飛ばし	12	的当て	14	黒髭危機一髪	6
しりとり	9	ボウリング	9	バッティングゲーム	6
スリッパ飛ばし	7	漢字クイズ	10	お花つみゲーム	4
射的	12	玉入れ	9	計 22 種類	216
物干しゲーム	4	バクダン	13		

【行事実施状況（日数）】

お花見ドライブ	6	夏祭り	2	忘年会	2
生け花	2	スイカ割り	2	もちつき	1
出前食（釜飯）	2	敬老会	1	初詣ドライブ	6
選択食（親子丼・天丼）	1	運動会	2	買い物ツアー	1
選択食（天ぷらそば・天丼）	6	紅葉ドライブ	6	豆まき	1
七夕	1	クリスマス会	2	ひな祭り	1
外食会（はま寿司）	6	誕生会	16	計 20 種類	67

(7) 個別機能訓練（介護）・運動器機能向上（予防・総合事業）サービス

本人・家族・ケアマネジャーの希望がある場合には、PT（理学療法士）来園日に合わせた追加利用・利用日変更を通して PT と直接相談できる機会を提供した。また、午前・午後の体操の時間や内容の見直しを行ない体操自体の充実を図った。その他、外出行事を「普段とは違った機能訓練」と位置づけ、外出する機会を多く作ることで楽しく・気持ち良く・体を動かせる場を提供した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
機能訓練（名）	0	0	322	492	470	288	442	417	431	375	416	455	4,108
運動器機能（名）	0	0	23	42	45	19	30	31	27	24	26	23	290
合計	0	0	345	534	515	307	472	448	458	399	442	478	4,398

(8) 送迎サービス

利用者個々の希望や身体状況に合わせて時間・ルート・順序・送迎車両の選択等に配慮した。乗降時の乗り降りのしやすさ・安全性の向上などにより、より安全で効率的な送迎が実施できるようになった。

【送迎状況】

回	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
迎え	56	54	54	54	53	54	51	52	53	55	56	54	646
(減算)	2	4	6	7	7	8	8	8	7	9	11	13	90
送り	56	55	55	54	55	56	53	54	54	57	57	57	663
(減算)	4	7	7	6	6	11	11	9	7	9	5	5	87
延回数	112	109	109	108	108	110	104	106	107	112	113	111	1,309

【送迎車両走行距離】

km	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ハイエース	970	803	818	900	843	972	917	1,106	1,105	982	960	1,196	11,572
ヴォクシー	1,183	910	766	864	831	849	845	895	812	700	708	844	10,207
プレマシー	557	417	576	480	404	705	502	481	709	714	560	591	6,696
シエンタ	656	750	882	973	906	799	702	854	675	659	762	738	9,356
ハイゼット	887	1,009	1,084	913	956	902	824	895	856	803	1,008	998	11,135
タント	894	868	1,018	1,118	850	982	885	1,030	994	919	978	1,052	11,588
デミオ	535	876	844	672	486	783	738	720	812	804	570	929	8,769
ミラ	454	443	483	608	367	468	421	306	362	194	262	224	4,592
合計	6,136	6,076	6,471	6,528	5,643	6,460	5,834	6,287	6,325	5,775	5,808	6,572	73,915

(9) 看護報告 (処置集計報告)

利用者本人への声掛けによる体調確認やバイタルチェックをすることで個々の体調を把握して利用者に合わせ負担にならないようにサービスを提供できた。利用者の希望に応じて軟膏塗布・湿布貼付・点眼・内服薬の管理を行った。爪切りや耳かきも本人・家族では行えない方や希望される方に実施した。口腔ケアに対しては来所時と食後に実施し清潔保持・感染予防・誤嚥による肺炎予防に努めた。突然の体調不良時などは家族・ケアマネジャーに連絡し迅速な対応ができた。

【処置集計】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内服薬	186	249	237	249	238	222	224	242	238	218	279	271	2,853
塗布	28	35	35	44	45	24	34	28	39	27	47	41	427
湿布	15	38	37	41	36	34	24	39	34	29	31	27	385
点眼	3	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
爪切り	33	29	23	26	29	29	28	12	16	13	17	31	286
体重測定	59	1	59	57	55	54	54	52	48	51	57	64	611
合計	324	362	393	417	403	363	364	373	375	338	431	434	4,577

(10) ヒヤリハット報告

【平成 29 年度 アクシデント・インシデント・トラブル報告】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
転倒・ずり落ち	0	1	1	1	0	2	3	0	0	0	1	2	11
トラブル	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
体調不良	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3
徘徊	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
車の物損	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
内服薬	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
備品・物損	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
職員確認ミス	0	0	0	1	0	0	1	2	1	2	2	6	15

苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
入浴時	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
救急車対応	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
合計	2	5	3	3	1	3	7	2	1	5	5	10	47	

(11) 地域連携・貢献活動（介護予防教室等）

デイサービスとして具体的な活動はできなかったが送迎時等にお会いする地域の方々とは良好な関係性が保てるよう努めている。今後は積極性を持って活動していきたい。

(12) 実習生・ボランティア受入

実習生・ボランティアの方々の受入も積極的に行った。利用者からは「新鮮な感覚」「満足の声」等が聞かれた。今後は新規・新しいジャンルのボランティアの開拓をはじめ、引き続き積極的な受入を行う。

【実習生・ボランティア受入報告】

種別	学校名	実人数(名)	延日数(日)
教員	筑波大学	9	45
初任者	アール医療福祉専門学校	2	6
合計		11	51

ボランティア名	来園回数(回)
折り紙	8
社交ダンス	1
合計	9

5. 利用者状況

(1) 登録利用者

	平成 28 年度			平成 29 年度		
	登録者数(名)	新規利用者(名)	利用終了者(名)	登録者数(名)	新規利用者(名)	利用終了者(名)
4月	73	4	0	71	3	3
5月	75	3	3	69	1	2
6月	70	0	3	70	3	0
7月	71	1	0	68	0	6
8月	71	2	2	65	2	3
9月	71	0	0	66	3	0
10月	71	2	2	64	1	3
11月	68	1	4	64	2	5
12月	70	4	3	67	6	4
1月	70	1	1	66	4	1
2月	73	4	1	70	4	0
3月	73	3	7	64	2	12
合計	856	25	26	804	31	39

## (2) 介護度別利用者

	平成 28 年度 (平成 29 年 3 月 31 日現在)		平成 29 年度 (平成 30 年 3 月 31 日現在)		前年度比	
	実人数(名)	構成比	実人数(名)	構成比	実人数(名)	構成比
要介護度						
支 1	1	1.7%	2	3.4%	1	1.7%
支 2	5	8.3%	2	3.4%	△3	△4.9%
1	15	25.0%	20	33.9%	5	8.9%
2	23	38.3%	22	37.3%	△1	△1.0%
3	9	15.0%	10	16.9%	1	1.9%
4	5	8.3%	2	3.4%	△3	△4.9%
5	2	3.4%	1	1.7%	△1	△1.7%
介護保険外	0	0.0%	0	0.0%	0	0
計	60	100%	59	100%	△1	-

## (3) 利用者年齢構成

年齢(歳)	平成 28 年度(名) (平成 29 年 3 月 31 日現在)		平成 29 年度(名) (平成 30 年 3 月 31 日現在)		前年度比(名)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
～64	0	1	1	1	1	0
65～69	0	1	0	1	0	0
70～74	2	0	1	1	△1	1
75～79	4	1	2	3	△2	2
80～84	3	12	0	14	△3	2
85～89	4	17	3	18	△1	1
90～	2	26	4	14	2	△12
男女別合計	15	58	11	52	△4	△6
男女比	20.5%	79.5%	17.5%	82.5%	△3.0%	3.0%
合計	73		63		△10	

## (4) 町内別(市外含む)・中学校区別登録利用者(平成 30 年 3 月 31 日現在)

## ○町内別(市外含む)

地区	登録者数	地区	登録者数	地区	登録者数
藤沢	10	上坂田	3	東城時	1
本郷	1	並木	7	若松町	1
田宮	3	都和	1	小山崎	2
高岡	2	田土部	2	小野	1
小高	2	永井	2	市外	3
下坂田	5	真鍋	2	合計	64
藤沢新田	1	沢辺	1		

## ○中学校区別

地区	登録者数
一中地区	0
二中地区	2
三中地区	0
四中地区	0
五中地区	0
六中地区	0
都和中地区	14

大志戸	2	大	1
大畑	8	中貫	3

新治中地区	45
市外	3
合計	64

## 6. 職員勤務体制

### (1) 平成 29 年度 個人反省

職種 勤続年数	氏名 (経験年数)	反省
生活相談員 12年(12年)	高野 綾	職員同士の声かけを行ない、明るい職場作りを心がけていたが途中体調不良により休職してしまったり、異動があった為最後まで取り組むことができなかった。
生活相談員 16年(16年)	梶川 純孝	年度途中で異動があったが異動先にも慣れ、ほぼ通常通り業務に就くことができた。
生活相談員 15年(15年)	平山 翔吾	今年度は言葉使いや接遇面で何件か苦情が入り、利用者から100%の満足はいただけなかった。来年度は、サービス内容の見直しと接遇の面をしっかりと指導し、相談員が模範となるよう意識改善していく。
看護師 1年(11年)	高野 志保美	一人一人の利用者様の状態を把握し、必要なケアを行なうことがまだ十分にできていない面があり、自分自身の知識を深め、緊急時の対応を含め適切なケアが出来るようにしていきたい。
介護士 12年5ヵ月(17年)	中泉 幸子	新規利用者も増え、「憩いの里に来るのが楽しみ」と言って下さる方も多くなってきた。今後も継続してそう言って頂けるデイサービスにしていきたいと思う。
介護士 11年(12年)	飯村 由紀	特養では入所者の変化に早く気づき、他職員と協力してケアできたと思う。デイサービス異動後は利用者の把握をする事で精一杯になってしまったのもっと余裕を持ってケアができると良かった。
介護士 4年(4年)	櫻井 智也	前年度に比べ、利用者の動作に合わせて動くことができた。今後も継続していきたい。
介護士 11ヵ月(4年11ヵ月)	吉田 良子	色々と気づけなかった事が多かった。体操もいつも同じになってしまい、利用者様を楽しませる事ができなかった。
介護士 1年8ヵ月(1年10ヵ月)	高橋 洋平	身体に対してさらなる知識をつけ、ADLで支障のないように、シナプソロジーについても個人に提供できるように努める。また自分自身の体調管理を入念にする。

\* 「勤続年数」基準日は平成30年3月31日現在。「経験年数」は他事業所での経験年数との合算。



(2) 外部研修参加報告

日程	場所	研修名	参加者
7月11日・12日	茨城県総合福祉会館	平成29年度 福祉職員キャリアパス対応 生涯研修課程初任者コース	野口
7月20日・21日	茨城県総合福祉会館	平成29年度 クレーム対応力強化研修A	森田
9月5日	茨城県総合福祉会館	平成29年度 社会福祉施設等中堅職員研修 Aコース	飯村
2月15日	筑波銀行 つくば本部ビル	診療・介護報酬同時改定セミナー	森田
2月22日	小美玉市 小川文化センター (アピオス)	平成29年度 福祉サービス苦情解決研修会	森田



## 平成 29 年度 支援センター憩いの里

### 1. 居宅介護支援事業所勤務体制

介護支援専門員 3 名（兼務含む）で運営してきたが、9 月からは、2 名体制となった。居宅会議を毎月実施する事で情報共有し、各自の報告・連絡・相談を行なってきた。また、困難ケースに対しては、事業所全体で考えることで個人の負担を軽減できるよう取り組んだ。

各行政機関とも随時連絡を取り、安心した在宅生活を送れるよう支援活動した。

#### <介護プラン>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
土浦市	76	75	76	78	66	54	52	55	50	54	56	58	750
市外	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	12
県外	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	7
計	79	78	78	80	68	56	54	56	51	55	56	58	769

月平均 64 件を担当し、身体状況や生活環境等に合わせて見直しを行った。数字の変動は、永眠や施設入所によるケースである。介護予防からの移行ケースは 3 件だった。

#### <介護予防プラン（包括支援センター委託）>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
土浦市	15	16	15	14	14	15	15	14	14	13	13	13	171
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	15	16	15	14	14	15	15	14	14	13	13	13	171

月平均 14 件の介護予防を担当し、身体状況や環境に合わせて見直しを行った。数字の変動は、永眠と介護プランへの移行によるケースである。

### 2. 居宅介護サービス計画実施状況（要介護度別分類）

#### 居宅サービス契約者介護度別件数

##### 平成 28 年度

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
件数	122	113	333	247	140	121	17	1,093

##### 平成 29 年度

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
件数	60	104	293	233	144	93	6	933

最も依頼が多いのが、要介護 1 と 2 となっている。ケアマネジャーの人員数の減少等から前年度と比較し 160 件の減となっている。

### 3. 寝たきり度（日常生活のかつどうの状況により区分）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
自立	3	0	0	0	0	0	0	3
J1	2	6	0	0	0	0	0	8
J2	0	2	4	2	0	1	0	9
A1	0	0	10	12	6	7	1	36
A2	0	0	5	11	6	2	0	24
B1	0	0	5	3	6	0	0	14
B2	0	0	0	0	3	3	0	6
C1	0	0	0	0	0	0	0	0
C2	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	5	8	24	28	21	13	2	101

※区分の状態参照

J1.公共機関を利用し遠方まで外出レベル

J2.近隣への買物や町内距離程度外出レベル

A1.寝たり起きたりの状態だが、日常生活行為（食事・排泄・着替え等）日中はベッドから離れる時間が長く、介助のもと比較的多く外出する

A2.寝たり起きたりの状態でベッドから離れている時間が長いが介助者がいてもまれにしか外出しないレベル

B1.介助なしで車椅子に移乗し、食事・排泄等ベッドから離れて行う

B2.介助のもと、車椅子に移乗し、食事・排泄等に関しても支援を必要とする

C1.ベッドに常時臥床し、自力で寝返りがうてる

C2.自力で寝返りがうてずベッド上で常時臥床している

当事業所では、要介護度 1～要介護 3 の割合が高く、介助なしでは外出出来ず、日常生活を営む上で、支援を要する方の割合が多く見られる。在宅生活を継続していく為には、サービス調整が必要である。重度の方については、在宅生活の継続は難しい傾向が見られている。これらの状況から当事業所では、在宅生活の支援として多様なサービスとインフォーマルなサービスの調整が必要である。

#### 4. 認知症度（日常生活支援の状態により区分）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
自立	5	8	3	5	3	2	1	27
I	0	0	4	6	1	1	0	12
II a	0	0	5	8	2	1	2	18
II b	0	0	5	7	6	4	0	22
III a	0	0	5	0	2	4	1	12
III b	0	0	0	1	2	5	0	8
IV	0	0	0	1	0	1	0	2
M	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	8	22	28	16	18	4	101

#### ※区分の状況参照

自立. 何らかの認知症を有するが家庭内・社会的にもほぼ自立している

I.日常生活に支障を来たす症状・行動は出ているが、支援があれば自立している

II.家庭外でも上記症状が見られる（道に迷う・買物・事務・金銭管理を間違う）

II b.家庭内でも上記症状が見られる（服薬管理が出来ない・訪問客や電話の内容の間違いなど1人で留守番ができない）

III a.日常生活に支障をきたすような症状・行動がみられ意思疎通が困難で介護を要する

III b.日中を中心に上記症状が見られる（着替え・食事・排泄等上手にできない・異食・徘徊・大声・収集癖・不潔行為・性的異常行為等）

IV.日常生活に支障がある状況が常時見られ常に介護を要する

M.せん妄・妄想・興奮・自傷・他害等精神症状やそれに起因する問題行動が継続する。主治医の判断に認知症度が決定する。介護度に比例せず何らかの身体症状を有するが、認知症のレベルはそれ程重くないが利用者が半数を占めている。

自立の方が最も多いが、実際には年相応の物忘れや生活状況により状態が変化し、支援が必要な方もいる。自宅での生活は出来るが、常時の見守りが必要な方や何らかの支援が必要な方が多い。地域の特徴として、同居家族がいる方が多く見られるが、必ずしも支援者となるとは限らない。認知症の方の在宅生活継続の為に主治医やサービス事業所との連携が必要であった。

## 5. 居宅サービス利用割合

同法人で実施している事業に関して実施

平成27年度より特定事業所集中減算率が80%を超過すると減算対象となる。

### <通所サービス>

通所介護（前期）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	割合
飛羽ノ園デイ	0	0	0	0	0	0	0	0
ながみねデイ	0	0	0	0	0	0	0	0
憩いの里デイ	38	37	38	36	29	21	199	78.4%
合計	38	37	38	36	29	21	199	

通所介護（後期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
飛羽ノ園デイ	0	0	0	0	0	0	0	0
ながみねデイ	0	0	0	0	0	0	0	0
憩いの里デイ	19	19	17	18	18	18	109	64.1%
合計	19	19	17	18	18	18	109	

担当者数の半数以上が、デイサービス憩いの里を希望されている。その理由として地域にデイサービス事業所が少ないこと、近所の方が利用していること、地域外のデイサービスでは送迎エリアの関係から曜日が限定されてしまうことなどが挙げられる。

### <短期入所生活介護>

ショート（前期）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	割合
飛羽ノ園	0	0	0	0	0	0	0	0
憩いの里	11	9	11	11	10	9	61	73.5%
合計	11	9	11	11	10	9	61	

ショート（後期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
飛羽ノ園	0	0	0	0	0	0	0	0
憩いの里	12	8	10	10	7	6	53	79.1%
合計	12	8	10	10	7	6	53	

短期入所を利用される方々は介護度が高くなるほど、家族の介護負担の軽減や法事や旅行などの家族の予定により利用率が増える傾向にある。また、憩いの里のケアマネジャーであるため臨機応変な対応がしてもらえること、急変など緊急時に対応できるよう自宅近くや憩いの里を希望されることが多い。

6. 初回同行訪問件数（新規依頼を受け、同行訪問した件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

各ケアマネジャーの担当件数が上限に達しており、同行訪問を行う業務調整を行う事が困難であった。今後は状況に応じて同行訪問が行えるよう努める。

7. 認定調査

認定調査の実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
土浦市	7	3	6	7	5	2	6	6	2	3	6	2	55
市外	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
計	7	4	6	7	5	2	6	7	3	3	6	2	58

認定調査の実施件数は、土浦市内(55件)、市外(3件)行った。

8. その他研修

研修内容

- ・地域実践研修「地域包括ケア 介護と医療施設と居宅 施設ケアマネ実務の手引き」(5月)
- ・高齢者虐待防止フォーラム(11月)
- ・地域実践研修「今こそ受けたい 実務研修・専門Ⅰ」(11月)
- ・暮らしに身近な在宅医療(11月)
- ・認知症市民フォーラム(12月)
- ・居宅介護支援事業の市町村への権利移譲に係る事業者説明会(1月)
- ・介護報酬改定の概要等事業者説明会(3月)
- ・介護予防支援ケアマネジメント委託業務事業所説明会(3月)
- ・認定調査員現任研修(2月)
- ・エイジフリー福祉用具展示会(9月)
- ・身元保証セミナー しんらいの会(6月)
- ・祥風会内部研修(5月)
- ・在宅ケア事例検討会(6月、7月、9月、10月、11月、1月)
- ・土浦ケアマネジャー研究会(5月、7月、9月、11月、1月、3月)





平成 29 年度 土浦市在宅介護支援センター憩いの里  
土浦市在宅介護支援センター運営委託事業（新治中地区担当）

1. 特別業務

状 況	件 数	状 況	件 数	状 況	件 数
(1) 台帳作成	12	(2) 緊急通報	4	(3) 配食サービス	2
(4) ニーズ調査	0	(5) 啓発事業	6		

啓発事業では計 6 件実施することができ、脳の活性化プログラム「シナプソロジー」を広めるべく様々なプログラムを行なった。その他、地域包括支援センター・在宅介護支援センターの役割、相談窓口についての説明も行なった。配食サービス・緊急通報システムに関しては、前年度と比較すると計 4 件であり業務合計数は変化なし。新治地区では独居でも同一敷地内に家族がいることが多い為、家族や本人からの依頼があっても設置するまでには至らなかった。

2. 会議出席回数等

件 名	件 数
(1) ふれあい調整会議	7
(2) スクラムネット	12
(3) その他	11
計	30

スクラムネット会議やふれあい調整会議での他職種の方々からの意見を参考にし、連携を図ることができた。引きこもり者や虐待ケースなど困難なケースも多かったが、的確なアプローチすることでスムーズに任務を遂行出来た。今後も他業種との連携を密にし、視野の拡大や困難ケースへの対応を冷静かつ迅速に行ないたい。

3. 相談

(方法×続柄集計)

相談区分		本人	家族	民生委員 近隣	市役所	包括	社協	事業所 病院等	その他	計
業務時間	電話	27	30	18	22	20	24	21	0	162
	来所	5	14	1	1	1		2	0	24
	訪問	86	54	16	5	10	39	12	0	222
時間外	電話	0	2	0	0	0	1	0	0	3
	来所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	訪問	5	4	1	0	0	2	1	0	13
合計	合計	123	104	36	28	31	66	36	0	424

今年度の相談合計数は 424 件と前年度と比較し、182 件増加した。来所数は前年度同様少なかったが、自宅訪問した際に介護保険申請依頼や介護サービスの希望などが多々あり、サービスに繋げることができた。

## (相談区分×続柄集計)

相談区分	本人	家族	民生委員 近隣	市役所	包括	社協	事業所 病院等	その他	計
(1)家族の支援	61	63	16	10	22	30	20	0	222
(2)介護保険制度	64	71	12	17	24	26	18	0	232
(3)福祉サービス	63	55	23	15	21	26	19	0	222
(4)保健・医療	14	17	1	2	9	4	6	0	53
(5)経済・住まい	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(6)地域の困りごと	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(7)その他	94	45	11	14	19	38	12	0	233
(8)二次予防事業	1	0	6	1	0	2	2	1	13
(9)虐待・権利擁護	0	0	0	1	0	0	0	0	1
(10)ケアマネ支援	0	0	0	1	0	0	3	0	4
(11)認知症関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	297	251	69	61	95	126	80	1	980

前年度の 392 件と比較すると 980 件と 2.5 倍に増加している。主に本人や家族からの相談が多く、(2) 介護保険制度や(3)福祉サービスについての内容が多かった。(5) (6) (9) (10) (11) についての相談は少なかったが、その背景には市役所や地域包括支援センターへ直接相談が行っているということがある。

## 4. その他

今年度は「閉じこもり高齢者等の調査把握」を行なった。民生委員や地域ケアコーディネーターと連携し、全 37 件訪問した。留守宅や拒否されてしまったお宅もあったが、他業種の方々と協力して訪問することができた。地域柄なのか同敷地内に家族が住んでいることが多く、家族が見守りを行なっているということもあり、身体機能の低下によって外出できず自宅にこもっている方などに対して、緊急通報システムや配食サービス等の見守りサービスを提供することが出来なかった。

## 5. ケース報告 (平成 29 年度)

①93 歳・女性・長男同居・未申請。家族より相談の連絡有り、自宅訪問する。訪問すると同敷地内の別棟に住んでいる長男と本人がいた為話を伺う。3 日前に自宅(屋根の 1/2 が崩壊していた)内で転倒してしまい寝たきりになってしまった。それまでは家事は全て自身で行なっていた。訪問時、本人は居間でタオルにくるまれており、3 日間側臥位で失禁した状態だった。本人より身体が痛いとの訴えが聞かれた為長男に確認し救急要請する。その後メディカルセンターへ搬送される。翌日、長男より「昨日筑波メディカルセンターへ入院した」と連絡有り。当日午後病院に行くとのことで合わせて病院で待ち合わせし、介護保険申請代行する。

②82 歳・男性・妻同居・未申請。朝、憩いの里職員より藤沢小前を下着姿、裸足で道路を渡っていた高齢者がいたと話有り。すぐに藤沢小近辺を見回りに行くと、服を着ており靴も履いていた目撃情報に似た男性が側道を歩いているのを発見。先の道で車を回し戻ると、下坂田交差点のコンビ二前を歩いていた。その時は近くに女性は付き添っている様子だったが念のため声掛けする。話を聞くと女性は本人の妻で話を聞く事が出来た。本人数年前から様子がおかしく 3 年前は自転車に乗り、転倒して肋骨を骨折した。土浦協同病院受診したがいちはら病院を紹介され、受診したが本人頑固で 2 日で退院した。それ以降この病院も受診出来ていない。本人病院嫌いの様子。自宅は本人、妻の 2 人暮らしで家事は妻が

すべて行なっている。介護保険は申請していないとのことで申請代行や介護保険サービスの内容等説明したが、もう少し様子を見たいとのことで介護保険申請は保留となる。

③88歳・女性・次男夫婦同居・未申請。家族より同居している義父母の介護保険申請をお願いしたいと依頼あり自宅訪問する。約10年前より次男夫婦と同居。現在夫の面倒を見ており、夫が入浴を拒否している為、清拭介助している。しかし最近は自分の薬の管理が出来なくなってきており、物忘れも酷くなってきた。何度も同じ話を繰り返し、対応に困っている。本人は介護保険申請に消極的だったが、次男嫁の説得に渋々納得されたようで申請代行を行なう。現在も夫婦で自宅裏に設置してあるプレハブの中で閉じこもっている。自宅から出ることはほぼ無く、社交的ではないが外出して買い物をするのが好きと嫁より。しかし、病院受診した際、主治医より問題無いと言われたが本人は歳だからと消極的になっている。入浴に関しても家族が入るよう勧めても歳だから疲れるからと入浴せず。3~4日前にようやく1入浴してくれたが、次入浴してくれるのはいつになるかと心配。本人は通所介護サービスを勧めても施設に入所させられてしまうと考えている。

④77歳・女性・独居・未申請。民生委員より訪問依頼有り、コーディネーターと同行訪問。三男も同席し話を伺う。頸椎からくる体調不良が続き、入浴もまともに出来なくなってきたとのことで介護保険を申請し介護サービスを利用したいと考えていると話有り。本人と家族へ介護保険の流れを説明し、申請代行を行なう。

⑤女性・次男同居・申請中。高齢福祉課より訪問依頼あり。日中独居。同居の息子は朝早く仕事に行き、帰りは20時頃まで帰ってこない。筑波メディカルセンターで首のオペをしたが、下を向いたままで上を向けない状態。自宅内の移動は何とか出来ている。両膝の軟骨がすり減ってしまい、左膝を2度、右膝を1度筑波大病院でオペをした。自身でもそろそろ介護保険を申請したいと考えていたとのことで、介護保険申請代行をする。1週間ほど前自宅台所で転倒し、冷蔵庫に頭を打ちコブができた。2日後に筑波メディカルセンターを受診し、嘔吐が無ければ大丈夫と先生に言われた。現在も週1回、広瀬医院へリハビリに通院している(家族送迎)。出来れば送迎付きのデイサービスやリハビリ出来る所に通いたい。しかし、現在通っている広瀬医院のリハビリも続けていきたいとの事で家族と相談し連絡すること。



平成 29 年度 飛羽ノ園デイサービスながみね  
 指定通所介護・介護予防通所介護事業  
 土浦市介護予防・日常生活支援総合事業  
 (通常規模型・利用定員 25 名)

1. 運営

平成 29 年度は『自助・互助・共助・公助』を重点目標とした。介護のこと、老後のことなどの心配事をまず「ながみね」に聞いてみようと思っ頂ける施設を目指し奉仕作業（中村地区・乙戸地区へ計 4 回）を行った。奉仕作業については、すぐに結果として現れる取組ではないため、今後も引き続き行っていきたい。

また、下半期は、これまでのサービス提供のあり方を見直し、質の向上を目指すべく、既存の設備の中でいかに有効に人材、設備を利用し、効率化できる部分は改善するという試みに着手して年度を終えた。その中でも、有効スペースの活用として機能訓練エリアを設置したが、利用者にも好評で積極的に訓練に励む利用者が増えたと感じる。更に、これまで利用されていなかった畳スペースを開放することで、「次は何が始まるのか」というご利用者様からの期待の言葉も多く聞かれ、来年度に向け畳スペースを使った新たなレクリエーションを提供したいと考えている。

実績報告としては稼働率・請求額共に昨年から一転し減少という結果となり、目標には及ばなかったが、年末から年度末にかけては常に微増を継続し、最終月が年度で最も良い稼働率となり上昇傾向で年度を終えることができた。この傾向を来年度に引き継げるよう周知方法、営業方法も見直し、本格的に開始する『総合事業』でも選んで頂ける施設を目指す。

2. 物品購入・修繕報告

物品名・修繕箇所	種別	評価
フードカッター	購入	様々な食事形態の方へのスムーズな対応が可能になった。
掃除機	購入	初期不良があったがその後は問題なく使用できている。
シャワーキャリー	その他	以前から使用していたモデルと同様の為非常に使いやすい。

3. 実績報告

(1) 月別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運営日(日)		26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	24	305
実人数(名)		35	31	32	33	30	33	36	35	37	37	40	43	422
延人数(名)		279	268	288	293	273	273	300	279	261	273	288	338	3,413
平成 28 年度	平均利用者数(名)	16.0	14.5	16.2	16.4	14.1	15.7	14.8	13.8	15.4	14.1	15.4	14.5	15.1

	稼働率 (%)	42.9	41.2	44.3	45.1	40.4	44.0	46.2	42.9	43.5	45.5	48.0	56.3	45.0
平成 29 年度	平均利用者数 (名)	10.7	10.3	11.1	11.3	10.1	10.5	11.5	10.7	10.9	11.4	12.0	12.5	11.1
	稼働率 (%)	64.2	58.0	64.6	65.5	56.5	62.8	59.4	55.2	61.7	56.3	61.7	58.1	60.3
稼働率 (%) 前年度比		△21.3	△16.8	△20.3	△20.4	△16.1	△18.8	△13.2	△12.3	△18.2	△10.8	△13.7	△1.8	△16.0

(2) 年間利用状況の推移

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
延利用者 (名)	5,028	5,954	6,097	5,415	5,242
稼働率 (%)	65.6	78	78.8	70.4	68.8
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
延利用者 (名)	4,064	4,454	4,646	3,413	
稼働率 (%)	52.8	57.9	60.3	44.3	

(3) 年間請求状況 (介護報酬分のみ)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	前年度比
4 月	2,345,297	3,076,917	2,730,555	△346,362
5 月	2,275,302	2,920,079	2,443,730	△476,349
6 月	2,722,152	2,837,267	2,224,420	△612,847
7 月	2,771,612	3,120,572	2,324,907	△795,665
8 月	2,788,891	3,291,185	2,282,447	△1,008,738
9 月	2,859,172	2,790,297	2,055,783	△734,514
10 月	2,687,304	2,883,067	2,232,918	△650,149
11 月	2,961,836	3,033,209	2,446,118	△587,091
12 月	2,584,192	2,741,353	2,133,884	△607,469
1 月	2,423,170	2,705,154	1,999,052	△706,102
2 月	2,397,688	2,428,218	2,056,487	△371,731
3 月	2,675,769	2,721,956	2,079,427	△642,529
合計	31,492,385	34,549,274	27,009,728	△7,539,546
月平均報酬額	2,624,365	2,879,106	2,250,810	△628,296
1 人当たり単価	7,071	7,436	7,913	477

(4) 介護度別利用状況

要介護度	平成 28 年度		平成 29 年度		前年度比	
	延人 (名)	構成比 (%)	延人 (名)	構成比 (%)	延人 (名)	構成比 (%)
支 1	265	5.70	196	5.74	△69	5.60
支 2	243	5.24	138	4.04	△105	8.51
1	1,367	29.42	1,196	35.04	△171	13.87
2	1,466	31.55	1,152	33.76	△314	25.47

3	475	10.22	176	5.16	△299	24.25
4	464	9.99	359	10.52	△105	8.51
5	366	7.88	196	5.74	△170	13.79
介護保険外	0	0	0	0	0	0
計	4,646	100	3,413	100	△1,233	100

#### 4. 事業報告

##### (1) サービスの質の向上への取組

利用者はもちろんのこと、家族・ケアマネジャーからのご要望やご意見を活かして細かな部分まで対応することができた。内部研修等を通してスキルアップや他デイサービスでの取組などを知り、質の向上に努めた。

##### (2) 通所介護・介護予防通所介護計画書作成

利用者の状態変化に配慮し、リスクが生じた場合にはすみやかに家族・ケアマネジャーへ報告し、介護計画書の見直しに努めた。また、筋力やADLの向上が見られた場合には自立した生活を送って頂くためにも本人にとってステップアップしたサービス内容に変更するようにした。また、そのような変化を把握した家族やケアマネジャーから喜びの声が聞かれた。今後も通所介護計画書の内容を職員間で確認・熟知するよう努めていきたい。

##### (3) 入浴サービス（入浴者数・入浴率報告）

バイタルチェックをもとに他職員と連携し、安全に入浴ができるように努めた。入浴メインで利用されている方もいる。バイタルの数値が良くない方などへの声掛けや対応の方法を看護師と連携し、今後ともそういった方が気持ちよく安心して入浴できるよう体制を整える。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利用延人（名）	279	268	288	293	273	273	300	279	261	273	288	338	3,413	
入浴延人（名）	238	236	246	250	231	232	254	213	220	225	241	285	2,871	
入浴率 （%）	平成29年度	78.4	80.9	78.3	80.3	78.2	78.4	79.8	78.3	81.4	83.1	79.7	78.8	79.6
	平成28年度	85.3	88.1	85.4	85.3	84.6	85.0	84.7	76.3	84.3	82.4	83.7	84.3	84.1
前年度比（%）	6.9	7.2	7.1	5.0	6.4	6.6	4.9	△2.0	2.9	△0.7	4.0	5.5	4.5	

##### (4) 食事サービス

※後述「7. ながみね厨房業務」参照。

##### (5) 排泄介助サービス（定時・随時）

プライバシーには十分配慮した。定期的な声掛けで失禁が減った、車イスでトイレに行けるようになった、ベッドではなくトイレで排泄できるようになった等の自立へ向けた排泄介助を主軸として介助を行った。

##### (6) レクリエーション・行事

外出行事・個別のレクリエーションに新たなものを取り入れることができず、また個別活動も上手く進めることができなかった。水中ウォーキングの日数を1日増やすことで新規利用者の利用にも繋がっ

た。利用者より「自分達で栽培した野菜を食べたい」という意見があり、畑を一から作り収穫する所まで利用者で行い、喜んで頂いた。来年度は更に利用者一人一人の希望に沿った行事やレクリエーションを考え満足度を高めたい。

【レクリエーション・行事参加状況（実施回数もしくは参加人数）】

レクリエーション・行事名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水中ウォーキング	2	6	8	8	13	15	7	7	6	0	9	14	95
フットケア	13	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
外出会	38	0	24	0	0	3	3	19	0	16	0	0	103
買い物会	0	9	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	17
創作レク	0	0	0	34	30	0	0	30	30	0	19	20	163
散歩	33	3	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	40
おやつ教室	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	88	24	36	52	45	20	12	62	38	18	30	36	461

(7) 個別機能訓練（介護）・運動器機能向上（予防）サービス

加算算定は行っていないがそれぞれの残存機能に応じた声掛け・見守り・一部介助での日常生活動作等のリハビリを実施した。四肢の運動機能低下による転倒防止、平行棒を利用した歩行訓練階段昇降での運動機能向上に努めた。個別リハでは、理学療法士による個別プログラムを作成して身体能力に合わせたものを実施した。毎日、食前の口腔体操やカラオケによる心肺機能の維持向上にも努めた。水中ウォーキングも定着してきている。毎月1回の個別機能訓練計画モニタリングを実施している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
機能訓練（名）	4	11	5	5	6	8	8	7	8	5	8	5	80
運動器機能（名）	35	31	32	30	29	32	34	33	35	35	35	38	399
合計	39	42	37	35	35	40	42	40	43	40	43	43	479

(8) 送迎サービス

【送迎状況】

事故防止と個々に合わせたルートや時間の調整等、利用者やご家族の要望に応えられるよう努めた。今年度は大きな事故はなかった。

回	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
迎え	312	300	309	308	296	306	326	303	276	288	296	344	3,664
(減算)	14	6	8	8	3	0	1	6	4	1	2	5	58
送り	305	294	312	308	291	299	320	305	279	286	296	342	3,637
(減算)	21	12	5	8	9	7	7	4	1	2	2	7	85
延回数	652	612	634	632	599	612	654	618	560	578	596	698	7,444



【送迎車両走行距離】

km	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キャラバン	437	258	529	628	643	521	387	793	1,780	896	428	288	7,588
MPV	924	888	895	936	863	671	820	1,057	718	736	621	758	9,887
セレナ	380	813	930	859	796	889	802	1,052	782	741	620	820	9,484
ムーブ	748	750	823	669	726	767	728	1,026	852	777	610	992	9,468
ワゴンR	287	372	309	292	239	595	659	811	462	615	509	707	5,857
合計	2,776	3,081	3,486	3,384	3,267	3,443	3,396	4,739	4,594	3,765	2,788	3,565	42,284

\*外出行事使用（走行）分を含む。他事業所使用（走行）分を除く。

(9) 看護報告（処置集計報告）

利用者本人への声掛けによる体調確認やバイタルチェックをすることで個々の体調を把握して利用者に合わせ負担にならないようにサービスを提供できた。利用者の希望に応じて軟膏塗布・湿布貼付・点眼・内服薬の管理を行った。爪切りや耳かきも本人・家族では行えない方や希望される方に実施した。口腔ケアに対しては来所時と食後に実施し清潔保持・感染予防・誤嚥による肺炎予防に努めた。突然の体調不良時などは家族・ケアマネジャーに連絡し迅速な対応ができた。足浴（フットケア）導入により下肢の倦怠感が軽減し血流改善し睡眠がスムーズになったという声も聞かれた。毎月1回、全利用者の体重測定を行い、家族やケアマネジャーへの報告を行なっている。

【処置集計】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
爪切り	19	26	18	22	16	14	15	16	13	21	12	12	204
軟膏塗布	35	47	56	61	62	34	36	27	39	50	55	47	549
点眼	50	61	54	30	30	19	23	14	12	15	17	9	334
内服薬	137	184	139	162	158	152	148	147	120	117	112	145	1,721
体重測定	38	32	35	34	33	35	37	34	36	38	37	37	426
合計	279	350	302	309	299	254	259	238	220	241	233	250	3,234

(10) ヒヤリハット報告

【平成29年度 アクシデント・インシデント・トラブル報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒・転落	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	5
転倒・転落・ふらつき	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	5
転倒・ふらつき・外傷	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
車両の物損・スピード・接触	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
送迎時間・利用日間違い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
備品物損・書類等紛失・その他紛失	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
誤った対応	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	2	0	0	0	5	4	2	1	1	3	0	2	20

(11) 地域連携・貢献活動（介護予防教室等）

ふれあいセンター共催での夏祭り・もちつき大会等実施した。来年度は地域へ活動の場を広げ、廃品回収・地域行事等にも積極的に参加して行きたい。

(12) 実習生・ボランティア受入

夏祭りに愛のwind orchestra Hoahale O kuwana(フラダンス)、敬老会には琴のボランティアの方々に来館頂いた。利用者からは「満足の声」が聞かれた。今後は新規・新しいジャンルのボランティアの開拓をはじめ、積極的な受入を行う。

【実習生・ボランティア受入報告】

種別	学校名	実人数 (名)	延日数 (名)
実習	筑波大学	7	7
合計		7	7

ボランティア名	来園回数 (回)
こもればの会	24
この指とまれ	2
カ・ナニ・フラ・グループ(フラダンス)	1
コールブラウエ・ヒンメル(コーラス)	1
愛のwind orchestra Hoahale O kuwana(フラダンス)	1
琴さらりん	1
合計	30

5. 利用者状況

(1) 登録利用者

	平成 28 年度			平成 29 年度		
	登録者数 (名)	新規利用者 (名)	利用終了者 (名)	登録者数 (名)	新規利用者 (名)	利用終了者 (名)
4 月	50	2	0	40	1	0
5 月	52	0	0	41	0	3
6 月	52	1	2	38	2	3
7 月	51	0	0	36	2	1
8 月	51	0	1	36	1	0
9 月	50	1	0	38	4	0
10 月	51	1	1	41	3	5
11 月	51	0	1	41	2	2
12 月	49	1	2	43	5	4
1 月	49	0	1	41	1	0
2 月	48	0	2	43	3	0
3 月	46	2	2	45	4	1
合計	600	8	12	483	28	19

## (2) 介護度別登録利用者

	平成 28 年度 (平成 29 年 3 月 31 日現在)		平成 29 年度 (平成 30 年 3 月 31 日現在)		前年度比	
	実人 (名)	構成比 (%)	実人 (名)	構成比 (%)	実人 (名)	構成比 (%)
要介護度						
支 1	3	6.98	4	9.30	1	2.32
支 2	3	6.98	3	6.98	0	0
1	13	30.23	15	34.88	2	4.67
2	14	32.55	10	23.26	△4	△9.26
3	4	9.30	5	11.62	1	2.33
4	3	6.98	3	6.98	0	0
5	3	6.98	3	6.98	0	0
介護保険外	0	0	0	0	0	0
計	43	100	43	100	0	—

## (3) 利用者年齢構成

年齢 (歳)	平成 28 年度 (名) (平成 29 年 3 月 31 日現在)		平成 29 年度 (名) (平成 30 年 3 月 31 日現在)		前年度比 (名)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
～64	0	0	0	1	0	1
65～69	1	1	0	1	△1	0
70～74	2	3	3	4	1	1
75～79	2	3	1	2	△1	△1
80～84	1	10	3	15	2	5
85～89	3	6	6	5	3	△1
90～	3	12	2	7	△1	△5
男女別合計	12	35	15	35	3	0
男女比	26	74	30	70	4	△4

## (4) 町内別 (市外含む) ・中学校区別登録利用者 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

○町内別 (市外含む)

地区	登録者数	地区	登録者数	地区	登録者数
中	2	霞ヶ丘	1	板谷	1
中村南	3	小岩田東	2	荒川沖東	1
乙戸	2	永国東	4	中高津	1
烏山	3	中村東	1	上高津	1
西根南	3	天川	3		
荒川沖西	1	北荒川沖	1	市外	登録者数
小松	2	摩利山新田	1	並木 (つくば)	3

○中学校区別

地区	登録者数
一中地区	1
二中地区	0
三中地区	18
四中地区	13
五中地区	0
六中地区	8
都和中地区	1

荒川沖	3	うずら野	1	下広岡(つくば)	1	新治中地区	0
下高津	2	城北町	1	阿波崎(稲敷)	1	朝日中地区	1
中村東	1	右靱	1	ひたち野東(牛久)	1	市外	6
				合計	48	合計	48

## 6. 職員勤務体制

### (1) 平成 29 年度 個人反省

職種 勤続年数	氏名 (経験年数)	反省
生活相談員 8年6ヶ月(8年10ヶ月)	佐藤 堅	思うように、稼働率を増やすことが出来なかった。新しい職員の経験や考え方等を学びながら成長し、また、利用者様の満足度を高め、様々な方に選ばれるデイサービスを目指す。
看護職員 14年11ヶ月(20年7ヶ月)	河田 さち子	利用者様の健康状態、栄養状態がうまく把握できなかった。
看護職員 10年5ヶ月(44年6ヶ月)	小島 秀代	職員・パート全員での話し合いがないのが残念。全員で時間を作り、話し合いがほしい。
看護職員 6年8ヶ月(42年6ヶ月)	糟谷 友子	健康管理を目標にしたが、職員の自己管理が十分だったか？
看護職員 1年3ヶ月(31年9ヶ月)	駒井 恵美子	処置・内服等確認しながらミスなく実施することができた。看護師間で利用者様の情報が上手く共有できないことがあった。今後検討し改善していく。
介護職員 9年5ヶ月(9年7ヶ月)	鈴木 由佳里	体調を崩すことが多くなり、しっかりと体調管理ができなかった。
介護職員 3年6ヶ月(3年6ヶ月)	中嶋 芳枝	利用者様の方々と、ゆっくり落ち着いて会話ができればよかった。
介護職員 2年3ヶ月(5年10ヶ月)	小山 園美	接遇を日々心がける事を忘れてしまった。
介護職員 1年7ヶ月(5年1ヶ月)	星野 ノーナ	自身の家族の事や体調を崩すことが多く、迷惑をかけてしまった。来年はしっかりと体調管理をしていく。
調理員 18年(20年7ヶ月)	鈴木 陽子	献立作成が遅く、いつもギリギリになってしまった。
調理員 17年4ヶ月(40年4ヶ月)	世永 良子	手首を骨折した為、仕事を休むことになってしまったことを反省しました。

\* 「勤続年数」基準日は平成 30 年 3 月 31 日現在。「経験年数」は他事業所での経験年数との合算。

## ながみね厨房業務

利用者にとって食事は日々の大きな楽しみであると同時に、健康を左右する大切な要素の一つである為、一人ひとりの嗜好と栄養状態にあった食事の提供に努めた。その中で季節感を大切に、利用者に喜ばれるメニュー作りを心掛けた。また、選択食の実施やおやつ作りなどを通して選ぶ楽しみ、作る楽しみを体感して食への関心を持つ手助けをしていく。

### 1. 栄養所要量

	栄養所要量								
	エネルギー	たんぱく質	脂質	カルシウム	鉄	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食塩
	(kcal)	(g)	(g)	(mg)	(mg)	(mg)	(mg)	(mg)	(g)
4月	688	28.1	18.0	194	4.4	0.38	0.45	56	4.0
5月	674	27.6	16.8	173	4.1	0.39	0.41	49	3.9
6月	678	27.2	18.0	187	4.4	0.39	0.41	47	4.3
7月	649	25.5	16.5	166	4.2	0.37	0.37	48	4.1
8月	671	28.0	17.9	182	4.4	0.39	0.41	50	4.5
9月	669	26.7	17.8	173	4.2	0.38	0.44	47	4.1
10月	663	26.1	16.7	176	4.0	0.37	0.38	51	4.0
11月	687	26.7	17.8	162	3.8	0.36	0.42	48	4.0
12月	678	27.4	17.5	180	4.4	0.40	0.43	56	4.3
1月	684	26.7	17.7	177	4.2	0.34	0.42	52	4.3
2月	684	26.5	18.2	176	4.2	0.39	0.42	50	4.0
3月	671	27.3	16.9	184	4.1	0.36	0.42	48	4.3
平均	675	27.0	17.5	178	4.2	0.38	0.42	50	4.2

### 2. 食事提供状況

#### (1) 食数

	平成 28 年度	平成 29 年度
デイ利用者	4,468	3,555
職員	1,003	1,170
お弁当、定食 (500 円)	711	610
おにぎり (100 円)	551	0
実習生	7	38
新人研修弁当	0	0
ケアマネジャー食事会	39	0
他 (付添、体験利用者)	11	25
飛羽ノ園デイサービス利用者	45	0

(2) 毎食時の検食実施（検食簿記入）

利用者の視点で、主食・副食の分量や味付け、加熱状況などが適切となっているか他業種の職員がチェックすることで、検食等の内容をもとに調理法など、より良い提供ができるよう努めた。

検食者名		分量	多い	普通	少ない
	主食	炊き方	硬い	普通	柔らかい
		献立	分量	多い	普通
	副食	味付け	濃い	普通	薄い
		盛り付け	良い	普通	悪い
		加熱状況	高い	普通	低い
	異物混入		ある（ ）	ない	
	異味・異臭		ある（ ）	ない	
	所見				

(3) 行事食

誕生会や季節の行事には出来るだけ手作りにこだわり、メニューを作成した。旬の物を使用し、季節を感じてもらえるよう心掛けた。また、おやつ作りではホットプレートを使い、目の前でできたてを食べたりトッピングやデコレーションで自分だけのおやつを楽しんだ。

(4) 選択食

選択食は、自分で選ぶことの楽しさが利用者の食欲に結びついていると考えられる。聞き取りを行なう上で、利用者とのコミュニケーションを図りながら、食事の摂取状況や嗜好の再確認を行う事も出来た。

日時	A	B
H29.4.21	チキンロール	メバルの蒲焼風
H29.5.27	海老フライ	信田焼き
H29.6.21	豚肉のさっぱり生姜焼き	タラのカレー風マリネ
H29.7.20	茄子の挟み揚げ	五彩ハンバーグ
H29.8.25	茄子の挟み揚げ	インゲンの豚肉巻
H29.9.23	鶏肉ときのこのホイル焼き	タラの甘酢あんかけ
H29.10.26	チキンロール	鮭と野菜の味噌焼き
H29.11.15	蓮根つくね焼き	鮭のチャンチャン焼き
H29.12.15	韓国風そぼろ丼	中華丼
H30.1.20	鮭のチャンチャン焼き	鶏肉のトマト煮
H30.2.28	煮込みハンバーグ	鮭ときのこのホイル焼き
H30.3.17	鶏肉と野菜のトマト煮	タラのきのこあんかけ

### 3. 衛生管理

- (1) 検便 毎月実施 新規採用者は入職前に必ず検査する
- (2) 食品の中心温度の測定の実施（測定結果は給食日誌に記入）
- (3) 原材料及び検食の冷凍保存の実施（14日間）
- (4) 害虫駆除の実施（年4回）  
平成24年5月28日から（株）ダスキンによる害虫駆除の実施及び発生状況の確認
- (5) 厨房内の定期的な清掃の実施(自己衛生管理表に記入)
- (6) 包丁・まな板・調理台・水槽の使い分けの徹底、時間・温度の管理
- (7) 自主点検表による白衣、爪、指輪、マニキュアの有無、手指の傷の有無、下痢・腹痛等の体調不良のチェック
- (8) 食材の定期的な放射性物質測定を毎月実施
- (9) 厨房外下水清掃を毎月実施

### 4. 売り上げ・食材仕入れ額

9月より生鮮食を扱う業者を増やし、地元の野菜を安く仕入れが出来る様になった。冷凍品や加工品が値上がりするなか、新鮮で安い地元の食材をうまく活用していく。

### 5. 嗜好調査の実施

2月に利用者や家族にアンケートを実施。また、介護職員・看護職員と連携し、利用者からの要望を聞き取り、食事の様子を厨房職員も一緒に観察することで嗜好を把握した。





## 平成 29 年度 土浦市ふれあいセンターながみね 土浦市指定管理者受託事業

### 1. 運営

土浦市唯一の「ふれあいセンター（～子どもから高齢者まで幅広い年齢層が利用できる複合的福祉施設～）」としてその役割である幅広い年齢層の世代間交流、また利用者の健康増進や文化的交流促進のため、地域・市民及び各種団体等との連携を図りながら市民の福祉の向上に資するための運営に努めた。

施設利用者と共に明るく楽しく安心して利用できるふれあいセンターを目指し、センターの中心設備であるプールと浴室を皆様に快適に使って頂けるよう日常の管理業務を適切に実施した。

- (1) 市民の福祉の増進を図るとともに世代間交流を支援し、広く福祉の向上に資することを目的とした管理運営を行った。
- (2) 施設の適切な維持管理及び効率的な運営に努めた。
- (3) 業務にあたっては、関連する法規を遵守した。
- (4) 利用者に対するサービス提供に努力し、利用の促進を図った。
- (5) 土浦市個人情報保護条例に基づき、個人情報の保護を徹底した。

平成 23 年度に土浦市から指定管理者として運営を受託し、平成 27 年 10 月の指定管理者選定委員会を経て平成 28 年度～平成 32 年度の 5 年間も祥風会が指定管理者としてふれあいセンターながみねの運営を担うこととなった。過去の反省点・改善点等を活かしながら新しい取組にも力を入れた。

開館より 14 年余りが経過していることから建物・設備等の修理・交換も多々あった。特にプールでは、給湯ポンプ故障により 11/10～11/20 の間プール・浴室の営業を中止し、また、外気調和機の管破裂により 12/19～1/30 の間プールの営業を中止しなければならず皆様にご迷惑をおかけした。

平成 29 年 12 月 1 日付けで管理者（所長）の交代があり、職員の皆さんには不安と心配をおかけする中で上記のような故障が重なりご迷惑をかけることが多かったと感じているが、皆さんの力で乗り越えることができ、落ち着いた状況で 29 年度の営業を無事に終えることができた。

来年度も引き続き、ふれあいセンターの役割をしっかりと認識した上で「本来あるべき姿（～子どもから高齢者まで幅広い年齢層が利用できる複合的福祉施設～）」の実現に向かってビジョンを持ち、安定した経営・新しい取組を通して地域の方々に有効活用して頂けるような施設を目指し、計画的・積極的に活動していく。

### 2. 事業報告

#### (1) 施設の運営

##### ①職員配置

～祥風会～

○管理者：梶川純孝（～H29.11.30）、沼尻知士（H29.12～）

○管理職員：篠崎加代子・北島きよ子・邊見祐子・高橋佑次・河田坦・抜井望・大槻やよい

～業務委託～

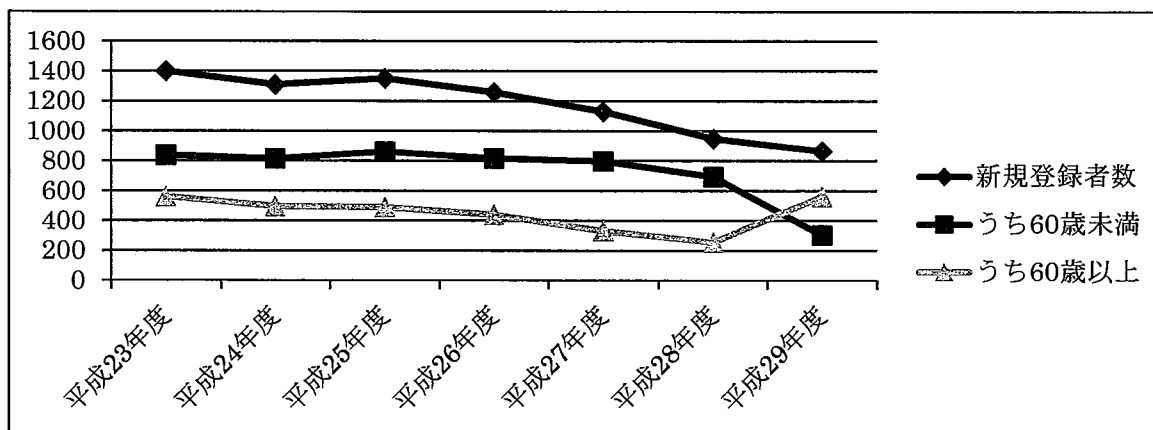
○（株）ビート：浴室・プール管理、機械設備管理、清掃業務、受付業務

○（株）荒川沖ハイヤー：送迎バス運転業務

## ②市内利用者登録証の発行、プール・浴室、各部屋の利用状況

平成 22 年度から市内・市外の利用料金区分が変更されたことに伴い、市内の利用者については登録証を発行しており、当初 1 年間であった有効期限も平成 23 年度より 3 年間に変更している。

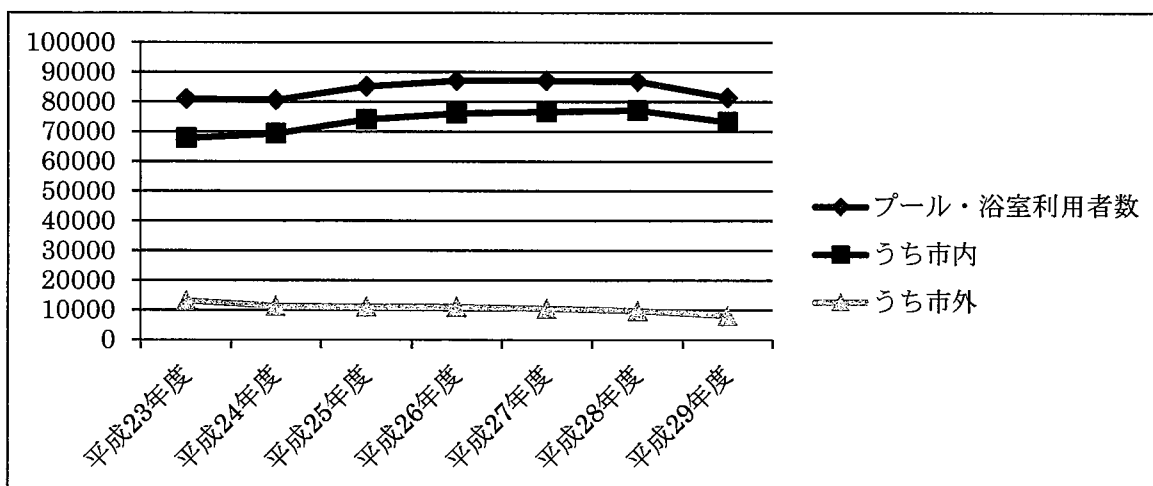
【新規登録者数の推移と年齢別の内訳（名）】



登録者延人数は 11,957 名(平成 30 年 3 月 31 日現在)、今年度の新規登録者数は 866 名、前年度の 91.2% と減少しており、過去最低の新規登録者数となった。有効期限が 3 年間あることも新規登録者の減少に影響していると考えられるが登録証の発行開始から新規登録者の減少が継続している。但し、更新申請者は大幅に増加し、利用者の定着を感じることができる。新規登録者の中で最も目立つのは 60 歳未満の登録者が大幅に減少し、60 歳以上の登録者が増加するという逆転現象が起きたことである。この現象が今年度のみであるか、これをきっかけに逆転状態にシフトするのかについては、来年度の状況と併せて検討したい。

しかしながら、全体として利用者が増えるための努力は継続しなければならず、今後も新規利用者（登録者）の獲得が安定した運営（経営）に影響を与えることをしっかりと認識した上で更なる周知活動を通して土浦市民・近隣住民の方々に有効に活用して頂ける施設作りを目指す。

【プール・浴室利用者数の推移（名）】

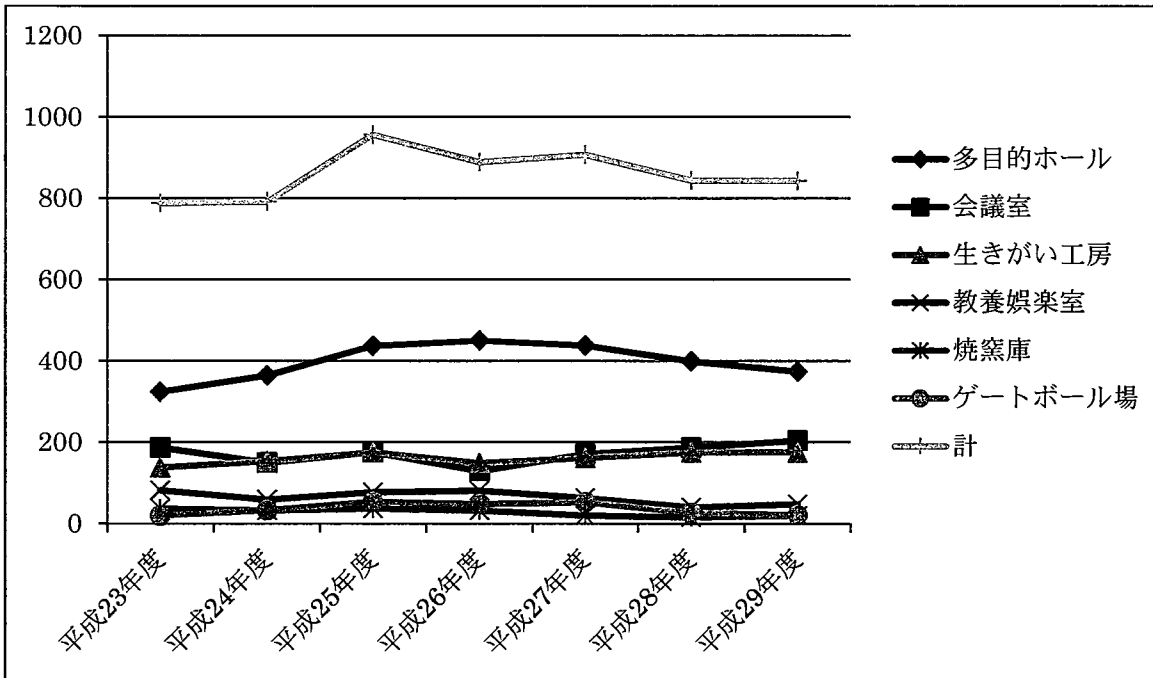


施設のメインであるプール・浴室においては利用延人数 81,336 名（内減免・無料利用者数は 17,407 名）で、前年度の約 93.6%（減免・無料利用者数は前年度の 86.9%）に留まり、3 年連続の減少となった。プールについては、12 月中旬に発生した外気調和機の故障により 1 月いっぱいまで利用ができなく

なり、利用再開の際にホームページにて周知はしたが、思うように浸透せず、利用者が戻るまでに時間がかかったという事実は否めない。

来年度は上記の課題と併せて、市内に限らず、市外（特に隣接しているつくば市）の方々の利用率増加となるアピール力（周知活動）の強化が今後の課題となっている。

【各部屋利用回数の推移（回）】



各部屋利用回数合計は 842 回、前年度とほぼ同数となっている。唯一の有料スペース（減免・無料もあり）である多目的ホールの利用回数合計は 374 回、前年度比は約 6.3%の減少となっており、収入面では微減となり、無料での使用が減り、有料での使用が増えたと思われる。

趣味室は来館された方が自由に囲碁や将棋を行うことで交流の場となっており、ほぼ毎日利用されている。焼窯庫については現在 1 団体のみの利用となっており、市の施設として幅広い方々に利用して頂けるよう検討していくことが必要である。その他、会議室・生きがい工房・教養娯楽室は利用許可こそ必要ではあるが無料のため、市内に限らず、市外の団体も利用されている。

各部屋の利用が増え、幅広い年齢層の世代間交流、利用者の健康増進や文化的交流促進等、福祉の向上に貢献することで本来の役割を果たせていると考える。しかしながら、多目的ホール以外は無料となっており、安定した運営のためにも適切な受益者負担が必要であるとも考える。

### ③福祉の増進及び世代間交流促進に寄与する事業

併設デイサービスと合同で夏祭り・もちつき大会を開催するなどデイサービスでの活動を知って頂く機会を設けたが一方で福祉活動団体の利用促進や介護予防教室などへの取組は不十分であった。但し、年度半ばにキッズスペースを設け、プールやお風呂上りにそのまま帰宅するのではなく、子供たちが遊んでいる間、ご両親はゆっくりと過ごされる光景が見られるようになり、子育て世代の方々にも活用して頂けるきっかけになりつつあると感じる。

今後は各種行事を施設一体となって協力し、多くの方々に参加してもらえよう企画するとともに世代間交流がしやすい施設となるよう環境整備に力を入れていきたい。

#### ④浴槽・プール等の水質管理

センターの主設備である浴槽・プールは運営上重要な位置づけであり、利用者の方が多く利用する設備である。ながみねではレジオネラ属菌の検査を基準以上の回数で実施する等、水質の管理・清掃の徹底で利用者が安全に利用できる施設として衛生管理に努めた。

○7/10 浴槽・15m プール・ワールプール配管洗浄

#### ⑤センターの活性化対策（新しい取組など）

中庭の花壇整備やイルミネーションは変わらず好評で今後も力を入れていきたい。また、施設内の環境整備に力を入れ、施設内の備品の見直しを行い活用方法を変えるなどして施設内の雰囲気を変えることができた。この変化については、ご利用者様にも評判がよく、職員とご利用者様の会話も増えるきっかけとなった。

○8/20 夏祭り（つちまる着ぐるみ・土浦市観光協会など）

○9/18 敬老の日（市内在住 60 歳以上の方に無料利用券配布、先着 30 名に紅白ひよこ配布）

○10/31 イルミネーション点灯開始（～H30.2.28）

○12/28 もちつき大会

○1/4 新年大抽選会

○3 月 雛飾り設置

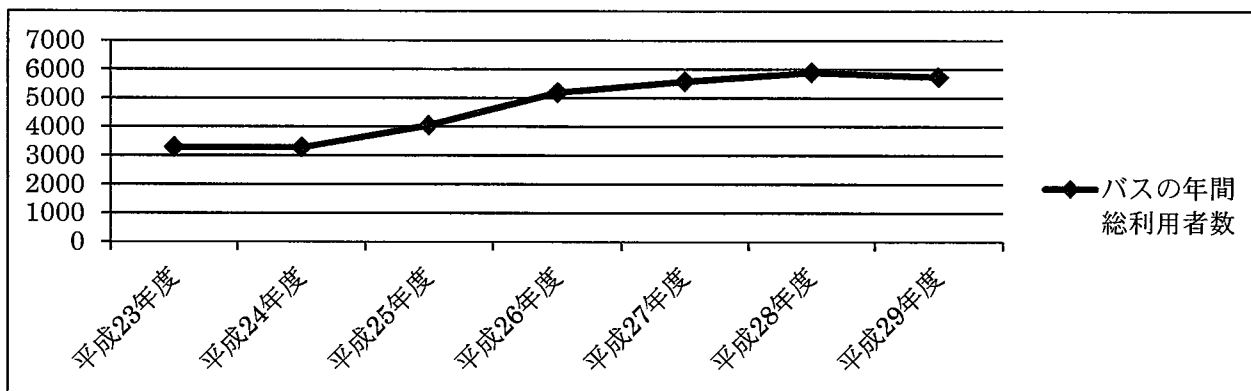
#### ⑥運営における安全確保

平成 23 年に防犯カメラを設置した。不特定多数の方が利用する公共施設であるため、犯罪抑止効果、また職員が安心して働ける環境という点でも大きく寄与している。また、営業時間中は定期巡回、営業時間外は自動警備を行い、防犯・防火に努めた。

#### ⑦バスによる団体送迎・定期送迎の実施

\* 乙戸地区ルート：（日）（水）（金） \* 中村地区ルート：（火）（木）（土）

【定期巡回バス利用者数の推移（名）】



団体送迎は主に高齢者クラブが利用している。定期送迎バスについては利用者数が多いとは言えないが一定の需要はあり、前年度の1便あたりの利用者数を検討した結果、大型バスから10人乗りのハイエースに交換した。但し、車が小さくなったこともあり主に3便目の定期送迎については、月に数回程、乗車希望者が10名を超えることがあり、その際はピストン運行又はデイサービスの空き車両を利用して4便目の運行をすることで対応し、特に大きな問題は起こらなかった。

また、ハイエースに変更したことにより、普通免許で運転することができるため、今年度をもって委託を終了し、新たに専属の運転手を直接雇用とした。尚、新たに雇い入れた運転手については送迎時間以外はデイサービス車両の洗車を始め、環境整備でも力を発揮して頂けることになっており、費用対効果はかなり大きいと期待できる。

来年度も指定管理料の適正な運用を含め、土浦市と共に費用対効果・運行目的の確認・巡回ルートの見直し等について引き続き協議していく必要性が高い。

○10/19 大型バスの引揚完了し、ハイエース納車までの間はデイサービスのキャラバン使用

○1/5 ハイエース納車

#### ⑧その他センターの管理運営に必要な業務

##### ○他施設との連携

定期的に他福祉センターとの会議を行うことによりお互いの問題を共通の課題として認識することができた。今後も他福祉センターはもちろん、高齢福祉課・警察・保健所等各機関と連携を図り続ける必要がある。

\* 老人福祉センター・ふれあいセンター長会議 (6/13・9/20・12/20・3/20)

##### ○委託業者との連携

機械設備、プール・浴室管理、清掃の業務委託を一括して(株)ビートに委託している。日常的な報告・連絡・相談はもちろんであるが月1回(第4木曜日)の定期会議を実施し、情報・課題の共有と問題解決を通して連携の強化を図ることができた。

\* CPR 講習実施 (3/26)

##### ○経費削減の実施

運用にかかる水光熱費は支出全体の1/3あまりを占めている。今後も継続して経費削減案を実行し、利用者の不便とならない範囲で支出の見直しに努める。

#### (2) 施設及び設備等の維持管理

委託業者と連携を図り、運営に支障がないよう設備機器について日常的点検・清掃を行い、安全かつ快適に利用できる環境作りに努めた。開館から14年経過しているということもあり、設備の老朽化・消耗等による修理・修繕も多々あった。緊急対応を要する場合には迅速に土浦市に連絡・指示・協力を仰ぐことにより、大事に至らず運営を続けることができた。

#### ①建物の維持管理

○6/8 ジャグジー用プロワーモーター部品交換

○8/21 男子浴槽用水位センサー配管修理、塩素測定用ラインポンプ交換

○8/31 レイドバック用インバーター工事

○9/4 男女浴槽用給湯配管工事

○9/25 給湯室給湯器修理

○11/10 給湯ポンプ故障(ふれあいシャワー全般、Ds浴槽、Dsシャワー使用不可により、ふれあいのプール・浴室利用休止)⇒11/20 ポンプ交換完了

○11/14 ボイラーコントローラー交換

○11/20 事務所・スタッフルームエアコン修理

- 1/25 外気調和機の交換修理完了
- 3/27 職員・デイサービス側自動ドアの修理完了

## ②消防設備保守点検

- 7/24 消防機器点検
- 1/22 消防設備点検

## ③電気設備

- 毎月 電気工作物点検
- 2/26 自家用電気工作物年次点検（全館停電）

## ④給排水設備

- 9/11 貯水槽・貯湯槽清掃及び点検

## ⑤機械日常管理業務委託

- 6/8 ジャグジー用ブロワーモーター部品交換
- 8/21 男子浴槽用水位センサー配管修理、塩素測定用ラインポンプ交換
- 8/31 レイドバック用インバーター工事
- 9/4 男女浴槽用給湯配管工事
- 11/10 給湯ポンプ故障(ふれあいシャワー全般、Ds 浴槽、Ds シャワー使用不可により、ふれあいのプール・浴室利用休止)⇒11/20 ポンプ交換完了し営業再開
- 11/14 ボイラーコントローラー交換
- 12/19 外気調和機故障(管破裂)によりプールの室温調整不能となる。⇒H30.1.25 取替工事完了し、1.30 からプール営業再開

## ⑥地下燃料タンクの保守管理

- 11/24 重油地下タンク漏洩検査・点検
- 消防署による立入検査

(3) その他施設の運営に関わる維持管理

### ①防火管理

- 防火管理者：管理者（所長） 梶川純孝 ⇒ 沼尻知士
- 消防法に基づく点検（消防機器点検・自衛消防訓練・消防設備点検）
- 10/31 煤煙検査

### ②運動プール及び浴室等の衛生管理

- 定期清掃（毎月第4月曜日）：年計12回
- 水質検査（毎月第4火曜日）：年計11回（プール設備利用中止の間の1回は実施せず）

### ③センター内の保安警備

- 開館時間内：職員による定時巡回・目視による確認。
- 開館時間外：24時間体制での機械（警備保障会社）による監視。

### ④施設清掃業務

- 日常清掃業務に加え、専門業者委託により床・カーペット・脱衣室・エアコンフィルター等の清掃を実施した。
- 害虫駆除：5月22日／7月10日／8月28日

⑤廃棄物処理

○廃棄物搬出：毎週水・土曜日（清掃センターへ）

⑥緑地の維持管理

○季節に応じた維持管理をすることで気持ちの良い環境整備に努めた。

⑦緊急時の対応

○入浴中やプール遊泳中の体調悪化を防止するために注意喚起や巡視の徹底を行った。緊急時は一体となって利用者の生命を第一に対応し、特に併設デイサービス開館中は看護師との連携を重視した。今年度は浴槽内の湯温を 40.5℃に設定し、「湯あたり」「ヒートショック」予防に努めた結果、その症状を訴えた利用者は減少した。

⑧防犯・防災対策

○防犯・防災・緊急時の対応マニュアルを整備。また、併設デイサービスとの合同避難訓練を年 2 回、同一法人事業所である特別養護老人ホームの夜間避難訓練（6/21）にも参加した。

(4) センターの管理運営

①プール・浴室の管理運営

○監視職員は外部委託を行うが施設の運営上、プール・浴室の管理は重要な位置づけであることをそれぞれに理解し、訪れた方が繰り返し利用したいと思う施設になるよう努めた。

②送迎バス運転の管理運営

○送迎バスの運行は外部委託を行い大きな事故もなく定期送迎・団体送迎を実施できた。

(5) センターの各種報告・調査及び統計資料の作成

○毎月 10 日に月報（実績）を土浦市へ報告。

○平成 29 年度年報作成し、土浦市へ提出。

3. 自主事業

(1) 講座の開催

○委託業者である（株）ビートと共同で講座を開催した。プール設備が使用できない期間があったが、講座回数を増やすことができ、結果として前年度よりも多くの方に参加頂けた。講座をきっかけにふれあいセンターを知ったという方も多く、また市報への情報掲載等によって施設の周知に繋げることができた。今後も幅広い年齢層の世代間交流、また利用者の健康増進や文化的交流促進のため、地域・市民及び各種団体等との連携を図りながら市民の福祉に対する関心度を高めていきたい。

【講座開催回数（回）・参加延人数（名）】

回数 人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	水中 ウォーキング	3	3	4	0	0	1	4	1	3	4	5	1
水中ウォーキ ング(初心者)	48	41	59	0	0	17	65	16	38	54	69	13	422
水中ウォーキ ングプラス	3	3	4	0	0	1	4	3	2	4	5	1	30
	49	45	46	0	0	17	58	31	30	51	58	10	395
	3	3	4	0	0	1	4	3	2	4	5	1	30
	51	43	61	0	0	15	53	44	27	52	67	10	423

書道教室 (A)	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	22
	18	16	14	18	0	18	16	16	18	11	10	13	168
書道教室 (B)	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	22
	16	12	16	12	0	22	21	22	23	22	22	22	210
英会話教室 (A)	3	3	5	4	3	4	4	4	4	3	4	4	45
	15	13	24	19	12	19	20	16	19	11	19	18	205
英会話教室 (B)	3	3	5	4	3	4	4	4	4	3	4	4	45
	7	9	14	12	8	12	12	12	10	9	10	11	126
英会話教室 (C)	3	3	5	4	3	4	4	4	4	3	4	4	45
	23	22	37	29	21	28	31	27	30	22	28	28	326
幼児 英会話教室	3	3	5	4	3	4	4	4	4	3	4	4	45
	9	9	15	11	8	11	11	12	11	8	10	12	127
体力 アップ編	3	3	4	0	0	1	4	3	2	3	4	3	30
	35	36	45	0	0	16	60	48	23	32	41	28	364
かんたんスト レッチ体操	3	3	2	0	0	1	4	4	1	3	4	3	28
	8	9	5	0	0	1	4	4	1	3	4	3	183
ベース体幹 フィットネ	3	3	4	4	0	2	4	4	2	3	4	3	36
	48	47	67	48	0	26	56	57	27	48	59	47	530
アクア ZUNBA	0	0	0	0	0	1	4	1	3	4	5	1	19
	0	0	0	0	0	5	30	3	17	27	26	5	113
ケーナ 教室	1	2	2	1	0	0	0	0	0	2	2	2	12
	10	18	18	10	0	0	0	0	0	16	18	19	109
合計(回数)	35	35	48	25	12	28	48	39	35	43	54	31	433
合計(人数)	337	320	421	159	49	207	437	308	274	366	441	239	3558

※プール設備を使用した講座（水中ウォーキング、水中ウォーキング（初心者）、水中ウォーキングプラス、アクア ZUNBA）については、1月にプール利用ができなかったため、1月→2月、2月→3月、3月→4月に開催した。

## (2) デイサービスとの連携

○デイサービスとの一体運営ということで特にデイサービス看護師との連携によって、体調不良者（湯あたり等）への対応を迅速かつ適切に行うことができ、救急搬送は1件あったが大事には至らなかった。また、夏祭りや餅つき大会の共催により、互いの利用者の交流や施設の周知活動に活用できた。

## (3) 野菜販売

○委託業者である（株）ビート主体となり、毎週火・木・金曜日の午前中に野菜販売を定期的実施した。プール・浴室・講座等の利用目的以外にセンターへ来館される方々も多く見られ、野菜販売は定着してきているが、お客様が買いやすく職員が販売しやすいように提供方法の見直しを行いカウンター方式とした。これによりお客様は選びやすく、職員は管理しやすくなり効果があったと考える。今後も野菜販売に限定せずとも地域・市民の方々が気軽に来館できる環境の整備に努める。



#### 4. 経営について

まず、プール・浴室利用延人数は 81,336 名で前年度の 93.6%と減少し、3 年連続の減少となった。利用料収入（多目的ホール利用料含む）合計は 13,807,990 円で前年度の 91.9%となり前年の増加から一転して減少となった。

○先述したプール・浴室利用延人数は 81,336 名、前年度の 93.6%と減少し、3 年連続となった。利用料収入（多目的ホール利用料含む）合計も 13,807,990 円と前年度比約 8.1%（1,211,430 円）減少し、過去 5 年間で最高であった昨年から転落となった。減少の原因の一つとして 11 月の浴室・プール営業中止と 12 月中旬から 1 月末までのプール利用中止があると考え、12 月から 1 月までのプール中止期間については、浴室利用者の大きな減少は見られず、季節的なものも関係していると考え。

登録申請については、新規登録者数が前年の 949 名から 866 名と減少する一方、更新申請が今年の 625 名から 904 名と大幅に増加し、リピーターが多いことがうかがえる。

部屋利用に関しては、唯一の有料スペース（減免・無料もあり）である多目的ホールの利用回数合計は 374 回で前年度から 25 回減り、前年度比は約 6.3%の減少となっているが、収入面での減少は 1,530 円にとどまっており、これは無料で利用できる団体の利用回数が減り、有料で利用される団体の回数が増えたことで、収入面で大幅な減少にはならなかったと考える。

定期・団体送迎バスは実際の利用者数と比較するとかなりオーバースペックであったため、今年度の 10 月に大型バスを廃止し、1 月から 10 人乗りハイエースへ変更した。車体変更により、普通免許証で運転可能となったため、今年度をもって運転手の委託を終了し、直接雇用とした。これらの変更による効果は来年度明らかになると考える。

#### ○今後のビジョン

指定管理受託 6 年間の内で単年度黒字化を実現できたのは平成 27 年度の 1 年のみである。今後も当センターが市民・地域住民のふれあいの場・交流の場であり続けるためにも安定した経営を模索し、無駄は省き、必要なものは安定して提供できるよう運営していきたい。今後も水光熱費等の節約・周知活動等は継続しつつ、指定管理料の適正な運用を含め、ふれあいセンターにおける適切な受益者負担の妥当性・費用対効果等、「経営」についても土浦市と協議していく必要性が高いと考える。

#### 5. 職員勤務体制

##### (1) 平成 29 年度 個人反省

職種	氏名	反省
	勤続年数(経験年数)	
管理者	沼尻 知士	12 月より管理者として異動し周囲の協力の下、施設内の機器トラブルや苦情に対応することができた。また、施設内備品の活用方法の見直しを通して費用をかけずに職場環境の改善を行うことができ、新年度へ向けての準備ができた。トラブル等の初動について改善の余地があると考え。
	5 年(4 ヶ月)	
管理職員	篠崎加代子	お風呂・プールの利用できない期間がありましたが、苦情も少なく対応できたと思う。
	7 年(14 年 4 ヶ月)	
管理職員	北島きよ子	自分なりに気をつけてやってきたと思います。
	7 年(13 年 8 ヶ月)	

管理職員	高橋佑次	利用者に不快な思いをさせぬよう一つ一つ丁寧な対応を心がけた。来年度は全職員で対応の意識をもち、施設全体で優れたサービスを提供したい。
	6年(6年)	
管理職員	邊見祐子	課せられる仕事の時間を作ることに成功するも、本来の目標とは違ってしまった。
	14年(14年)	
管理職員	河田 坦	多くのご家族が来館され、リピーターも多くなったと感じた。この先も新しいご利用ご家族が増えるようにしたい。
	7年(7年)	
管理職員	抜井 望	接客がまだぎこちない状態なので、もう少し頑張りたいです。
	1年11ヶ月(1年11ヶ月)	
管理職員	大槻やよい	笑顔での対応はできたと思う。
	1年11ヶ月(1年11ヶ月)	